

FMV-BIBLO

MC3/45

本体 & オプションガイド

初めてお使いいただくときに必要な操作と、添付品やオプション機器の使いかたについて説明しています。梱包物を確認したあと、まずお読みください。

FMV-BIBLO



- 最初に行う作業

- 本パソコンの取り扱いかた

- オプション機器を使う

- ハードウェア環境を設定する

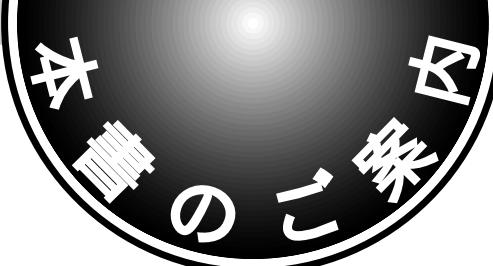
- 困ったときには

- 仕様一覧

- 付録

- 索引

FUJITSU



このたびは、FMV-BIBLO MC3/45(以下、本パソコンと表記します)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本パソコンは、コンパクトなボディに多彩な機能を詰め込んだパーソナルコンピュータです。本書は、本パソコンの基本的な操作や、オプション機器の使用方法などについて説明しています。

本書をよくお読みになり、本パソコンを正しくお使いいただきますようお願いいたします。また、本書およびその他のマニュアルは、大切に保管していただきますようお願いいたします。

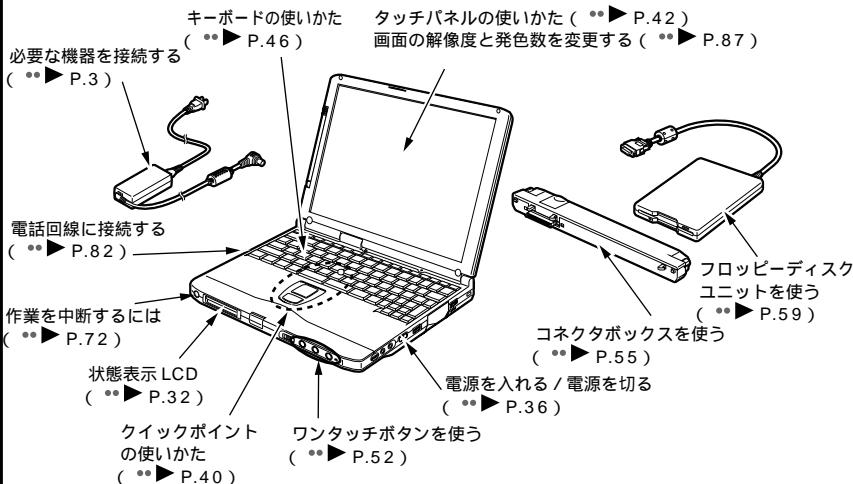
2000年2月

最初に行う作業

本パソコンを使いはじめるときに必要な、Windows98のセットアップについて説明しています。(▶ P.1)

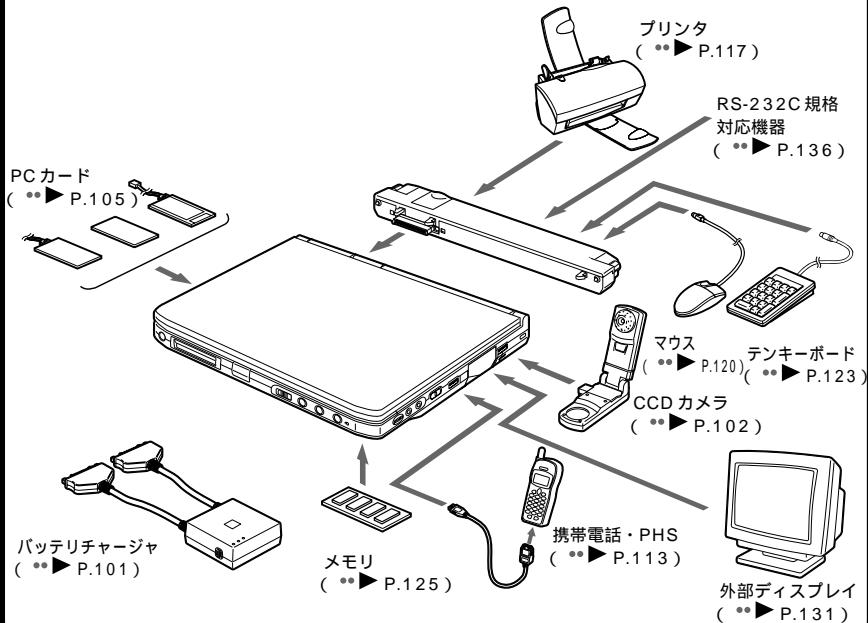
本パソコンの取り扱いかた

本パソコンの基本的な取り扱いかたについて説明しています。



オプション機器を使う

別売のオプション機器の取り付けかたなどを紹介しています。



ハードウェア環境を設定する

BIOS セットアップの操作方法や設定内容、パスワードの設定方法について説明しています。通常お使いになる範囲では、これらの操作は必要ありません。
(参照 P.141)

困ったときには

「パソコンが動かない」、「エラーメッセージが表示された」など、トラブル時の対処方法について説明しています。
(参照 P.169)

安全にお使いいただくために

- 添付の冊子『安全上のご注意』には、当製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に『安全上のご注意』をご熟読ください。
『安全上のご注意』をよくお読みになり、ご理解されたうえで本パソコンをお使いください。また、『安全上のご注意』は、本パソコンをお使いになるときいつでもご覧いただけけるよう、大切に保管してください。弊社は、お客様の生命、身体や財産に被害を及ぼすことなく安全にお使いいただくために、細心の注意を払っています。本パソコンをお使いになる際は、マニュアルの説明に従ってください。
- 本パソコンには、当製品を安全にお使いいただくために、警告ラベルが貼付されています。

この装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会が定める高調波ガイドラインの適用対象外です。

本パソコンの使用環境は、温度 5 ~ 35 、湿度 20 ~ 80 %です。また、保存環境は温度 -10 ~ 60 、湿度 20 ~ 80 %です。

当社は、国際エネルギー省エネルギー化促進プログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギー省エネルギー化促進プログラムの基準に適合していると判断します。



国際エネルギー省エネルギー化促進プログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(マーク)は、参加各国の間で統一されています。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください(詳しくは、保証書をご覧ください)。
- ・修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- ・本パソコンの保守部品の供給期間は、製造終了後6年間とさせていただきます。

使用許諾契約書

このたびは、富士通株式会社(以下弊社といいます)製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。弊社では、本パーソナルコンピュータ(以下本パソコンといいます)にインストール、もしくは添付されているソフトウェアをご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただけますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの特定ソフトウェアに関する「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において同時に1台のコンピュータでのみ使用できます。
なお、お客様は本パソコンのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1式の予備用(バックアップ)媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
 - 1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2」および「3」の場合に限定されるものとします。本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合は、複製できません。
 - 2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、お客様は本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェアを第三者へ譲渡する場合には、お客様が保有する本ソフトウェアの複製物のすべてを破棄するか、本ソフトウェアとともに第三者に譲渡してください。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルを伴うリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
お客様は、「FMV-BIBLO」ロゴ入りの壁紙を変更したり、第三者へ配布することはできません。
8. アフターサービス(保証の範囲)
 - 1) 弊社は、お客様が「ユーザー登録カード」を弊社宛にご返送いただいた場合、本パソコンをご購入いただいた日から1年間、本ソフトウェアの改訂版(レベルアップ版等)に関する情報等をお知らせいたします。
 - 2) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥(破損等)がある場合、本パソコンをご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
 - 3) 弊社は、前各号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害(逸失利益、事業の中止、事業情報の喪失、その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします)に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
 - 4) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は弊社が行う上記1)および2)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。

富士通株式会社

本書の表記について

安全にお使いいただくための絵記号について

下の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。内容をよくご理解のうえ、本文をお読みください。

⚠️ 警告	⚠️ 注意
この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

また、危害や損害の内容がどのような種類のものかを区別するために、上記の表示と一緒に次のような記号を使っています。

記号の例とその意味	
	示した記号は、警告・注意を促す事項があることを告げるものです。記号の中には、具体的な警告内容を示す絵(左の例の場合は感電注意)が示されています。
	示した記号は、してはいけない行為(禁止行為)であることを告げるものです。記号の中には、具体的な禁止内容(左の例の場合は分解禁止)が示されています。
	示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中には、具体的な指示内容(左の例の場合はACアダプタをコンセントから抜いてください)が示されています。

その他の記号について

	お使いになるときに注意していただきたいことや、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作する前に確認していただきたいことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関する事を記述しています。必要に応じてお読みください。
	知っていると便利なことを記述しています。必要に応じてお読みください。
	覚えていただきたい用語を解説しています。パソコンを初めてお使いになる方はぜひお読みください。
◆▶	ご覧になっていただきたいマニュアルや、参照先を記述しています。

画面例および入力例

- 掲載されている画面およびイラストは開発中のものです。実際とは異なる場合があります。また、お使いのモデルによって、画面が若干異なることがあります。
- お客様に入力していただく文字列(コマンドライン)などには、入力例の文字上に  をかけて表しています。
- 特に指定がない場合、英数字、記号は半角で入力します。また、大文字と小文字の区別はありません。
- 入力時に空白を入れる必要がある場合は、以下のように表しています。
`dir c:`
この場合は、「dir」と入力したあとに  (スペースキー)を1回押し、続けて「c:」と入力してください。
- 掲載されている画面例は、2000年1月現在のものです。

製品の呼びかたについて

製品名称を、次のように略して表記しています。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98 または Windows
Microsoft® WindowsNT® Workstation Operating System Version4.0	WindowsNT4.0
Microsoft® MS-DOS® operating system Version 6.2/V	MS-DOS
Microsoft® Internet Explorer	Internet Explorer
Microsoft® IME 98	MS-IME98
VirusScan for Windows 95/98	VirusScan
FMV オンラインユーザー登録 V2.1 L10	FMV オンライン ユーザー登録

機種名の表記について

FMV-BIBLO MC3/45 を、本パソコンと表記しています。

目 次

本書のご案内

本書の表記について

第1章 最初に行う作業

1.	作業の流れと必要なもの	2
	作業の流れ	2
	作業に必要なもの	2
2.	Windows 98 のセットアップをする	3
	必要な機器を接続する	3
	セットアップをはじめる	5
3.	リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー	12
	リカバリ CD-ROM 起動ディスクをコピーする	12
4.	ユーザー登録	15
	ユーザー登録を忘れずに	15
	FMV オンラインユーザー登録をする	16

第2章 本パソコンの取り扱い方

1.	各部の名称と働き	24
	本体前面の操作箇所	24
	本体左側面の操作箇所	26
	本体右側面の操作箇所	28
	本体背面の操作箇所	30
	本体下面の操作箇所	31
	状態表示 LCD	32
	ワンタッチボタン	34
2.	電源を入れる / 電源を切る	36
	電源を入れる	36
	電源を切る	38
3.	クイックポイント の使いかた	40
	クイックポイント の働き	40
	クイックポイント の使いかた	41
4.	タッチパネルの使いかた	42
	タッチパネルの働き	42
	タッチパネルの使いかた	42
	タッチパネルの調整のしかた	44

5.	キーボードの使いかた	46
	キーの配列と機能	46
	テンキーモードの働き	47
	主なキーの使いかた	47
6.	文字入力のしかた	50
	日本語を入力できる状態にする	50
	ローマ字入力とかな入力の切り替え	51
	入力モードを切り替える	51
	文字の種類を変える	51
7.	ワンタッチボタンを使う	52
	アプリケーションを起動する	52
	アプリケーションの割り当てを変更する	53
8.	コネクタボックスを使う	55
	コネクタボックスの各部の名称と働き	55
	コネクタボックスを取り付ける	56
	コネクタボックスを取り外す	57
9.	フロッピーディスクユニットを使う	59
	フロッピーディスクユニットを取り付ける	59
	フロッピーディスクユニットを取り外す	60
	フロッピーディスクユニットの注意事項	61
	使用できるフロッピーディスク	62
	フロッピーディスク取り扱い上の注意	63
	フロッピーディスクをセットする／取り出す	63
	フロッピーディスクユニットのお手入れ	65
10.	バッテリで使う	66
	バッテリを充電する	66
	バッテリの残量表示を確認する	68
	バッテリ取り扱い上のご注意	70
	バッテリパックを交換する	71
	作業を中断するには	72
	節電の設定を変更する	76
11.	電話回線への接続と所在地情報の設定	80
	接続前の確認と準備	80
	電話回線に接続する	82
	所在地情報の設定と切り替え	83
12.	画面の解像度と発色数を変更する	87
	表示できる解像度と発色数	87
	解像度と発色数を変更する	88
13.	ボリュームコントロールで音量を設定する	93
	「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示する	93

第3章 オプション機器を使う

1.	オプション機器を使用するには	96
	使用できるオプション機器の種類	96
	ご購入時に気をつけること	97
	オプション機器のデバイスドライバについて	98
2.	オプション機器の活用例	99
	今日の出張に持って行こう！(外で使う編)	99
	出張のまとめは今日中にやっておこう(家で使う編)	100
3.	バッテリチャージャを使う	101
	バッテリチャージャの使いかた	101
4.	CCDカメラを使う	102
	CCDカメラの各部の名称と働き	102
	CCDカメラを接続する	103
5.	PCカードを使う	105
	PCカードのご使用上の注意事項	105
	使用できるPCカードの種類	106
	用意するもの	106
	PCカードを本体にセットする	107
	PCカードを取り出す	108
6.	CD-ROMドライブを使う	110
	専用PCカードが添付されている場合	110
	市販のSCSIカードと組み合わせて使う場合	111
7.	携帯電話やPHSを使う	113
	USBコネクタを使って接続する	113
	接続用のPCカードを使って接続する	115
8.	プリンタを使う	117
	用意するもの	117
	プリンタを接続する	118
9.	マウスを使う	120
	マウスを接続する	120
	マウスの使いかた	122
10.	テンキーボードを使う	123
	テンキーボードを接続する	123
11.	メモリを増やす	125
	拡張RAMモジュールを取り付ける	126
	拡張RAMモジュールを取り外す	128
	メモリの容量を確認する	130

12.	外部ディスプレイを使う	131
	用意するもの	131
	外部ディスプレイを接続する	131
	表示装置を切り替える	133
	外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数	135
13.	RS-232C 規格対応のオプション機器を使う	136
	シリアルコネクタの接続のしかた	136
14.	USB 規格対応のオプション機器を使う	138
	USB コネクタの接続のしかた	138
15.	外付けのハードディスクを使う	139
	用意するもの	139
	作業の流れ	140

第 4 章 ハードウェア環境を設定する(BIOS セットアップ)

1.	BIOS セットアップが必要なときは	142
	BIOS セットアップが必要になるのは	142
2.	BIOS セットアップの操作	143
	BIOS セットアップを開始する	143
	設定を変更する	144
	変更を保存して終了する	146
3.	ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す	148
	標準設定値に戻すには	148
4.	各メニューでの設定内容の詳細	150
	「メイン」メニュー	150
	「詳細」メニュー	151
	「セキュリティ」メニュー	156
	「省電力」メニュー	158
	「起動」メニュー	161
	「情報」メニュー	162
	「終了」メニュー	163
5.	BIOS のパスワード機能を使う	164
	パスワードを設定する	164
	パスワードを入力する	166
	パスワードを変更 / 削除する	167

第5章 困ったときには

1.	困ったときのQ & A	170
2.	BIOS が表示するメッセージ	178
	BIOS が表示するメッセージ一覧	178
	エラーメッセージが表示されたときは	184
3.	それでも解決できないときは	185

第6章 仕様一覧

1.	仕様一覧	192
	本体仕様	192
	CRT ディスプレイの走査周波数について	195
	リソース一覧	196
	コネクタのピン配列と信号名	197

付録

1.	ハードディスクの領域を設定する	200
	設定の手順	200
2.	Save To Disk 領域の作成	208
	Save To Disk 領域とは	208
	Save To Disk 領域の容量	208
	Save To Disk 領域を作成する / 変更する	209
3.	ACPI モードについて	212
	ACPI モード使用時の注意事項	212
	ACPI モードに設定する	214
	ACPI モードで使う際のヒント	219
4.	その他の注意事項	220
	お問い合わせをする前に	220
	保証期間について	221
	修理を依頼する前に	221
	モジュラーケーブルのコアについて	222
	マルチモニタ機能を使う	223
	PS/2 マウスのホイール機能について	226
	索引	227

1

最初に行う作業

本パソコンを使い始めるとき、必ず行わなければならない作業について説明します。

1. 作業の流れと必要なもの 2
2. Windows 98 のセットアップをする 3
3. リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー 12
4. ユーザー登録 15

1

作業の流れと必要なもの

本パソコンを使うには、まずWindows98のセットアップ作業を行う必要があります。ここでは、作業全体の流れと、作業に必要なものについて説明します。

作業の流れ

必要な機器を接続する



セットアップをはじめる



リカバリCD-ROM起動ディスクをコピーする



ユーザー登録をする

作業に必要なもの

以下のものをご用意ください。

- ・パソコン本体、コネクタボックス、フロッピーディスクユニット、ACアダプタ
- ・本パソコンの保証書
- ・リカバリ CD-ROM 起動ディスク（フロッピーディスク）
- ・「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のラベル(1枚): コピーしたフロッピーディスクに貼ります。

以下は市販のものをご用意ください。

- ・2HD フロッピーディスク(1枚)
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピー用

2

Windows98 のセットアップをする

ここでは、初めて電源を入れてWindows98を使用できるようにするまでの作業を説明します。

必要な機器を接続する

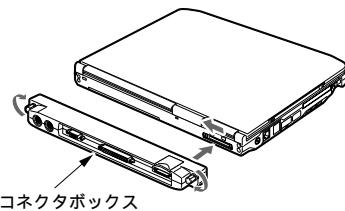
Windows98のセットアップを始める前に、必要な機器を接続します。

△ 注意

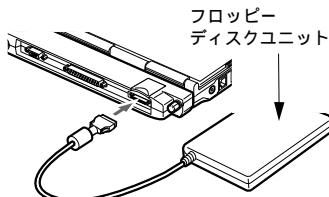
故障 間違えないように接続してください。

! 誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。

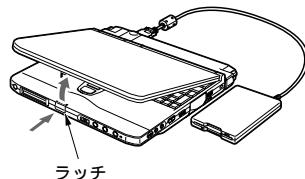
- 1 コネクタボックスを取り付けます。
詳しくは、「コネクタボックスを使う」(▶ P.55)をご覧ください。



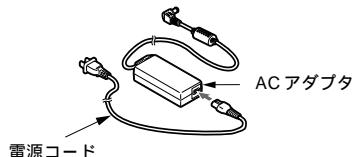
- 2 フロッピーディスクユニットを接続します。
詳しくは、「フロッピーディスクユニットを使う」(▶ P.59)をご覧ください。



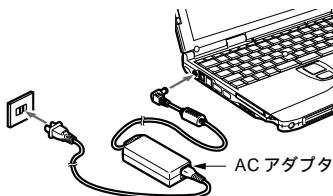
- 3** 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押しながら少し持ち上げ、パソコン本体に手を添えて見やすい角度に調整します。



- 4** ACアダプタに電源コードを接続します。



- 5** 本パソコンにACアダプタを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



重 要

本パソコンの取り扱いについて

- **振動や衝撃に注意！**
パソコンを自転車のかごに入れて走っていませんか？
とくに、電源が入っているときは扱いに気を付けてください。データを読み書き（状態表示LCDに○が表示）しているときに動かすと、ハードディスクが壊れる危険があります。
- **水分は大敵！**
クーラーの効いた部屋から、炎天下の屋外へ移動した場合など、急に周囲の温度が上がると、パソコン本体内部に結露が起こり誤動作の原因になります。また、うっかりジュースなどの液体をキーボードにかけたりすると、ショートするおそれがあります。
- **磁気のあるものを近づけない！**
パソコンは磁気を使ってデータを保存します（ビデオやカセットテープと同じです）。大切なデータを守るために、磁気ブレスレットをしてパソコンを使ったり、パソコンに磁石を付けたりしないでください。

セットアップをはじめる

セットアップとは、本パソコンでWindows98を使えるようにする作業です。初めて電源を入れたときに行います。

本書の手順どおりに進めてください。

重 要

セットアップ時の注意について

- ・コネクタボックスおよびフロッピーディスクユニット以外のオプション機器(メモリ、プリンタ、PCカードなど)は、セットアップが終了してから取り付けを行ってください。セットアップの前に取り付けると、セットアップの途中で本パソコンが正常に動作しないことがあります。
- ・セットアップ中は、MAINスイッチをOFF(○側にスライド)にしないでください。OFFにすると正常にセットアップが行えなくなるおそれがあります。

アドバイス

クイックポイントで操作してください

本パソコンでは、「タッチパネル」または「クイックポイント」を使ってマウスポインタを操作します。ご購入時には、タッチパネルは調整されていませんので、ここでの操作はクイックポイントで行ってください。

「クイックポイントの使いかた」(▶ P.40)

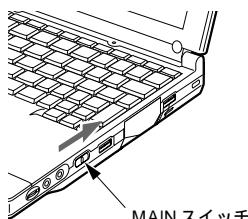
1

MAINスイッチをONにします。

パソコン本体右側面にあるMAINスイッチを○側から|側へスライドさせます。

状態表示LCDに①などが表示され

ます。



電源が入ると、本パソコンは、パソコン内部の装置をチェックする「起動時の自己診断テスト」を自動的に行います。

起動時の自己診断テストが終了して約2分くらいたつと、「Windows98へようこそ」というウィンドウが表示されます。

アドバイス

画面が真っ暗になったときは

セットアップの途中で、しばらく（約4分間）操作をしないと、画面が真っ暗になる場合があります。これは、省電力機能が働いたためです。この場合は、クイックポイント

に触れてください。セットアップ画面に戻ります。セットアップ画面に戻らないときは、サスPEND / レジュームスイッチ(SUS/RESスイッチ)($\bullet\bullet\blacktriangleright$ P.25)を押してください。

「次へ」ボタンと「戻る」ボタンの操作

「次へ」：次の画面に進むときにクリックします。通常は、このボタンで進みます。

「戻る」：前の画面に戻るときにクリックします。

セットアップが進められなくなったときは

次の手順にしたがって本パソコンの電源を入れ直してください。

1 MAINスイッチをOFFにします。

2 10秒以上たってから、もう一度MAINスイッチをONにします。

2

お名前を入力し、「次へ」をクリックします。

「ふりがな」は入力する必要はありません。



「次へ」をクリックすると、「モデムを使って接続する」というウィンドウが表示されます。

3

「スキップ」をクリックします。

ここでは何も入力する必要はありません。

「スキップ」をクリックすると、「ダイヤルのキャンセル」というウィンドウが表示されます。

- 4** 「はい」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
 「Windowsユーザー使用許諾契約」ウィンドウが表示されます。
- 5** 使用許諾契約にご同意いただけるときは、「同意する」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
 を押しながら を押して画面をスクロールさせ、使用許諾契約の内容をよくお読みください。



重 要

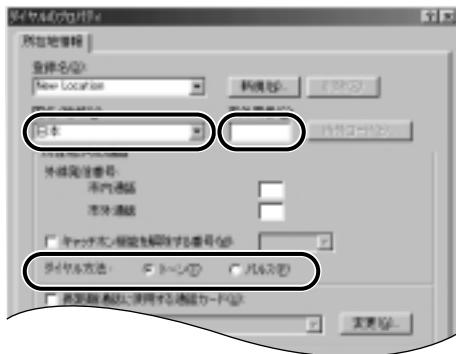
同意していただけない場合

使用許諾契約に同意していただけないときは、「同意しない」をクリックして にしてから「次へ」をクリックし、画面の指示に従って電源を切ってください。同意していただけないと、本パソコンはお使いになられません。
 元の画面に戻るときは、表示された画面で「いいえ」をクリックし、「次へ」をクリックしてください。

- 6** 「はじめよう！インターネット」というウィンドウで「次へ」をクリックします。
 「セットアップの完了」というウィンドウが表示されます。
- 7** 「完了」をクリックします。
- ここまでに入力した内容がWindowsに登録され、続いてその他の設定が自動的に行われます。
 設定が終わると、「日付と時刻のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

8 「閉じる」をクリックします。

9 「国名／地域」が「日本」になっていることを確認し、「市外局番」と「ダイヤル方法」を設定します。



アドバイス

所在地情報について

- 所在地情報は、インターネットなどの通信を行うときに必要となる情報です。所在地情報の各項目には、通信を行うときに本パソコンに接続する電話回線の情報を設定します。
- 本パソコンを携帯して移動先の室内的電話回線や、携帯電話で通信を行う場合は、その状況にあった所在地情報が必要です。
複数の所在地情報を設定する方法は「所在地情報の設定と切り替え」(▶ P.83)をご覧ください。

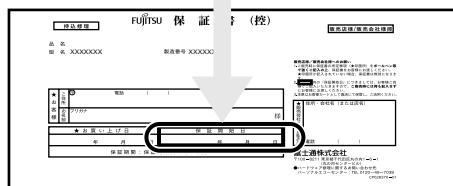
設定項目について

- 市外局番がわからないときは、適当な数字を入力して先に進んでください。設定は、あとから変更できます。
- 外線発信番号は、一般のご家庭ではほとんど必要ありません。会社やホテルで「0」をダイヤルしてから回線につなぐ場合などに必要です。
- ダイヤル方法は以下のように選択します。
トーン：プッシュ回線(ダイヤルしたときに電話機から「ピッポッパッ」と音がする)
パルス：ダイヤル回線(ダイヤルしたときに電話機から「ブツブツブツ」と音がする)
どちらかわからないときは「トーン」にしておいてください。

10 「OK」をクリックします。

本パソコンをご購入時の設定に戻すリカバリ作業のときは、手順 14 に進んでください。

- 11 「保証期間表示」ウィンドウに表示された「保証開始日」を保証書に書き写します。



- 12 「閉じる」をクリックします。

- 13 「いいえ」をクリックします。

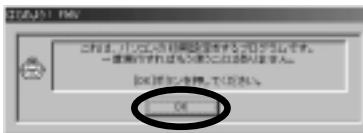
アドバイス

保証開始日について

保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります。

- 14 デスクトップの (はじめよう！ FMV) をクリックします。

15 「OK」をクリックします。



16 「OK」をクリックします。



本パソコンが一度終了し、再び起動します。

親指シフトキーボードモデルをお使いの方は、次の「親指シフトキーボードの設定をする」に進んでください。

それ以外の方は、これでセットアップが完了です。引き続き「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーを作成してください。

親指シフトキーボードの設定をする

本パソコンのキーボードを、親指シフトキーボードとして使うための設定を行います。

1 デスクトップの[親指 Setup]をクリックします。

親指シフト用キーボードドライバをインストールする画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。

「情報一覧」ウィンドウが表示されます。

3 「次へ」をクリックします。

「セットアップタイプ」ウィンドウが表示されます。

4 「次へ」をクリックします。

ドライバがインストールされ、「セットアップの完了」ウィンドウが表示されます。

5 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」が[]になっていることを確認し、

「完了」をクリックします。

本パソコンが一度終了し、再び起動します。

これでセットアップは完了です。引き続き「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーを作成してください。

アドバイス

従来の Windows スタイルで操作したいときは

本パソコンのご購入時、デスクトップ、「マイコンピュータ」ウィンドウ、エクスプローラなどの設定は、次のとおりです。

- 項目にマウスポインタを合わせると、項目が選択されます。
- 項目をクリックすると、項目が開きます(実行されます)。

本書では、上記の操作を前提に説明していますが、クリックすると項目を選択し、ダブルクリックすると項目を開く(実行する)ように設定を変えることもできます。

- 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「フォルダオプション」をクリックします。
「フォルダオプション」ウィンドウが表示されます。
- 「Windowsデスクトップのアップデート」で、「カスタム:選択する設定に基づきます」をクリックして□にし、「設定」をクリックします。
「カスタム設定」ウィンドウが表示されます。
- 「クリック方法」で、「シングルクリックで選択し、ダブルクリックで開く」をクリックして□にし、「OK」をクリックします。
「フォルダオプション」ウィンドウに戻ります。
- 「閉じる」をクリックします。

コラム

起動時の自己診断テストとは

本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような機器が接続されているかなどを、自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test)といいます。

起動時の自己診断テスト中に電源を切ると

本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数をカウントしており、3回続いた場合には、4回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。自己診断テスト中は、不用意に電源を切らないでください。

3

リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー

リカバリ CD-ROM 起動ディスクをコピーする

突然のアクシデントで、本パソコンが正常に動作しなくなることがあります。そんなときは、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使用して、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

万一の場合に備えて「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーを作成してください。本パソコンをご購入時の状態に戻すリカバリの作業では、こちらを使用します。原本のフロッピーディスクは大切に保管してください。

アドバイス

ご購入時の状態に戻すために必要なもの

- 本パソコンをご購入時の状態に戻すリカバリ作業には、別売のCD-ROM ドライブまたはCD-R/RW ドライブが必要です。万一の場合に備えて、購入されることをお勧めします。弊社製 CD-ROM ドライブは「FMV-NCD403」、「FMV-NCD402」、「FMV-NCD401」、「FMV-NCD201」、弊社製 CD-R/RW ドライブは「FMV-NRW1」です。
- 購入したCD-ROM ドライブまたはCD-R/RW ドライブをリカバリ作業で使用するには、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の内容を書き替える必要があります。早めに「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をご購入のドライブ用に設定してください。設定について詳しくは、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧ください。

確認

用意するもの

- リカバリ CD-ROM 起動ディスク
- 市販の 2HD フロッピーディスク
- 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のラベル
- コネクタボックス
- フロッピーディスクユニット

コネクタボックスとフロッピーディスクユニットは、あらかじめパソコン本体に接続しておいてください。また、市販の2HDフロッピーディスクがフォーマットしてあることを確認してください。

アドバイス

フロッピーディスクをフォーマットするには

- 1 フロッピーディスクをフロッピーディスクユニットに差し込みます。
- 2 デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。
- 3  (3.5 インチ FD(A:)) を選択して、反転状態にします。
- 4 「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックします。
- 5 「1.44MB(3.5 インチ)」が選ばれていることを確認します。
- 6 「フォーマットの種類」で「通常のフォーマット」をクリックして にします。
- 7 「開始」をクリックします。
- 8 フォーマットが終わったら「閉じる」をクリックします。

- 1** 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットに差し込みます。

書き込み禁止の状態( P.64)になっていることを確認してください。

- 2** デスクトップの  (マイコンピュータ) をクリックします。

- 3**  (3.5 インチ FD(A:)) を選択します。

タッチパネルで操作するときは、 の近くの何もない場所にペンを軽く押し付け、 の上までドラッグします。クイックポイントで操作するときは、 を  の上に合わせます。



 (3.5 インチ FD(A:)) が反転表示されます。

- 4** 「ファイル」メニューの「ディスクのコピー」をクリックします。

- 5** コピー元とコピー先に「3.5 インチ FD(A:)」が表示されていることを確認し、「開始」をクリックします。



このあとの操作は、メッセージに従ってください。

- 6** コピーが終了したら「閉じる」をクリックします。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のラベルに「作業用」と記入し、コピー先のフロッピーディスクに貼ってください。
また、コピー先のフロッピーディスクは、書き込み禁止にしておいてください。

添付の CD-ROM とフロッピーディスクは大切に保管してください
本パソコンに添付されている CD-ROM やフロッピーディスクには、本パソコンに入っているソフトウェアと同じ内容が入っています。本パソコンをご購入時と同じ状態に戻すときに必要になります。大切に保管してください。

「Windows98 起動ディスク」を作成してください
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」には、MS-DOS 上で動作するツール類（エディタソフトなど）は含まれていません。万一の場合に備えて、なるべく早めに「Windows98 起動ディスク」を作成してください。

- 用意するもの
市販の 2HD フロッピーディスク 2 枚
- 作成方法
「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」をクリックします。「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ウインドウの「起動ディスク」タブで、「ディスクの作成」をクリックします。このあとは、表示されるメッセージに従って操作してください。

4

ユーザー登録

1

最初に行う作業

ユーザー登録を忘れずに

本パソコンが使用できる状態になったら、保証書の封筒に入っている「ユーザー登録カード」をご覧になり、早めにユーザー登録を行ってください。

ユーザー登録を行っていただくと、弊社から最新の情報をご提供いたします。

また、「富士通パソコン・メンバーズサービス」を2ヶ月間無料で体験できる「おためしメンバーズ」をご利用いただけます。詳しくは、『富士通パソコン・メンバーズサービス』(カタログ)をご覧ください。

ユーザー登録には、以下の方法があります。

- FMV オンラインユーザー登録 : パソコン通信で登録します。フリーダイヤルを利用して電話料金はかかりません。詳しくは「FMV オンラインユーザー登録」(▶ P.16)をご覧ください。
- インターネットユーザー登録 : 富士通のホームページ「FM WORLD」から登録します。
あらかじめプロバイダと契約し、インターネットに接続できるように設定しておいてください。
- ハガキによるユーザー登録 : 「ユーザー登録カード」に添付のハガキで登録します。
- FAX によるユーザー登録 : 「ユーザー登録カード」に添付のシートをFAXで送信します。

パソコンの近くに電話回線がある場合には、一番手軽な「FMV オンラインユーザー登録」をお勧めします。

上記のいずれかの方法でユーザー登録を行うと、「第1章 最初に行う作業」は終了です。

電源の切りかたは、「電源を入れる / 電源を切る」(▶ P.36)をご覧ください。

FMV オンラインユーザー登録

「FMV オンラインユーザー登録」は、氏名、住所、電話番号などお客様の個人情報を本パソコンに保存したあと、ユーザー登録するソフトウェアです。フリーダイヤルで簡単に登録できます。入力した情報は、以下のサービスでも共通に使えるので、同じ情報を再度入力する必要がありません。

「おためしメンバーズ」のご利用

富士通サポートメール会員に登録（メールアドレスをお持ちの場合）

@nifty（アット・ニフティ）への入会手続き

FMV オンラインユーザー登録をする

ここでは「FMV オンラインユーザー登録」の方法を説明します。

確認

準備してください

- 保証書
製品型名や製品製造番号などを入力するときに必要になります。
- モジュラーケーブル

1

本パソコンを電話回線に接続してください。

接続方法については「電話回線への接続と所在地情報の設定」（▶ P.80）をご覧ください。

アドバイス

ISDN回線を使用する場合は、TAのマニュアルをご覧になり、TAの接続とドライバのインストールを行ってください。

2

デスクトップの （FMV オンラインユーザー登録）をクリックします。
「ご案内」ウィンドウが表示されます。

3

「本パソコンのユーザー登録」をクリックします。
「情報入力その1」ウィンドウが表示されます。

4 「個人」をクリックし、ご氏名を入力します。



アドバイス

登録形態について

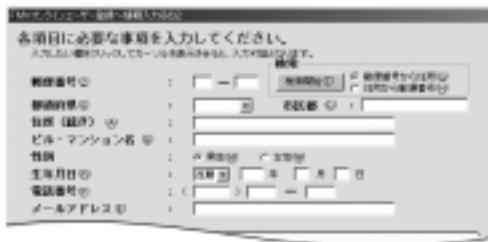
会社や団体でお使いのときは、登録形態で「法人」をクリックし、会社名や団体名などを登録してください。

登録するお名前について

ユーザー登録ができるのは1人です。1台のパソコンを複数の方でご使用になる場合は、代表者のお名前で登録してください。

5 「次へ」をクリックします。

6 各項目に必要な事項を入力します。



アドバイス

検索機能について

- 郵便番号から住所を検索する
 - 郵便番号を7桁で入力します。
 - 「住所から郵便番号」が[■]になっていることを確認し、「検索開始」をクリックします。
 - 検索結果の一覧で該当する住所をクリックし、「OK」をクリックします。
忘れないで住所の続きを入力してください。
- 住所から郵便番号を検索する
 - 住所を入力します。
 - 「住所から郵便番号」をクリックし、「検索開始」をクリックします。
 - 検索結果の一覧で該当する郵便番号をクリックし、「OK」をクリックします。
メッセージが表示されたときは、「OK」をクリックしてください。

Eメールアドレスについて

Eメールアドレスをお持ちでないときは、「メールアドレス」を空欄のままにして先に進んでください。Eメールアドレスは、プロバイダに入会すると取得できます。取得後は、「登録した情報を変更するには」(▶P.22)をご覧になり、Eメールアドレスを入力してください。

7 「次へ」をクリックします。

8 保証書に記載されている製品型名を選択し、製品製造番号を入力します。



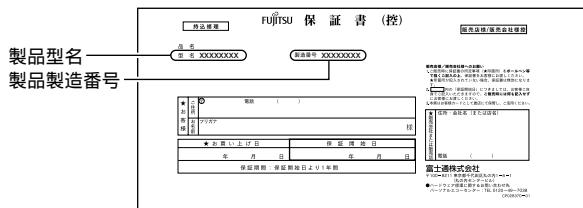
アドバイス

該当する製品型名がリストに表示されなかった場合

一覧から「その他」をクリックし、製品型名を右側の欄に入力してください。

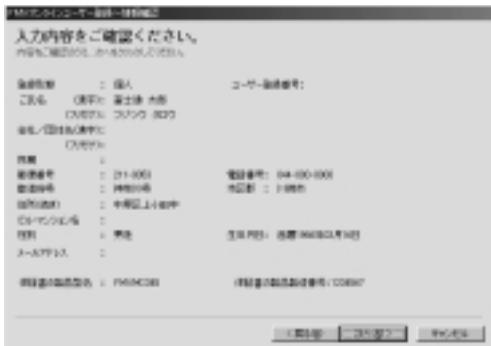


保証書について



- 9** 「次へ」をクリックします。
 「情報確認」ウィンドウが表示されます。

- 10** 入力した内容を確認して「次へ」をクリックします。



間違っていた場合は、「戻る」をクリックして修正してください。
 「次へ」をクリックすると、「保存処理」ウィンドウが表示されます。

- 11** 「OK」をクリックします。
 「富士通パソコン・メンバーズサービスについて」ウィンドウが表示されます。

- 12** 希望のコースをクリックし、「次へ」をクリックします。
 「富士通パソコン・メンバーズサービス」は有償の会員制サービスです。各コースを申し込む前に、画面に表示される説明をよくお読みください。
 「次へ」をクリックすると、「アンケート(お客様について)」というウィンドウが表示されます。

13

アンケートに入力し、「次へ」をクリックします。

アンケートは3ページあります。ご回答いただいたアンケートはサービス向上とより良い製品作りに利用させていただきます。お手数ですが、アンケートへのご協力ををお願いいたします。

「アンケート(ご使用状況について)」というウインドウで「次へ」をクリックすると、「送信」ウインドウが表示されます。



アドバイス

「送信」ウインドウについて

Windows 98 のセットアップ時の設定を変更した場合は、「設定変更」をクリックし、内容をご確認ください。

ISDN 回線を使用するとき

「設定変更」をクリックし、回線の種類を「ISDN」、「使用するモデム」にお使いのTAを設定し、「OK」をクリックしてください。

14 「送信」をクリックします。

ここまでに入力した内容がフリーダイヤルを使用して送られます。
通信が終了すると、「登録完了」ウィンドウに受付番号が表示されます。

アドバイス

通信エラーについて

正常に通信できないときは、「通信エラーが発生しました」というメッセージが表示されます。メッセージの内容をご確認のうえ、必要に応じて通信の設定を変更してください。

ISDNで送信できないとき

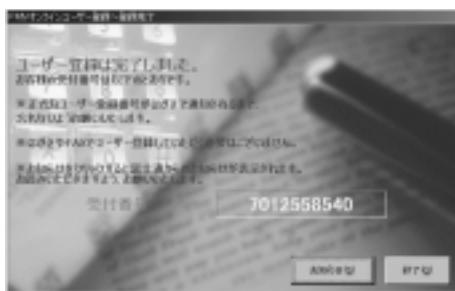
次のようにしてアナログ回線で送信してください。

- 1 TAのアナログポートと本パソコンのモジュラーコネクタをモジュラーケーブルで接続します。
- 2 TAの接続方法については、TAのマニュアルをご覧ください。
- 3 「設定変更」をクリックし、回線の種類を「トーン」、使用するモデルに内蔵モデム（Fujitsu LB RWModem V.90 56K J）を選び、「OK」をクリックしてください。

受付番号について

受付番号は仮の番号です。正式な番号は、弊社からお送りする登録完了はがきに記載されています。受付番号は、登録完了はがきが到着するまで控えておいてください。

15 「終了」をクリックします。



これでパソコン本体のユーザー登録は終わりです。

登録した情報を変更するには

Eメールアドレスの登録および住所や電話番号の変更は、「FMVオンラインユーザー登録」でできます。

- 1  (FMV オンラインユーザー登録) をクリックします。
- 2 「登録内容の変更」をクリックし、情報を修正します。
- 3 これ以降は、画面の指示に従って操作してください。
「ユーザー登録番号」は、必ず「登録完了はがき」に記載されている番号を入力してください。

アドバイス

登録する方のご氏名を変更する場合

「個人」で登録したときのご氏名、「法人」で登録したときの会社名 / 団体名を変更するときは、弊社ソフトウェアセンターまでご連絡ください。

電話番号：042-378-3695

「FMV オンラインユーザー登録」では、ご氏名や会社名 / 団体名を変更できません。



本パソコンの取り扱い方

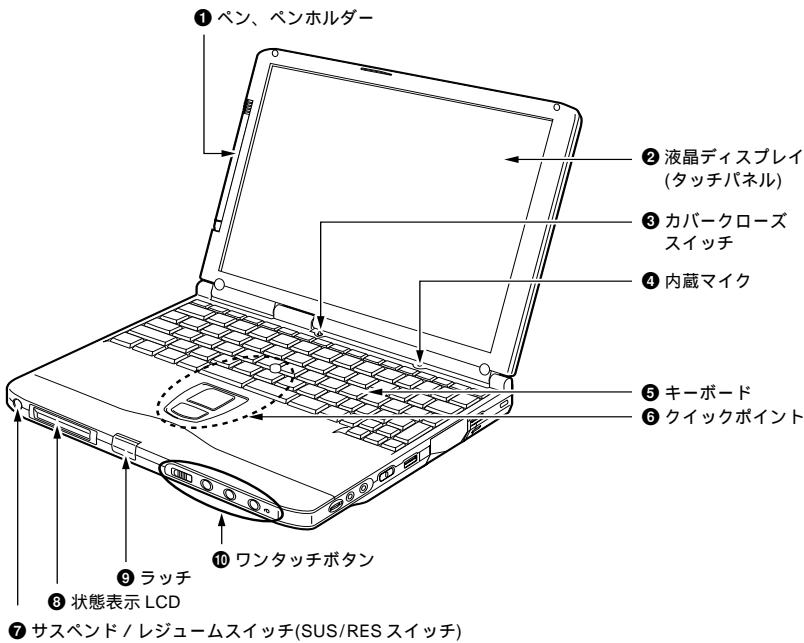
ここでは、パソコン本体の各部の名称や働き、添付品の使いかたなどについて説明します。

1.	各部の名称と働き	24
2.	電源を入れる / 電源を切る	36
3.	クイックポイント の使いかた	40
4.	タッチパネルの使いかた	42
5.	キーボードの使いかた	46
6.	文字入力のしかた	50
7.	ワンタッチボタンを使う	52
8.	コネクタボックスを使う	55
9.	フロッピーディスクユニットを使う	59
10.	バッテリで使う	66
11.	電話回線への接続と所在地情報の設定	80
12.	画面の解像度と発色数を変更する	87
13.	ボリュームコントロールで音量を設定する	93

各部の名称と働き

パソコン本体の各部の名称と働きを説明します。

本体前面の操作箇所



① ペン、ペンホルダー

タッチパネルを操作するペンです。また、ペンを使わないときは、ペンホルダーに収納してください（ $\cdots\blacktriangleright$ P.42）。

② 液晶ディスプレイ (タッチパネル)

文字や図形などを表示します。

また、添付のペンを使ってマウスポインタを操作します（ $\cdots\blacktriangleright$ P.42）。

重要

廃棄するときは地方自治体の条例または規則に従ってください

液晶ディスプレイの蛍光管の中には、水銀が含まれています。本パソコンを廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従ってください。

アドバイス

液晶ディスプレイについて

液晶ディスプレイにおいて、下記の現象は故障ではありません。これらの現象が発生しても、本パソコンは正常に動作します。あらかじめご了承ください。

- ・ 液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化で明るさや色合いに多少むらが発生することがあります。
- ・ 本パソコンで使用しているTFT液晶ディスプレイは高度な技術を駆使し、一画面上に144万個以上(解像度800×600の場合)の画素(ドット)より作られております。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

③ カバークローズスイッチ

液晶ディスプレイを閉じたときにパソコンの動作を一時停止(サスペンド)させるためのスイッチです。

④ 内蔵マイク

音声(モノラル)を録音できます。

アドバイス

- ・ 一部のソフトウェア(カラオケソフトなど)をお使いの場合、自動的にマイクのミュートが無効になり、ハウリングを起こす場合があります。このようなときは、市販のヘッドホンや外部スピーカーをお使いください。
- ・ 内蔵マイクをお使いの場合は、液晶ディスプレイを閉じないでください。ハウリングを起こす場合があります。
- ・ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいににくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

⑤ キーボード

キーを押して文字などを入力します(⇒ P.46)。

⑥ クイックポイント

マウスピントを操作します(⇒ P.40)。

⑦ サスペンド / レジュームスイッチ(SUS/RESスイッチ)

パソコンの動作を一時停止(サスペンド)、または再開(レジューム)させるためのスイッチです。詳しくは「一時停止状態にする(サスペンド機能)」(⇒ P.73)をご覧ください。なお、本書では「SUS/RESスイッチ」と表記しています。

⑧ 状態表示LCD

パソコンの電源や動作の状態を表示します(⇒ P.32)。

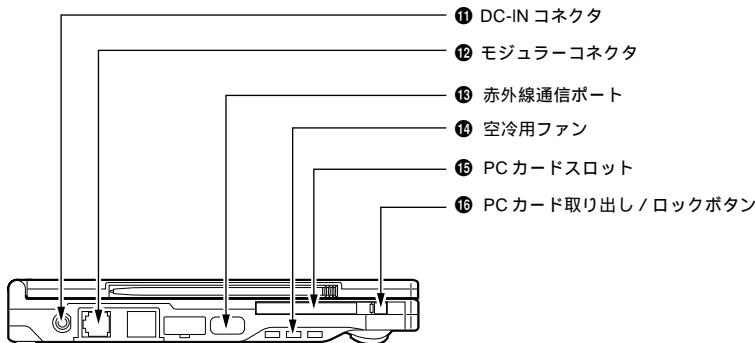
⑨ ラッチ

液晶ディスプレイを開けるときは、ラッチを押してロックを外します。

⑩ ワンタッチボタン

アプリケーションを起動したり、Eメールの着信を確認するためのボタンです。

本体左側面の操作箇所



⑪ DC-IN コネクタ

添付のACアダプタを接続するコネクタです。

⑫ モジュラーコネクタ

モジュラーケーブルを接続するコネクタです。電話回線への接続については「電話回線に接続する」(▶ P.82)をご覧ください。

⑬ 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うための送受光部です。

重　要

赤外線通信をしているときの注意事項

赤外線通信をしているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

⑭ 空冷用ファン

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのファンです。

△注意

空冷用ファンの穴はふさがないでください。

内部に熱がこもり、故障の原因となります。

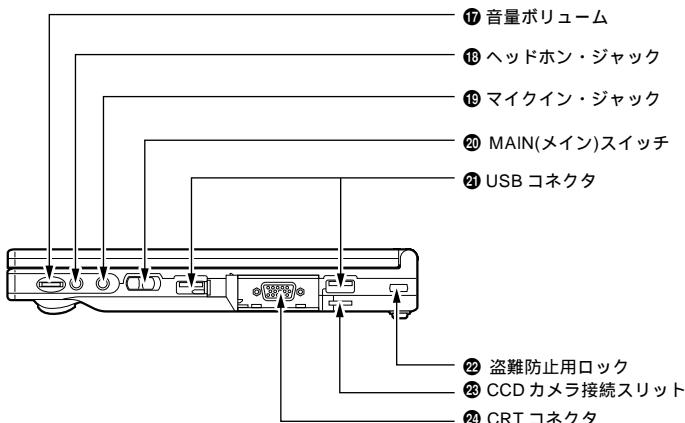
⑮ PC カードスロット

別売のPCカードをセットするためのスロットです(▶ P.107)。

⑯ PC カード取り出し / ロックボタン

PCカードを取り出すときに押します。また、ボタンを倒してセットしたPCカードを固定します。

本体右側面の操作箇所



⑦ 音量ボリューム

手前側に回すと音量が小さくなり、奥側に回すと大きくなります。

アドバイス

ハウリングについて

マイクをお使いの場合、音量ボリュームを上げすぎたり、マイクをスピーカーに近づけすぎたりすると、マイクとスピーカーの間でハウリングを起こす場合があります。

⑧ ヘッドホン・ジャック

市販のヘッドホンなどを接続します。

△注意

聴力障害 ヘッドホンをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害 ヘッドホンをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

ヘッドホン ヘッドホンの破損防止のため、パソコン本体の音量を最小にしておいてから、ヘッドホンを接続します。

アドバイス

ヘッドホン・ジャックに取り付けられるものは

外径3.5mmのミニ・プラグのヘッドホンやイヤホン、アンプ内蔵外部スピーカーが取り付けられます。ただし、形状によっては取り付けられないものがありますので、ご購入前に確認してください。

⑯マイクイン・ジャック

市販のマイクを接続し、音声（モノラル）を録音するための端子です（外径3.5mmのミニプラグに対応）。

アドバイス**マイクについて**

- マイクをお使いの場合、音量ボリュームを上げすぎると、スピーカーとマイクの間でハウリングを起こす場合があります。
- 市販されているマイク（ダイナミックマイクなど）によっては、使用できないものがありますので、ご注意ください。

⑰MAIN(メイン)スイッチ

本パソコンの主電源スイッチです。○側がOFF、|側がONです。

本パソコンを携帯するときや長期間使用しないときは、Windows98を終了後MAINスイッチをOFFにしてください。電源の切りかたについては「電源を切る」（⇒ P.38）をご覧ください。

⑱USBコネクタ

USB規格のインターフェースをもつ別売の機器を接続するコネクタです。2ポートあります（⇒ P.138）。

アドバイス**オプション機器の接続について**

各コネクタにオプション機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

⑲ 盗難防止用ロック

盗難防止用ケーブルを接続することができます。

Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。

品名：マイクロセーバー（セキュリティワイヤー）

商品番号：0522010

（富士通コワーコ取り扱い品 お問い合わせ 03-3342-5375）

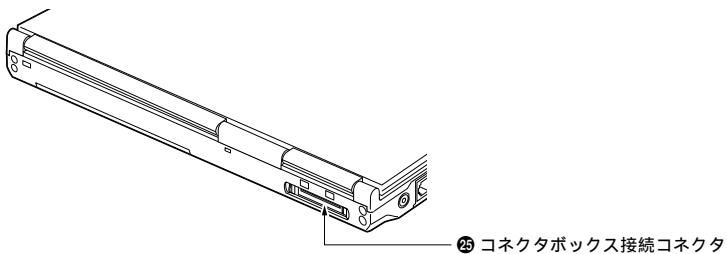
⑳CCDカメラ接続スリット

本パソコン（親指シフトキーボードモデルは除く）に添付のCCDカメラを直接USBコネクタに接続する場合に使用します（⇒ P.103）。

㉑CRTコネクタ

別売のCRTディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するコネクタです（⇒ P.131）。

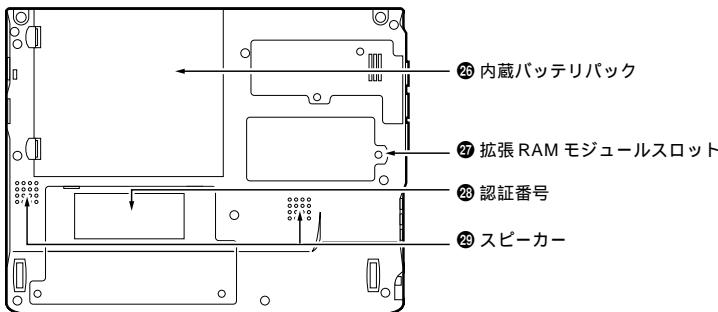
本体背面の操作箇所



②⁵ コネクタボックス接続コネクタ

添付のコネクタボックスを接続するコネクタです(▶ P.55)。

本体下面の操作箇所



⑯ 内蔵バッテリパック

内蔵バッテリパックが装着されています。

ご購入時には、バッテリは充電されていない場合があります。バッテリが充電されるまでは、ACアダプタを接続してお使いください。充電のしかたについては「バッテリを充電する」(▶ P.66)をご覧ください。

⑰ 拡張RAMモジュールスロット

別売の拡張RAMモジュールをセットするスロットです (▶ P.125)。

⑱ 認証番号

内蔵モデムを使用した場合の、技術基準適合認証番号です。

⑲ スピーカー

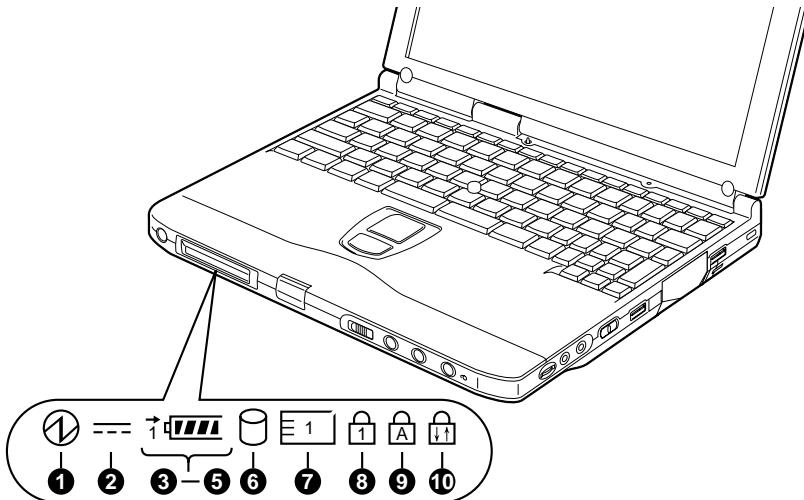
本パソコンの音声を出力します。

アドバイス

スピーカーのON/OFFについて

[Fn]を押しながら[Esc]を押すと、スピーカーのON/OFFを切り替えることができます。この操作をして「ピッ」と音がした場合はスピーカーがONに、音がない場合はOFFになります。

状態表示 LCD



① SUS/RES 表示(①)

本パソコンが動作中に表示されます。suspend(一時停止)状態になっているときは、点滅します。MAINスイッチがOFFのときや、Save To Disk機能(⇒ P.75)で電源を切っているときは表示が消えます。

② AC アダプタ表示(==)

本パソコンをAC電源で使用しているときや充電しているときなど、ACアダプタから電源が供給されているときに表示されます。

③ バッテリ装着表示(1□)

□は、内蔵バッテリパックを示しています。本パソコンの電源を入れると表示されます。

④ バッテリ充電表示(↑の→)

バッテリ装着表示の左上に表示されます。→が点灯しているときは充電中です。バッテリが熱くなっていたり、冷えていたりして充電できないときは、点滅します。

⑤ バッテリ残量表示(■■■)

バッテリの残量が表示されます。バッテリ残量表示について詳しくは「バッテリの残量表示を確認する」(⇒ P.68)をご覧ください。

⑥ ハードディスクアクセス表示()

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに表示されます。

重 要

状態表示 LCD に  が表示されているときは

 (ハードディスクアクセス表示) が表示されているときは、MAINスイッチを OFF にしたり、SUS/RES スイッチを操作しないでください。ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

⑦ PC カードアクセス表示 ()

PCカードにアクセスしているときに表示されます。

⑧ Num Lock (ニューメリカルロック) 表示 ()

キーボードがテンキーモードになっているときに表示されます。 を押すと、テンキーモードの設定と解除が切り替わります。

テンキーモードについては「テンキーモードの働き」(\Rightarrow P.47) をご覧ください。

⑨ Caps Lock (キャプスロック) 表示 ()

キーボードが英大文字固定モードになっているときに表示されます。 を押しながら  を押すと、英大文字固定モードの設定と解除が切り替わります。

⑩ Scroll Lock (スクロールロック) 表示 ()

 を押しながら  を押すと、表示と非表示が切り替わります。アプリケーションごとに機能が異なります。

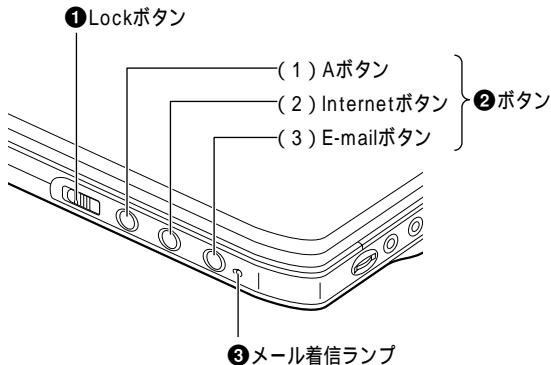
アドバイス

MAINスイッチがOFFのときは

MAINスイッチがOFFの場合は、状態表示 LCD のすべての表示が消えます。ただし、充電中は $---$ と \blacksquare が表示され、充電が終わると消えます。

ワンタッチボタン

ワンタッチボタンを押すだけでアプリケーションを起動したり、CCDカメラのシャッターを押したりできます。



① Lock ボタン

すべてのボタンを使用できないようにするときに右側にスライドし、不用意にボタンが押されることを防ぎます。

ワンタッチボタンを使用しないときは、Lockボタンを右側にスライドしてください。

② ボタン ((1) ~ (3))

ボタンを押すと、以下の機能が使えます。なお、液晶ディスプレイを閉じた状態では、ボタンが使用できないようになります。

(1) A ボタン

FMキャプチャが起動します。FMキャプチャ起動時には、CCDカメラのシャッター ボタンになります。

親指シフトキーボードモデルでは、OASYS(ワープロ)が起動します。

(2) Internet ボタン

Internet Explorer(ブラウザ)が起動します。

(3) E-mail ボタン

新着Eメールをチェックして、受信します。

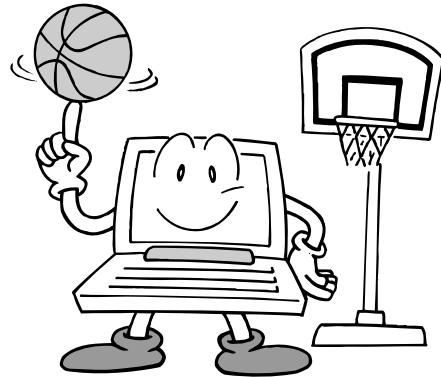
「ワンタッチボタンを使う」(⇒ P.52)

③ メール着信ランプ

E-mailボタンを押したとき、新着Eメールがある場合は点滅します。

受信したEメールがサーバーに残っている場合は、新着Eメールがなくても点滅します。新着Eメールがないときにメール着信ランプが点滅しないようにするときは、Eメールをサーバーに残さないようにメールソフトで設定してください。

⇒『情報生活術入門』の「Eメールを利用する」



2

電源を入れる / 電源を切る

電源を入れる

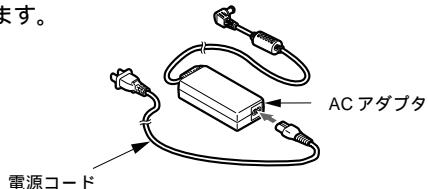
ここでは、本パソコンの電源の入れかたを説明します。



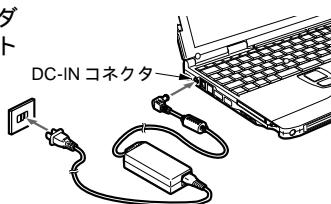
フロッピーディスクユニットを接続している場合は

電源を入れる前にフロッピーディスクが入っていないか確認し、入っている場合は必ず取り出してください。

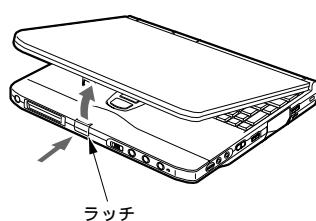
- AC アダプタに電源コードを接続します。



- 本パソコンの DC-IN コネクタに AC アダプタを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。



- 液晶ディスプレイを開きます。
前面のラッチを押しながら少し持ち上げ、パソコン本体に手を添えて見やすい角度に調整します。



重 要

液晶ディスプレイを閉じないでください

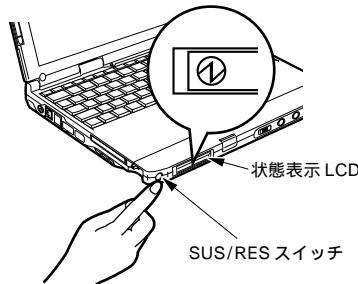
本パソコンを使用している際、BIOSセットアップの「省電力」メニューで「詳細設定」の「カバークローズサスペンド」を「使用しない」に設定している場合は(▶ P.160)、本パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。

4

SUS/RES スイッチを押します。

状態表示 LCD に①が表示されます。

しばらくすると、Windows98 が起動します。

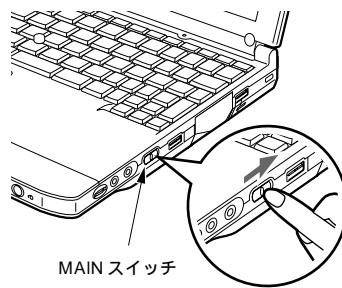
**アドバイス**

MAIN スイッチを切っているとき

MAIN スイッチを切っている(○側にスライドしている)ときは、MAIN スイッチを|側にスライドして電源を入れてください。

起動時間について

Windows98 が完全に起動するまでに 3 分以上かかる場合があります。これは起動時に本パソコンがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしているためです。コンピュータウイルスについて詳しくは、『情報生活術入門』をご覧ください。

**重 要**

電源を入れるときの注意

- 電源を切った直後は、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、電源を切ったあと、10 秒ほど待ってください。
- 本パソコンを持ち運ぶときは、電源を切るか、サスペンド機能(▶ P.73)で一時停止するか、Save To Disk 機能(▶ P.75)で電源を切ってください。電源を入れたままの状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたらいでください。故障の原因となります。

電源を切る

ここでは、電源の切りかたを説明します。

Windows98を使っているときは、必ず以下の方法で電源を切ってください。作業中に変更された設定データの保存や、ハードディスクのデータの書き替えなどの終了処理が自動的に行われます。

重 要

電源を切るときの注意

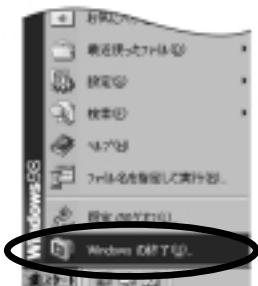
- 電源を切る前に、状態表示LCDの□が消えていることを確認してください。この表示が点灯しているときに電源を切ると、作業中のデータが保存できなかつたり、ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。
- フロッピーディスクユニットを接続している場合は、電源を切る前に、フロッピーディスクを取り出してください。
- 電源を切る前に、作業中のデータを保存し、アプリケーションを終了してください。

サスPEND機能(▶P.73)で保持している作業状態を消さないためには

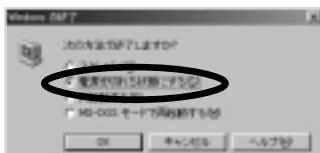
サスPEND機能によって一時停止状態にしているときに、MAINスイッチをOFFにすると、メモリに保持しているデータが失われます。

電源を切りたいときは、いったんレジューム(サスPEND状態から元に戻す)操作を行って、必要なデータを保存してからWindows98を終了してください。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。



2 「電源を切れる状態にする」をクリックして□にします。



3 「OK」をクリックします。

Windows の終了処理が行われたあと、状態表示 LCD の①が消え、本パソコンの電源が切れます。

アドバイス

再起動について

「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックして②にし、「OK」をクリックすると、本パソコンを再起動することができます。再起動とは、Windows の終了処理を行ったあと、メモリに入っている内容をいったん消し、もう一度はじめからパソコンを起動し直すことです。

フロッピーディスクがセットされているとき

「フロッピーディスクが入っています。Windows の終了を中止します。」というメッセージが表示されます。

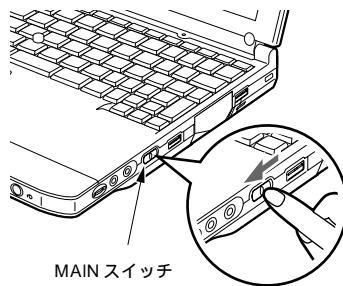
その場合は、「閉じる」をクリックし、フロッピーディスクを取り出して、手順 1 からやり直してください。

重要

次のときは MAIN スイッチを切って（○側にスライドして）ください

- ・本パソコンを長い間使わないとき
- ・本パソコンを携帯するとき
- ・オプション機器の取り付けや取り外しをするとき
- ・バッテリ残量が気になるときや節電したいとき

MAIN スイッチを切っているときは、ワンタッチボタンが使えません。



4 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。

5 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

アドバイス

充電するときは

電源を切ったあとに続けて充電したいときは、AC アダプタを接続したままにしておきます。

3

クイックポイント の使いかた

ここでは、クイックポイント を使ったマウスポインタの操作について説明します。

アドバイス

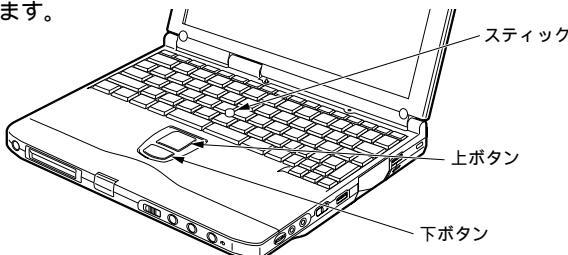
マウスの接続について

本パソコンに、PS/2 規格のマウスを接続する操作については、「マウスを使う」(⇒ P.120)をご覧ください。

また、クイックポイント 、タッチパネル、外部PS/2マウスのどれを使えるようにするかは「キーボード / マウス設定」(⇒ P.153)をご覧ください。

クイックポイント の働き

クイックポイント は、指先でスティックを操作することで、マウスポインタを動かせるポインティングデバイスです。スティックに対して前後左右に力を加えることにより、マウスポインタを動かします。上下のボタンは、それぞれマウスの左ボタン、右ボタンに相当します。



アドバイス

マウスポインタの動きを調節するには

「コントロールパネル」ウィンドウで「マウス」をクリックすると、マウスポインタの移動速度を調整できます。

マウスポインタが勝手に動いてしまうときは

クイックポイント のスティックをわずかに傾けた状態で、数秒間ゆっくり動かしているときに、マウスポインタが逆方向に動くことがあります。故障ではありません。マウスポインタが停止するまでお待ちください。

スティックが使いにくいときは

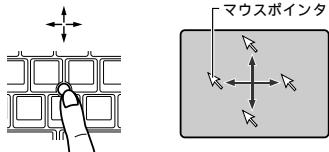
スティックのキャップは古くなると、表面がすべりやすくなります。キャップは簡単に取り外せます。添付のゴムキャップと交換してください。また、下記にお問い合わせをして、予備のゴムキャップを購入することもできます。

(富士通ワーコ お問い合わせ 03-3342-5375)

クイックポイント の使いかた

ステイックの操作

ステイックを指で前後左右に押します。押した方向に画面上の (マウスポインタ)が動きます。画面を見ながら、ステイックを押してみてください。



ボタンの押しかた

・クリック

上ボタンを1回カチッと押します。
また、下ボタンを1回カチッと押すことを「右クリック」といいます。



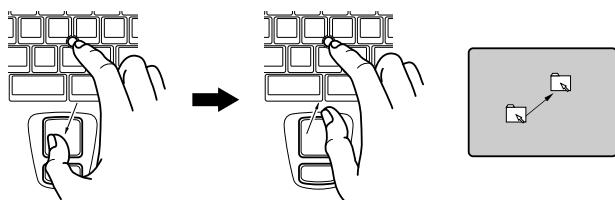
・ダブルクリック

上ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



・ドラッグ

上ボタンを押したままステイックを押してマウスピントを移動し、目的の位置で上ボタンを離します。



4

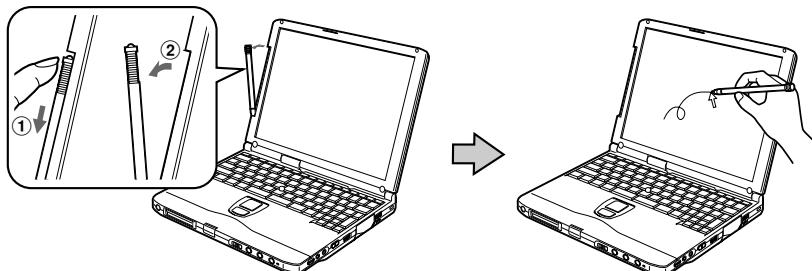
タッチパネルの使いかた

ここでは、タッチパネルの使いかたについて説明します。

タッチパネルの働き

本パソコンの液晶ディスプレイにはタッチパネルが取り付けられており、添付のペンでマウスポインタを操作できます。

ペンの上部を押し下げながら(①)、外側に開いて(②)取り外します。



アドバイス

先の尖ったもので操作しないでください

- ・タッチパネルは指先などでも操作できます。
- ・ディスプレイを傷つけないよう、ボールペンや鉛筆など、先の尖ったものでは操作しないでください。
- ・ペンを使ってタッチ操作をするときは、手が触れないように気を付けてください。手で触ってしまうとマウスポインタが動いてしまいます。

ペンをなくしたときは

予備のペンを用意しています。下記にお問い合わせをして、予備のペンをご購入ください。

(富士通コワーコ お問い合わせ 03-3342-5375)

タッチパネルの使いかた

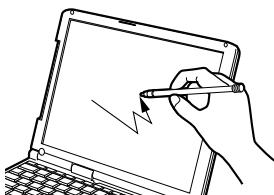
■クリック■



ペンで画面を軽く1回たたいて、すぐにペンを離します。

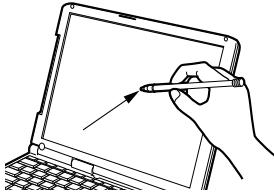
この操作を「タッチ」といいます。クイックポイントの上ボタンを1回押すのと同じ操作になります。

■ ダブルクリック ■



画面をすばやく2回タッチして、すぐにペンを離します。クイックポイント の上ボタンを2回押すのと同じ操作になります。

■ ドラッグ ■



画面に軽く押し付けながらなぞります。

■ その他の操作 ■

上記以外にも、タッチパネルでは次の操作を行えます。

タッチパネルで行えない操作には、クイックポイント をお使いください。

- サブメニューを開くとき
開きたいメニュー項目にタッチします。
- アイコンを選択するとき
選択したいアイコンの近くにペンを軽く押し付け、アイコンの上までドラッグしてアイコンを反転状態にします。
- アイコンを右クリックするとき
次の2つの方法があります。
 - ・ 右クリックしたいアイコンの近くにペンを軽く押し付け、アイコンの上までドラッグしてアイコンを反転状態にし、[Shift] (アプリケーションキー) を押します。
 - ・ 次の設定を行うと、[Ctrl] を押しながらタッチすることで右クリックできます。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「Fujitsu Touch Panel」の順にマウスポインタを合わせ、「右クリック機能ツール」をクリックします。

「右クリック機能ツール」ウィンドウが表示されます。

2 「はい」をクリックして、「閉じる」をクリックします。

タスクトレイのアイコンなど、ショートカットメニューが表示できないときは、クイックポイント で操作してください。

- その他の項目を右クリックするとき
クイックポイント をお使いください。

アドバイス

タッチパネルの設定について

タッチパネルとクリックポイント、外部PS/2マウスのどれを使えるようにするかは「キーボード／マウス設定」(▶ P.153)をご覧ください。

ドライバを必要とするマウスを使用する場合は

Microsoft社製IntelliMouseTMなどのドライバが添付されたマウスを使用するときは、タッチパネルをアンインストールし、他のマウスドライバをインストールします。

もう一度タッチパネルを使用するときは、タッチパネルのドライバを再インストールしてください。操作方法は、『リカバリガイド』の「タッチパネルドライバの再インストール」をご覧ください。

タッチパネルの調整のしかた

本パソコンのご購入時には、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれていることがあります。また、画面の解像度を変更したときには、画面の有効範囲が異なるため、タッチパネルを調整する必要があります。

タッチパネルを調整するには、以下の操作を行ってください。

アドバイス

タスクバーに「Calwin」のタスクが残る場合は

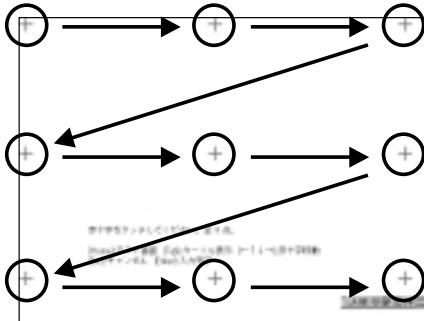
タッチパネル調整を行ったあと、タスクバーに「Calwin」のタスクが残ることがあります。タッチパネルの調整は終了していますので、「Calwin」をクリックして表示を消してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」「Fujitsu Touch Panel」の順にマウスポインタを合わせ、「補正ツール」をクリックします。
白い補正画面が表示されます。
- 2 添付のペンで画面の赤い「+」マークの近くをタッチし、タッチしたままペンを十字の中心に移動して、ペンをタッチパネルから離します。
このときの位置は調整には関係ないので、十字から離れて構いません。ペンでタッチして離した位置によって調整されます。
[Tab]を押して、を表示しないようにすることもできます。



タッチすると「+」マークが移動します。

3 同じように、順に9ヵ所の点をタッチします。



アドバイス

操作上のご注意

- ・ペンの先を「+」マークの交点に合わせて、正確にタッチしてください。
- ・操作中は、手などがタッチパネルに触れないようにしてください。

2回続けてタッチしてしまったときは

□↑↓←→ を押して「+」マークを移動し、もう一度タッチし直します。

4 [Enter] を押します。

調整結果を確認するための画面が表示されます。

アドバイス

「補正点が不正です。再入力して下さい。」と表示されたときは

「OK」をクリックして、もう一度手順2からやり直してください。

5 画面の四隅や中央部分を軽くなぞって、正しく調整されているか確認します。



もう一度調整したいときは、[Fn] を押しながら □ を押して、手順2からやり直してください。

6 正しく調整できたら、[Enter] を押します。

「補正ツール」が終了します。

これで、タッチパネルが調整されました。

5

キーボードの使いかた

キーボードは、コンピュータにデータを入力したり、指示を実行させるための装置です。ここでは、各キーの名称と主なキーの使いかたを説明します。

キーの配列と機能

キーは文字を入力するキーとその他の働きをするキーの2種類に分かれます。

OADG キーボード



親指シフトキー ボード



■キー上面の青色と緑色の表示■

各キー上面の青字のキー名称は、**[Fn]** を押しながら押すと機能します。

各キー上面の緑色のキー名称は、**[Alt]** を押しながら押すと機能します。

テンキーモードの働き

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー(数値入力を容易にするキー配列)として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。**[NumLk]**を押すとテンキーモードに切り替わり、状態表示LCDに**□**が表示されます。

本パソコンでは、図の太線で囲まれたキーがテンキーになります。テンキーモードで入力できる文字は、各キーの前面に白字で書かれています。

アドバイス

別売のPS/2タイプのテンキーボードなどを接続している場合

別売のテンキーボードなどを接続している場合は、接続しているキーボードのテンキーが有効になります。パソコン本体のテンキー部分は、テンキーモードになりません。

主なキーの使いかた

ここでは、通常の文字を入力するキー以外のキーの働きについて説明します。

■カーソルを移動するキー■

- **[↑][↓][←][→]** (カーソル)キー

上下左右にカーソルを移動します。

- **[PgUp]** (ページアップ)キー

前のページに切り替えるときに、**[Fn]** を押しながら **[PgUp]** を押します。

- **[PgDn]** (ページダウン)キー

次のページに切り替えるときに、**[Fn]** を押しながら **[PgDn]** を押します。

- **[Home]** (ホーム)キー

カーソルを行の最初に移動するときに、**[Fn]** を押しながら **[Home]** を押します。文書の最初に移動するときは、**[Fn]** と **[Ctrl]** を押しながら **[Home]** を押します。

- **[End]** (エンド)キー

カーソルを行の最後に移動するときに、**[Fn]** を押しながら **[End]** を押します。文書の最後に移動するときは、**[Fn]** と **[Ctrl]** を押しながら **[End]** を押します。

■入力する文字を切り替えるキー■

- **[CapsLock]** (キャプスロック)キー

英大文字固定モードにするときに、**[Shift]** を押しながら **[CapsLock]** を押します(状態表示LCDに**△**が表示されます)。もう一度押すと解除されます。

- **[NumLk]** (ニューメリカルロック)キー

テンキーモードにするときに、**[NumLk]** を押します(状態表示LCDに**□**が表示されます)。もう一度押すと解除されます。

■ 文字を削除するキー ■

- **[Back Space]** (バックスペース)キーまたは**[後退]**キー
カーソルの左側にある1文字が削除されます。
- **[Del]** (デリート)キー
カーソルの右側にある1文字が削除されます。また、選択したファイルやアイコンを削除することもできます。
[Ctrl]と**[Alt]**を押しながら**[Del]**を押すと、実行中のアプリケーションを強制終了したり、Windows98を強制的に再起動したりできます。

■ 文字入力時に機能するその他のキー ■

- **[]** (スペース)キーまたは**[空白]**キー
OAGDキー ボードの場合、キー ボード手前中央にある何も書かれていない横長のキーです。1文字分の空白を入力するときに使います。
- **[Enter]** (エンター)キーまたは**[Enter/改行]**キー
「リターンキー」または「改行キー」とも呼ばれます。文章を入力しているときに改行したり、コマンドを実行したりするときに使います。
- **[Ins]** (インサート)キー
文章を入力しているとき、挿入モードと上書きモードを切り替えるときに押します。

■ 他のキーと組み合わせて使うキー ■

- **[Ctrl]** (コントロール)キー
- **[Shift]** (シフト)キー
- **[Alt]** (オルト)キー
アプリケーションごとに、機能が異なります。
- **[Fn]** (エフエヌ)キー
本パソコン独自のキーです。次のような使いかたがあります。
 - **[Fn]**を押しながら**[F3]**を押します。
スピーカーのON/OFFを切り替えます。この操作をして「ピー」と音がした場合はスピーカーがONに、音がしない場合はOFFになります。
 - **[Fn]**を押しながら**[F5]**を押します。
640×480ドットの解像度のときに、全画面表示と通常表示を切り替えます。
 - **[Fn]**を押しながら**[F6]**を押します。
本パソコンの液晶ディスプレイのバックライトを暗くします。
 - **[Fn]**を押しながら**[F7]**を押します。
本パソコンの液晶ディスプレイのバックライトを明るくします。

アドバイス

- **[Fn]**を押しながら**[F6]** **[F7]**を押してバックライトの明るさを8段階に調節できます。

- **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押します。
別売の外部ディスプレイを接続しているときに、本パソコンの液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイのどちらで表示するかを切り替えます(⇒ P.133)。
- **[Fn]** を押しながら **SUS/RES** スイッチを押します。
Save To Disk 機能が働きます(⇒ P.75)。

■ 特別な働きをするキー ■

- **[Win]** (ウィンドウズ)キー(Windows の場合有効)
「スタート」メニューを表示するときに押します。
- **[App]** (アプリケーション)キー(Windows の場合有効)
選択した項目のポップアップメニューを表示するときに押します。右クリックと同じ役割をします。
- **[PrtSc]** (プリントスクリーン)キー
画面をコピーするときに、**[Fn]** を押しながら **[PrtSc]** を押します。

■ アプリケーションによって機能の異なるキー ■

- **[Esc]** (エスケープ)キー
1つ前に行った作業に戻るときなどによく使われます。
- **[F1]** ~ **[F12]** (ファンクション)キー
- **[Scr Lk]** (スクロールロック)キー
アプリケーションごとに機能が異なります。**[Fn]** を押しながら **[Scr Lk]** を押して使用します。
- **[Pause/Break]** (ポーズ / ブレーク)キー
画面の表示を一時的に止めるときなどに押します。
- **[Sys Rq]** (システムリクエスト)キー
アプリケーションでサポートしている場合、キーボードの状態を初期設定に戻すときなどに、**[Fn]** を押しながら **[Sys Rq]** を押します。

6

文字入力のしかた

本パソコンには、MS-IME98という日本語入力システムがあらかじめインストールされています。ここでは、MS-IME98の文字入力のしかたを説明します。

アドバイス

親指シフトキーボードモデルをお使いの方はOAK V7.0がインストールされています。

◆▶ OASYS のマニュアル

日本語を入力できる状態にする

ウィンドウに文字が入力できる状態にして以下の操作を行います。

1  を押します。

タスクバーにある「MS-IME98」のアイコンの表示が  から  に変わります。



この状態になると日本語が入力できます。

アドバイス

「MS-IME98」のツールバーが表示されているときは

 を押すと、「MS-IME98」のツールバーにある入力できる文字種の表示が  から  に変わります。



ここをクリックし「ひらがな」を選んでも、日本語が入力できます。

この状態になると日本語が入力できます。

アドバイス

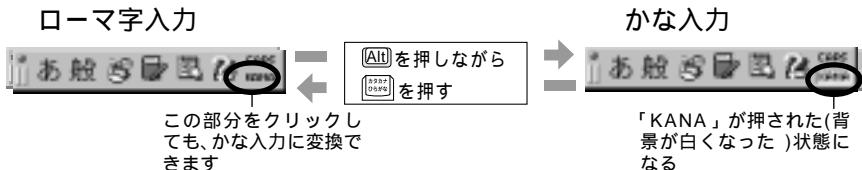
「～(から)」や「～(チルダ)」を入力するには

「～(から)」や「～(チルダ)」を入力する方法については、「困ったときのQ&A」(◆▶ P.177)をご覧ください。

ローマ字入力とかな入力の切り替え

入力方法には、「ローマ字入力」と「かな入力」の2つがあります。ローマ字入力は、ローマ字読みでかなを入力します。かな入力は、文字キーをそのまま押します。

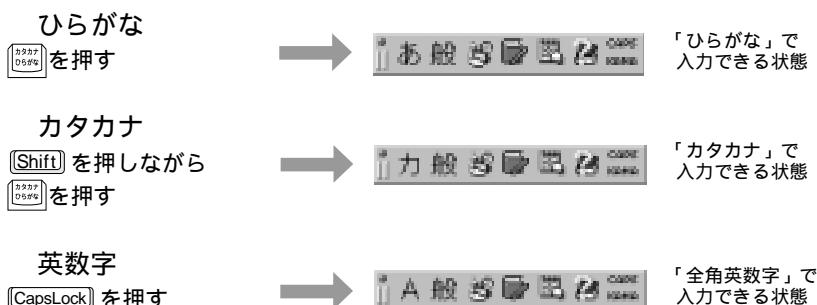
「ローマ字入力」と「かな入力」を切り替えるには、[Alt] を押しながら [カタカナ/ひらがな] を押します。



[Ctrl] を押しながら [CapsLock] を押しても同様に切り替えることができます。

入力モードを切り替える

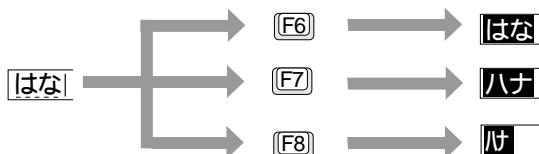
「MS-IME98」がONの状態（使える状態）で、次のようにして「ひらがな」「カタカナ」「全角英数字」を切り替えます。



文字の種類を変える

入力した文字を変換するときに、次のように文字の種類を変えることができます。

例) 「はな」と入力 → Fキーを押す → 文字の種類が変わって
変換される



ワンタッチボタンを使う

重要

次のときはワンタッチボタンが使えません

- Windows98 を起動していて FM 便利ツールを終了しているとき
- MAIN スイッチを OFF にしている（側面スライドしている）とき
- 液晶ディスプレイを閉じているとき
- Lock ボタンを右側にスライドしているとき

アプリケーションを起動する

- 1 Lockボタンを左側にスライドし、起動するアプリケーションのボタンを押します。

本パソコンご購入時は、次のアプリケーションが設定されています。

• A ボタン

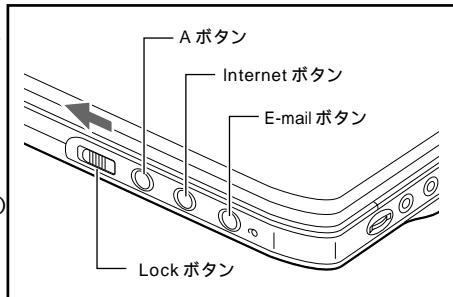
FM キャプチャ（キャプチャソフト）
⇒『情報生活術入門』の「CCD カメラを楽しむ」

• Internet ボタン

Internet Explorer（ブラウザ）
⇒『情報生活術入門』の「ホームページを表示する」

• E-mail ボタン

らくらくメール BOX（メールソフト）
⇒『情報生活術入門』の「E メールを利用する」



アドバイス

A ボタンを押して FM キャプチャを起動する場合

A ボタンを 1 度押すと FM キャプチャ（キャプチャソフト）が起動します。
FM キャプチャ起動時は CCD カメラのシャッターボタンになります。

親指シフトキーボードモデルをお使いの方は

A ボタンに OASYS（ワープロ）が割り当てられています。
⇒OASYS のマニュアル

Internet ボタン、E-mail ボタンを使うとき

あらかじめプロバイダと契約し、インターネットに接続できるように設定しておいてください。

⇒『情報生活術入門』の「インターネットの始めかた」

■ Windows 98 を終了またはサスペンドしているとき ■

- Windows 98 の終了時、またはサスペンド時にボタンを有効にすることができます。「FM 便利ツール」の「かんたんボタンの設定」で「スタンバイ状態のときでも、このボタンを有効にする」または「電源が切れているときでも、このボタンを有効にする」をクリックして を にしてください。
なお、この設定を行っても、液晶ディスプレイを閉じているときはボタンが無効になります。
- Windows 98 の終了時、またはサスペンド時に E-mail ボタンを有効にした場合、E-mail ボタンを押すと、新着 E メールをチェックします。
新着 E メールがあるときは、メールソフトが起動し、新着 E メールを受信します。新着 E メールがないときは、自動的に Windows 98 を終了またはサスペンドし、元の状態に戻ります。

アプリケーションの割り当てを変更する

各ボタンに割り当てられているアプリケーションは、変更することができます。

- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「FM 便利ツール」、「1. 便利ツール」の順にマウスポインタを合わせ、「2. かんたんボタン」をクリックします。
「かんたんボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

- 変更するボタンのタブをクリックします。



各タブは次のボタンに対応しています。

- 「Application A」タブ
A ボタン
- 「Internet」タブ
Internet ボタン
- 「E-mail」タブ
E-mail ボタン

- 3**
- A ボタンを変更するとき ⇒ 手順 4 へ
 - Internet ボタンを変更するとき
「その他」をクリックして [] を [] にします。⇒ 手順 4 へ
 - E-mail ボタンを変更するとき
使うメールソフトをクリックして [] を [] にします。⇒ 手順 7 へ

アドバイス

E-mail ボタンを変更するとき

割り当てたいメールソフトがメールソフトの一覧にないときは、「その他」をクリックして [] を [] にし、手順 4 へ進みます。
また、この場合、メールを自動的に受信するには、メールソフト側で「起動時に新着メールを自動的に取りこむ」設定をする必要があります。
設定のしかたについては、各メールソフトのヘルプをご覧ください。

-
- 4** 「[スタート] メニューを参照」をクリックします。
- 5** 表示される一覧で、割り当てるアプリケーション名をクリックします。
- 6** 「OK」をクリックします。
- 7** 他のボタンも変更する場合は、手順 2 ~ 6 を繰り返します。
- 8** 「OK」をクリックします。

アドバイス

CCD カメラのシャッター ボタンをボタンに割り当てる場合

手順 5 で「FM キャプチャ」をクリックし、手順 6 のあとに、「コマンドラインパラメータ」の部分に「/S」と入力してください。
FM キャプチャ起動時には、CCD カメラのシャッター ボタンとして機能します。

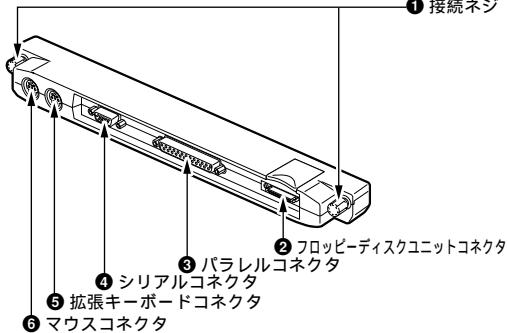
8

コネクタボックスを使う

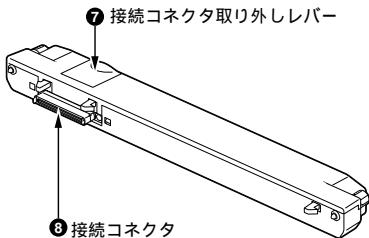
コネクタボックスは、フロッピーディスクユニットのコネクタやマウス／キーボードのコネクタ、シリアルやパラレルなどの各コネクタを備えており、パソコン本体に取り付けて機能を拡張することができます。

コネクタボックスの各部の名称と働き

オプション機器接続側



パソコン本体接続側



① 接続ネジ

コネクタボックスがパソコン本体に
しっかりと接続するように、ネジを回
してロックします。

② フロッピーディスクユニットコネクタ(
参照 P.59)

添付のフロッピーディスクユニッ
トを接続します。

③ パラレルコネクタ(
参照 P.118)
別売のプリンタなどを接続します。

④ シリアルコネクタ(
参照 P.136)
RS-232C規格のインターフェース
をもつ別売の機器を接続します。

⑤ 拡張キーボードコネクタ
(
参照 P.123)

PS/2タイプのコネクタをもつ別売
のテンキーボードなどを接続します。

⑥ マウスコネクタ(
参照 P.120)
PS/2タイプのコネクタをもつ別売
のマウスを接続します。

⑦ 接続コネクタ取り外しレバー
接続コネクタをパソコン本体から取
り外す場合にレバーを起こします。

⑧ 接続コネクタ
コネクタボックスをパソコン本体に
接続します。

コネクタボックスを取り付ける

ここでは、コネクタボックスの取り付けかたについて説明します。

△ 警告



感電 コネクタボックスの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。

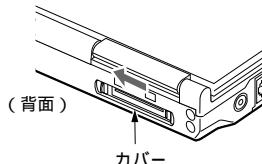
- 1 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします（ \Rightarrow P.38）。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。

アドバイス

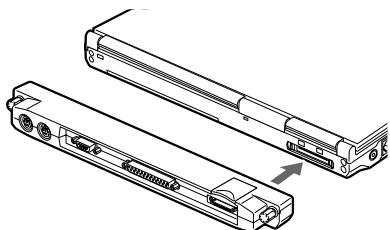
オプション機器を接続しているときは

接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

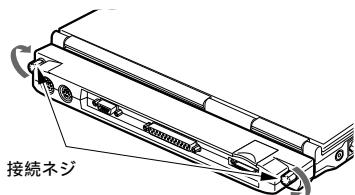
- 4 コネクタカバーを開きます。
パソコン本体背面の、コネクタボックス接続コネクタのカバーを、止まるまでスライドさせます。
カバーが完全に開いていないと、コネクタボックスは取り付けられません。



- 5** コネクタボックスを取り付けます。
コネクタを合わせてしっかりと取り付けます。



- 6** 接続ネジを回してロックします。
左右の接続ネジを押してパソコン本体に差し込んでから、接続ネジを回してしっかりと固定します。



重 要

本パソコンを持ち運ぶ場合

本パソコンを持ち運ぶ場合は、接続ネジでコネクタボックスを必ず固定してください。

コネクタボックスを取り外す

ここでは、コネクタボックスの取り外しかたについて説明します。

△ 警告



コネクタボックスの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。

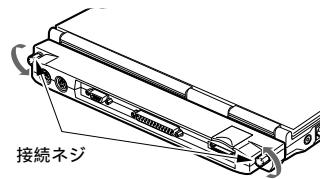
- 1** 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします（◆▶ P.38）。
- 2** ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3** 本パソコンからACアダプタを取り外します。

アドバイス

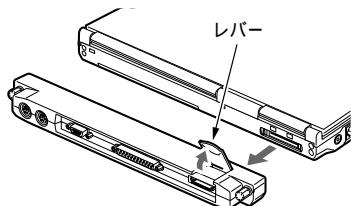
オプション機器を接続しているときは

接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

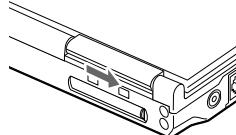
- 4** コネクタボックスの接続ネジをゆるめてロックを外します。
ロックが外れると、接続ネジが飛び出します。



- 5** コネクタボックスを取り外します。
コネクタボックス取り外しレバーを起こしてコネクタボックスを取り外します。



- 6** コネクタカバーを閉じます。
止まるまでスライドさせてください。



9

フロッピーディスクユニットを使う

フロッピーディスクユニットを取り付ける

ここでは、フロッピーディスクユニットの取り付けかたを説明します。

⚠ 警告

感電



- フロッピーディスクユニットの取り付けを行う場合は、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。
感電や故障の原因となります。
- フロッピーディスクユニットは、弊社純正品をお使いください。純正品以外をお使いになると、感電・火災または故障の原因となります。

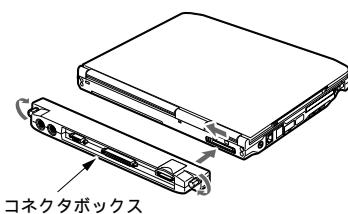
⚠ 注意

故障 ケーブルは本書をよくお読みになり、正しく接続してください。

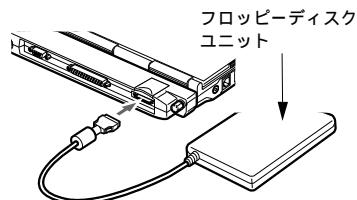


誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびフロッピーディスクユニットが故障する原因となります。

- 1 本パソコンの電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします（ \Rightarrow P.38）。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。
- 4 コネクタボックスを取り付けます。
詳しくは、「コネクタボックスを使う」（ \Rightarrow P.55）をご覧ください。



- 5** フロッピーディスクユニットの接続ケーブルを、コネクタボックスのフロッピーディスクユニットコネクタに接続します。接続ケーブルのコネクタの上下の向きを確認し、コネクタの両側を押しながら、奥までしっかり差し込んでください。



フロッピーディスクユニットを取り外す

ここでは、フロッピーディスクユニットの取り外しかたを説明します。
フロッピーディスクが入っているときは、あらかじめ取り出しておきます。

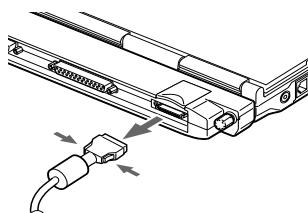
⚠ 警告



感電 フロッピーディスクユニットの取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。

感電や故障の原因となります。

- 1** 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします（ \Rightarrow P.38）。
- 2** ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3** 本パソコンからACアダプタを取り外します。
- 4** フロッピーディスクユニットを取り外します。
接続ケーブルのコネクタの両側を押しながら引いて取り外します。

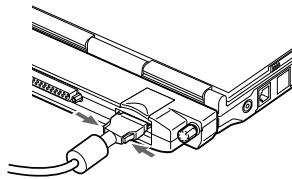


- 5** コネクタボックスを取り外します。
詳しくは、「コネクタボックスを使う」（ \Rightarrow P.55）をご覧ください。

重　要

接続ケーブルを取り外すときの注意

コネクタボックスからフロッピーディスクユニットを取り外すときは、接続ケーブルのコネクタの両側を押しながら引いてください。ケーブルを無理に引っ張ると破損の原因となります。



フロッピーディスクユニットの注意事項

故障を防ぐため、フロッピーディスクユニットをお使いになるときは、下記の事項に注意してください。

- ・ 極端に高温、低温の場所、温度変化の激しい場所での保管は避けてください。
- ・ 直射日光のある場所や発熱器具のそばには近づけないようにしてください。
- ・ 衝撃や振動の加わる場所での保管は避けてください。
- ・ 湿気やほこりの多い場所でのご使用は避けてください。
- ・ 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入ったときは、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- ・ 汚れは、やわらかい布でからぶきするか、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど、揮発性のものは避けてください。
- ・ 本製品を分解したり、解体したりしないでください。
- ・ フロッピーディスクユニットは、外部ディスプレイや液晶ディスプレイ、またはACアダプタなどの、磁界を発生する装置から離して使用してください。
- ・ フロッピーディスクユニットを取り外した状態で、Aドライブにアクセスすると、しばらく(1分間以上)応答しないことがあります。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクは、プログラムやデータを保存しておくための媒体です。ここではフロッピーディスクについての予備知識や、注意する点などを説明します。

■お使いになれるフロッピーディスク■

本パソコンでは、次の2種類のフロッピーディスクを使えます。

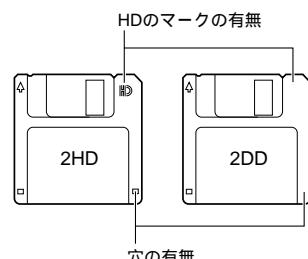
• 2HD フロッピーディスク

フォーマットのしかたにより 1.44MB(メガバイト)と 1.2MB の記憶容量があります。

• 2DD フロッピーディスク

2HD の半分の 720KB(キロバイト)の記憶容量があります。

2種類のフロッピーディスクの違いは右図のとおりです。



■3モードドライブについて■

本パソコンのフロッピーディスクユニットは、1.44MB、1.2MB、720KB の各記憶容量でフォーマットされたフロッピーディスクを読み書きできる3モードドライブです。そのため、ほとんどのフロッピーディスクを読むことができます。

しかし、パソコンによってはドライブがこれらすべてのフォーマット形式に対応していない場合があります。他のパソコンとフロッピーディスクで情報をやりとりするときは、相手のパソコンが対応しているフォーマット形式を確認する必要があります。たとえば、他のパソコンが 1.2MB のフロッピーディスクは読めても 1.44MB のフロッピーディスクが読めない場合は、1.2MB でフォーマットされたフロッピーディスクをお使いください。

アドバイス

フォーマットについて

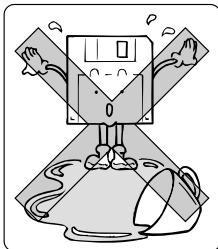
- 本パソコンでは、1.44MB と 720KB の容量にフォーマットできますが、1.2MB にフォーマットできません。1.2MB のフロッピーディスクをお使いになる場合は、1.2MB でフォーマットできる他のパソコンでフォーマットしてください。
- 同じ記憶容量のものでも、フロッピーディスクをフォーマットした環境(機種やソフトウェア)が違うと、フロッピーディスクのデータを読み込めないことがあります。また、他社製のパソコンでフォーマットしたフロッピーディスクは、お使いになれないことがあります。

フォーマット済みのフロッピーディスクについて

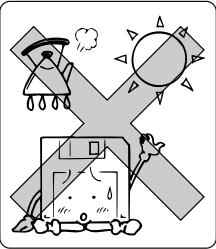
「DOS/V用フォーマット済み」と記載されたものをお買い求めください。

フロッピーディスク取り扱い上の注意

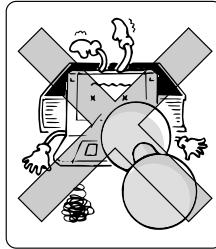
故障を防ぐため、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。



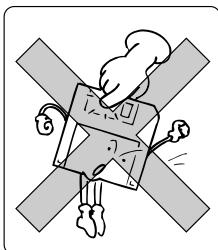
コーヒーなどの液体
がかからないように
注意してください。



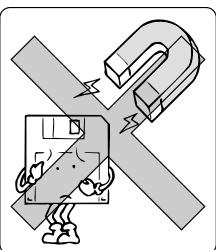
温度の高い場所や直
射日光のある場所
には置かないでく
ださい。



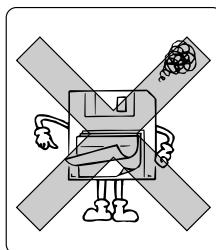
曲げたり、重い物を
のせたりしないでく
ださい。



ディスク面には、絶
対に触れないでく
ださい。



磁石など磁気を帶び
たものを近づけない
でください。



ラベルを重ねて貼ら
ないでください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

ここではフロッピーディスクのセットや取り出しかたについて説明します。

△ 注意



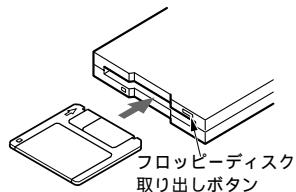
フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクユニッ
トの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

セットする

- 1 フロッピーディスクをフロッピーディスクユニットに差し込みます。

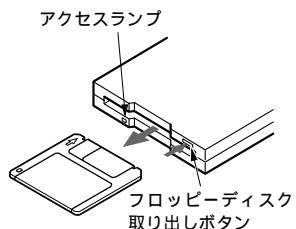
矢印のある面を上にして、フロッピーディスク取り出しボタンが「カシャ」と飛び出るまで押し込んでください。



取り出す

- 1 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクユニットのアクセスランプが消えていることを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



重要

フロッピーディスクユニットのアクセスランプが点灯中のときは

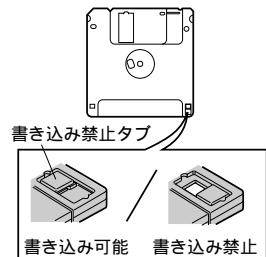
- ・ フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れるおそれがあります。
- ・ サスPEND(一時停止)操作やレジューム(サスPEND状態から元に戻す)操作を行わないでください。正常に動作が完了しないことがあります。

アドバイス

フロッピーディスクのデータを守るには

フロッピーディスクに保存してある情報を消したくないときや、情報を追加して書き込みたくないときは、フロッピーディスクの書き込み禁止タブをスライドさせ、穴があいた状態(書き込み禁止の状態)にします。

再び情報を消したり、書き込んだりしたいときは、書き込み禁止タブをスライドさせ、穴が閉じた状態(書き込み可能の状態)にします。



フロッピーディスクユニットのお手入れ

フロッピーディスクユニットは、長期間使用するとヘッド(データの読み書きをするところ)が汚れていきます。下記の製品をご使用になり、ヘッドのクリーニングをしてください。

品名：クリーニングフロッピィマイクロ

商品番号：0212116

(富士通コワーコ取り扱い品 お問い合わせ 03-3342-5375)

2

本パソコンの取り扱い方

△注意



けが フロッピーディスクをセットおよび取り出すときには、フロッピーディスクユニットの差し込み口に指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。
- 2 「MS-DOS モードで再起動する」をクリックしてにし、「OK」をクリックします。
MS-DOS モードの画面が表示されます。
- 3 「C:>WINDOWS>」のあとに `c:>fjuty>cldnsk 0` (0 は数字のゼロ)と入力し、を押します。
「cldnsk」と「0」の間は、 (または) を 1 回押してください。
- 4 クリーニングフロッピーをフロッピーディスクユニットにセットして、を押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。
終了すると、「ヘッドクリーニングが終了しました。」と表示されます。
- 5 フロッピーディスクユニットのアクセスランプが消えているのを確認して、フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
- 6 「C:>WINDOWS>」のあとに `exit` と入力し、を押します。
Windows98 の画面に戻ります。

バッテリで使う

本パソコンのバッテリでの使用時間には、限りがあります。使っている途中でバッテリが切れ、大切なデータをなくしてしまわないように、節電に心がけましょう。

ここでは、バッテリの充電方法や節電方法について説明します。

バッテリを充電する

充電する

内蔵のバッテリパックを充電するには、ACアダプタのプラグを本パソコンのDC-INコネクタに接続してから、コンセントに接続します。

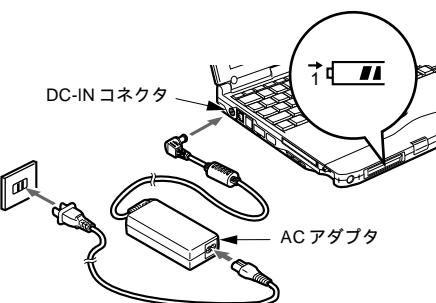
ACアダプタを接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。充電中は、状態表示LCDの■■■(バッテリ残量表示)の左上に→(バッテリ充電表示)が表示されます。

△ 注意



故障 間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびオプション機器が故障する原因となることがあります。



充電が完了すると、状態表示LCDの→(バッテリ充電表示)が消え、バッテリ残量表示が■■■(点滅)から■■■(点灯)に変わります。

アドバイス

MAINスイッチをOFF(○側)にしているときは

充電が完了してしばらくすると、状態表示LCDの表示が消えます。この場合には、いったん電源を入れて、バッテリ充電表示を確認してください。

重　要

バッテリの残量が90%以上のときは
充電を開始しないことがあります。

充電するときの温度は

充電は、周囲の温度が10 ~ 30 の範囲で行ってください。温度が低すぎたり高すぎたりすると、電池容量が低下し、バッテリで使える時間が短くなります。

バッテリで使用した直後に充電するときは

バッテリの温度が上昇しているため、バッテリ保護機能が働いて充電できないことがあります（状態表示LCDの→が点滅しています）。この場合は、適温になると自動的に充電が開始されます。

フルに充電したいときは

充電中は、状態表示LCDの→（バッテリ充電表示）が消えるまで、ACアダプタを外さないでください。フル充電になると→が消えます。バッテリ残量表示が■■■■になっていても、左端が点滅（■■■■）していたり、→が表示されているときは、フル充電ではありません。

充電にかかる時間

本パソコンの電源を切っている状態やsuspend(一時停止)状態で充電するほうが、使いながら充電するよりも、短い時間で充電が完了します。

新品のバッテリパックを0%からフル充電にする場合、バッテリの充電時間は次のようになります。

バッテリの充電時間

MAINスイッチ	パソコンの状態	充電に必要な時間
ON	動作中	約8時間
ON	サスペンド状態 (一時停止)	約3時間
OFF	終了	約3時間

バッテリで使える時間

本パソコンをバッテリで使える時間（バッテリ稼動時間）は、本パソコンでの作業内容やバッテリの状態によって変わります。大量のデータをコピーするなど、電力を多く消費する作業を行うと、バッテリ稼動時間は短くなります。

新品のバッテリパックがフル充電の場合、稼動時間の目安は約3時間です。

重 要

バッテリ稼動時間について

- 周囲の温度が低いときは、温度が高いときよりも充放電の能力が低くなり、バッテリ稼動時間が短くなります。
- バッテリを長期間使用して充放電を繰り返すと、充電能力が低下して、バッテリ稼動時間が短くなります。バッテリ稼動時間が極端に短くなったら、新しいバッテリパックに交換してください。バッテリパックの交換については、「バッテリパックを交換する」(▶ P.71)をご覧ください。

バッテリの残量表示を確認する

バッテリだけで使用するときには、バッテリの残量にご注意ください。

バッテリが完全になくなると、作業中のデータは失われてしまいます。

バッテリ残量表示

バッテリの残量は、状態表示LCDの「バッテリ残量表示」で確認できます。状態表示LCDに何も表示されていないときは、MAINスイッチをON(側)にしてください。



約 100% ~ 76% 充電されています。



約 75% ~ 51% 充電されています。



約 50% ~ 26% 充電されています。



約 25% ~ 13% になっています。充電してください。



約 12% 以下になっています。バッテリ残量表示が点滅し、警告音が鳴ります。すぐに充電してください。



バッテリ切れ状態です(充電残量 0%)。充電が必要です。

重 要

バッテリ切れ状態になると

自動的にサスPEND(一時停止)状態になり、ACアダプタを接続しないとレジューム(サスPENDする前の状態に戻す)できません。作業中のデータがあるときは、バッテリが完全になくなる前にACアダプタを接続して、レジュームしてください。

アドバイス

バッテリ残量表示について

状態表示LCDに表示されるバッテリ残量表示()は、バッテリ(リチウムイオン電池)の特性上、使用環境(温度条件やバッテリの充放電回数など)により、実際のバッテリ残量とは異なる表示をする場合があります。

■ バッテリ異常の表示 ■

バッテリが正しく充電されないときは、が点滅します。バッテリパックの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合には、バッテリパックが異常です。新しいバッテリパックと交換してください。

バッテリパックの交換については、「バッテリパックを交換する」(▶ P.71)をご覧ください。

● バッテリ残量が少なくなったときは ●

バッテリ残量が約12%以下になると、バッテリ残量表示が点滅し、「ピー」という警報音が一定間隔で鳴り続けます。

また、ご購入時の設定では、バッテリ残量が13%になると画面に警告のメッセージが表示されます。警告のメッセージは、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウで設定を変更することもできます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

アドバイス

次の場合には警報音が鳴りません

- 本体右側面の音量ボリュームで、スピーカーの音量を最小にしている場合
- **[Fn]** を押しながら **[F3]** を押して、スピーカーを OFF にしている場合
(この操作で「ピー」となったときに、スピーカーが ON になります。)

■ バッテリ残量が少なくなったときの対処 ■

なるべく早くACアダプタを接続し、バッテリを充電してください。

AC電源が近くないときは、すぐに次のいずれかの操作を行ってください。

- ① 作業中のデータを保存し、Windowsを終了して電源を切る
- ② Save To Disk機能(▶ P.75)を利用して、本パソコンの電源を切る
大量のデータを保存する必要がある場合には、この方法で対処してください。
- ③ サスPEND(一時停止)状態にする(▶ P.73)

また、バッテリ残量表示が点滅を始めてからしばらく本パソコンを使用した場合には、この方法で対処してください。なお、サスPEND状態は微量の電力を消費します。なるべく早くACアダプタを接続して充電してください。

重 要

バッテリ残量が少なくなったときにデータを保存すると

保存の途中で電源が切れ、作業中のデータを失うことがあります。大量のデータを保存するときは、必ずACアダプタを接続してから保存してください。

バッテリ取り扱い上のご注意

■ バッテリは自然放電します ■

- ・バッテリは、本パソコンに取り付けたままご使用にならなくとも少しずつ自然放電していきます。バッテリは、使う直前に充電することをお勧めします。
- ・長期間(約1ヶ月以上)本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリパックを取り外して、涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。
月に一度は本パソコンをバッテリで使用し、バッテリの状態を確認してください。

■ バッテリは消耗品です ■

バッテリは、長期間使用して充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。バッテリ稼動時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリパックに交換してください。バッテリの交換については、「バッテリパックを交換する」(\Rightarrow P.71)をご覧ください。

重　要

バッテリパックの廃棄について

バッテリパックの廃棄にあたっては、バッテリパックがショートしないよう、バッテリ端子をテープ等で絶縁し、地方自治体の条例または規則に従ってください。

■ バッテリパックの交換 ■

本パソコンは、バッテリ運用時でもパソコン本体がサスPEND状態(\Rightarrow P.73)かSave To Disk状態(\Rightarrow P.75)であれば、内蔵バッテリパックの交換が行えます(\Rightarrow P.71)。その際は、以下の点に注意し、充電済みの内蔵バッテリパックと交換してください。

- ・サスPENDする前にデータを保存してください。
- ・内蔵バッテリパックの交換は、3分以内に行ってください。
- ・内蔵バッテリパックの交換中にSUS/RESスイッチ(\Rightarrow P.25)を押さないでください。
- ・内蔵バッテリパックの交換中に液晶ディスプレイを開け閉めしないでください。
- ・内蔵バッテリパックの交換後、パソコン本体をレジュームさせる場合は、内蔵バッテリパックがロックされていることを確認してください。

なお、ご購入時および長時間本パソコンをご使用にならなかった場合は、内蔵バッテリパックを交換する前に、ACアダプタでの通電を半日以上行ってください。また、パソコン本体のバッテリパック接続端子には触れないでください。

バッテリパックを交換する

ここでは、本パソコンの内蔵バッテリパックの交換方法について説明します。

予備のバッテリパックは、「内蔵バッテリパック」(FMVNBP105)をお買い求めください。

△ 警告



感電

- 内蔵バッテリパックを交換するときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。
- バッテリパックは、大変デリケートな製品です。交換などで取り付け／取り外しをする場合は、誤って落下させるなど、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリパックは、使用しないでください。
感電や破裂の原因となります。

△ 注意



感電

- バッテリパックのコネクタ端子部分を、濡れた手や金属で触れないでください。
バッテリパックがショートなどして、感電や火災の原因となることがあります。

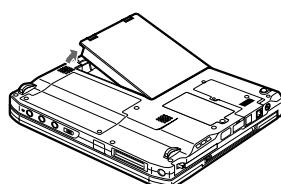
1 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします（ \Rightarrow P.38）。

2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。

3 本パソコンからACアダプタを取り外します。

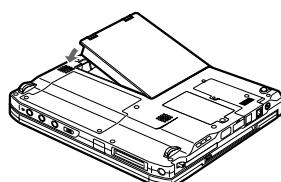
4 内蔵バッテリパックを取り外します。

内蔵バッテリパックの2ヶ所のツメを押さえながら持ち上げて、内蔵バッテリパックを取り外します。



5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックのコネクタを先に接続し、パソコン本体に取り付けます。



作業を中断するには

本パソコンを使用中に作業を一時的に中断したくなつたときは、以下の3つの方法から作業の状況に合わせて、作業を終了または中断することができます。ここでは、それらの使い分けと、操作方法について説明します。

状況に合わせた作業の終わりかた

以下の3つの方法を状況に合わせて使い分けることにより、バッテリの消耗を抑えることができます。

作業状態をメモリに保持したまま一時停止する（サスPEND機能^{*}）

作業中の状態をメモリに保持したまま、本パソコンのメモリ以外の大部分の電源を切り、パソコン本体をサスPEND（一時停止）状態にします。

この場合、次に本パソコンを使うときは、レジューム操作によって前回の作業状態から作業を再開することができます。

操作については、「一時停止状態にする（サスPEND機能）」（ \Rightarrow P.73）をご覧ください。

* Windows98の画面やヘルプでは、「サスPEND機能」は「スタンバイ機能」と呼ばれています。「サスPEND」と「スタンバイ」は、同じ機能を表します。

作業状態をハードディスクに保存する（Save To Disk機能^{*}）

作業中の状態をハードディスクに保存して、本パソコンのすべての電源を切り、パソコン本体を休止状態にします。

この場合、次に操作を行うときは、レジューム操作によって、前回の作業状態から作業を再開することができます。

操作については、「作業を中断して電源を切る（Save To Disk機能）」（ \Rightarrow P.75）をご覧ください。

* Windows98の画面やヘルプでは、Save To Disk機能で電源を切った状態は、「休止状態」と呼ばれています。

Windowsを終了する

作業を完全に終了するときに行う操作です。

- ① 作業中のデータを保存し、使用中のすべてのアプリケーションを終了します。
- ② Windowsを終了し、電源を切れます。
- ③ MAINスイッチをOFFにします。

この場合、次に操作を行うときは、MAINスイッチをONにし、Windowsを起動してアプリケーションを起動するなど、すべて最初から始めることになります。

操作については、「電源を切る」（ \Rightarrow P.38）をご覧ください。

一時停止状態にする（サスPEND機能）

以下の操作を行うと、メモリの内容（作業状態）を保持したまま、本パソコンのメモリ以外の大部分の電源が切れます。作業を一時停止して節電する場合などに使用します。

- 1 作業中に SUS/RES スイッチを押します。
または、液晶ディスプレイを閉じます。
「ピピッ」という音がして、画面が真っ暗になります。
この状態が「サスPEND（一時停止）状態」です。
サスPEND（一時停止）状態では、状態表示LCDの①（SUS/RES表示）が点滅します。

■作業を再開（レジューム）するには■

- 1 SUS/RES スイッチを押します。
状態表示LCDの①（SUS/RES表示）が点滅から点灯に変わり、しばらくすると中断する前の画面が表示されます。

アドバイス

次の操作でもサスPEND（一時停止）状態になります

「スタート」メニューの「Windows の終了」をクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」を選択して、「OK」をクリックします。

同じ操作で Save To Disk 機能を利用することもできます

BIOS セットアップの設定によって、同じ操作（SUS/RES スイッチを押すなど）で Save To Disk 機能で電源を切るようにすることもできます（◆► P.159）。

液晶ディスプレイを開いたときにレジュームすることもできます

BIOS セットアップの設定によって、液晶ディスプレイを開けばレジュームすることもできます（◆► P.160）。

電話が鳴ったらレジュームするように設定できます

モジュラーケーブルで電話回線に接続しているときに、電話が鳴ったら自動的にレジュームするように設定することができます。詳しくは、「電話がかかると再開（レジューム）するように設定する」（◆► P.79）をご覧ください。

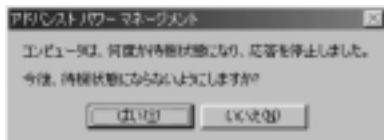
重 要

次の場合には液晶ディスプレイを閉じたり、SUS/RESスイッチを押さないでください
必ず以下の作業を完了または中断させてから、サスPEND(一時停止)してください。

- フロッピーディスクやCD-ROMドライブへのアクセス中
動作が完了しないことがあります。
- ハードディスクへのアクセス中やWindowsの終了処理中(状態表示LCD
に□が表示されているとき)
ハードディスクが壊れたり、動作が正常に完了しないことがあります。
- モデムで通信中
通信が終了してからサスPEND機能が働きますが、アプリケーションに
よってはエラーとなる場合があります。
- PCカードの利用中や、LANカード経由でネットワークに接続中
バッテリ稼動時間が短くなったり、動作が正常に完了しないことがあります。また、サスPEND機能が働かないことがあります。

サスPEND(一時停止)中は、MAINスイッチをOFFにしないでください
サスPEND状態では、作業状態をメモリに保存しています。MAINスイッチを
OFFにすると、作業中のデータがすべて消えてしまいます。

「今後、待機状態にならないようにしますか？」と表示されたら
このメッセージは、サスPEND中に電源を切ったり異常終了したりすると、表
示されることがあります。
表示された場合には、必ず「いいえ」をクリックしてください。「はい」をク
リックすると、それ以降サスPEND機能が使用できなくなります。



作業を中断して電源を切る (Save To Disk 機能)

以下の操作を行うと、メモリの内容（作業状態）をハードディスクに保存したあと、パソコン本体のすべての電源が切れます。

1 作業中に [Fn] を押しながら SUS/RES スイッチを押します。

「ピビッ」という音がして、ハードディスクへの保存状態を示す画面が表示されます。保存が完了すると、自動的に本パソコンの電源が切れます。

この状態では、状態表示 LCD の ① (SUS/RES 表示) が消え、MAIN スイッチを OFF にすることができます。

■ 作業を再開（レジューム）するには ■

もう一度SUS/RESスイッチを押します。MAINスイッチをOFFにしているときは、ON（側）にします。

重 要

次の場合には Save To Disk 機能を使わないでください

必ず以下の作業を完了または中断させてから、Save To Disk 機能で電源を切ってください。

- フロッピーディスクや CD-ROM ドライブへのアクセス中
動作が完了しないことがあります。
- PC カードの利用中や、LAN カード経由でネットワークに接続中
バッテリ稼動時間が短くなったり、動作が正常に完了しないことがあります。また、Save To Disk 機能が働かないことがあります。

オプション機器を接続しているときは

Save To Disk機能を使用したときは、レジューム時に各オプション機器が初期化されるため、Save To Disk機能で電源を切る前の作業状態に戻らないことがあります。

Save To Disk 機能が使えない場合

ハードディスクに、Save To Disk 機能用の保存領域（Save To Disk 領域）が作成されていない場合は、Save To Disk 機能は使えません。

詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」（⇒ P.208）をご覧ください。
ご購入時には、あらかじめ Save To Disk 領域が作成されています。

節電の設定を変更する

本パソコンには、一定時間操作しなかったときや特定の状態になったときに、一部の機能を制限して節電する機能があります。これらの機能は、状況に応じて適切に働くように、あらかじめご購入時に設定されています。通常は、設定を変更する必要はありません。

節電機能の動作を変更したい場合には、「コントールパネル」の (電源の管理) または「PMS98」で設定することができます。

アドバイス

Windows98 の ACPI モードについて

Windows98 の節電機能には、APM (Advanced Power Management) モードと ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードという 2 つの管理方法があります。詳しくは「ACPI モードについて」(▶ P.212)をご覧ください。

「電源の管理」で設定を変更する

本パソコンを一定時間操作しなかったときに節電する機能や、その他の基本的な節電機能については、「コントールパネル」の (電源の管理) で設定します。

■「電源の管理のプロパティ」ウィンドウを表示する■

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントールパネル」をクリックします。
「コントールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2  (電源の管理) をクリックします。
「電源の管理のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



■設定を変更する ■

「電源設定」タブでは、一定時間操作しなかったときの節電機能を設定します。

「アラーム」タブでは、バッテリの残量が少なくなったときの警告方法について設定します。

各設定項目の機能や設定方法について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

アドバイス

「電源の管理のプロパティ」と BIOS の省電力機能との関係について

本パソコンは、BIOS セットアップの「省電力」メニューでも、節電機能を設定することができます。

詳しくは「省電力」メニューの各設定項目の説明（ \Rightarrow P.158）をご覧ください。

バッテリの残量が 12% 以下になったとき

「アラーム」タブの設定に関係なく、状態表示 LCD の  (バッテリ残量表示) が点滅し、警告音が鳴ります。詳しくは「バッテリ残量が少なくなったときは」（ \Rightarrow P.69）をご覧ください。

「PMSet98」で設定を変更する

「PMSet98」では、本パソコンをバッテリで使用しているときに液晶ディスプレイの明るさを暗くして節電したり、バッテリインジケータの表示方法などを設定したりできます。

■「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウを表示する

- タスクバーの⑪(AC電源使用時)または⑫(バッテリ使用時)をダブルクリックします。

「PMSet98 のプロパティ」ウィンドウが表示されます。



アドバイス

タスクバーの⑬が点滅しているときは
バッテリを充電していることを示しています。

タスクバーに⑭または⑮が表示されていないときは

「PMSet98」が起動していません。「PMSet98」を起動するには、「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「PM Set98」の順にマウスポインタを合わせ、「1.PMSet98」をクリックします。

PMSet98 を終了するには

タスクバーに⑯または⑰が表示されているときは、「PMSet98」の機能が働いています。「PMSet98」の機能を使用しないときは、⑪または⑫を右クリックして「終了」をクリックし、「PMSet98」を終了させてください。

■液晶ディスプレイの明るさを暗くして節電する

「電源依存」タブの「LCD バックライト」の設定を変更します。AC 電源で使用している場合と、バッテリで使用している場合のそれぞれについて設定できます。

明るさは 8 段階に設定でき、「暗」に近づけるほど節電できます。⑮を押しながら⑯または⑰を押すと、設定した明るさを一時的に変更できます。

アドバイス**PMSet98 の設定について**

本パソコンを再起動したり、サスペンドからレジュームしたり、AC アダプタの取り付けや取り外しを行ったときは、「PMSet98」で設定した明るさに戻ります。

「CPU クロック」について

この項目は、設定できません。

■電話がかかると再開（レジューム）するように設定する■

「その他」タブの「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」をクリックしてにします。サスペンド（一時停止）中に電話回線からモデムに着信したとき、自動的にレジュームする（サスペンドする前の状態に戻る）ようになります。
ただし、USB コネクタに接続した携帯電話やPHSからの着信ではレジュームしません。

アドバイス**BIOS セットアップの「モデム着信によるレジューム」との関係は**

この設定は、BIOS セットアップの「省電力」メニューの「モデム着信によるレジューム」の設定（ $\text{②} \blacktriangleright \text{P.160}$ ）と連動しています。「PMSet98」で設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。ただし、「PMSet98」が起動していないときは、Windows98 により、自動的にレジュームするように設定されます。

レジュームするように設定したときは

- BIOS セットアップの「省電力」メニューで、「サスペンド動作」（ $\text{②} \blacktriangleright \text{P.159}$ ）を「Save To Disk」に設定している場合でも、サスペンド動作時に Save To Disk 機能が働かず、サスペンド（一時停止）状態になります（この場合でも、[Fn] を押しながら SUS/RES スイッチを押すと、Save To Disk 機能は働きます）。
- Save To Disk 機能で電源を切っているときは、電話がかかってきてもレジュームしません。

■インジケータを表示する■

「インジケータ」タブの「インジケータを表示する」をクリックしてにします。バッテリ残量や電源の状態を示すインジケータが、画面に表示されます。

電源の状態が表示されないときは、「電源の状態を表示する」をクリックしてにしてください。「表示位置」の右の  をクリックして、インジケータの表示位置を変更することもできます。

インジケータの表示と電源の状態

 : ① があればACアダプタに接続中。

 : ① が黄色のときは充電中。

 : バッテリだけで使用中。グレー部分が消費した割合を表示。

電話回線への接続と所在地情報の設定

インターネットを利用するときは、本パソコンを電話回線に接続します。

ここでは、室内の電話回線を使って通信する場合の接続方法と所在地情報の設定方法を説明します。携帯電話を使って通信する場合の接続方法については、「携帯電話やPHSを使う」(▶ P.113)をご覧ください。

接続前の確認と準備

電話回線を接続するときの注意

内蔵モデムに電話回線を接続するときは、次の注意事項を確認して接続してください。

電話回線の接続口について

電話回線の接続口には、一般的に「モジュラージャック」と「ローゼット」の2種類の形式があります。本パソコンに添付されているモジュラーケーブルは、接続口がモジュラージャックの場合のみ接続できます。

ご利用になる電話回線の接続口を、モジュラージャックに取り替える場合は、認定を受けた工事担当者またはその監督の下で作業を行ってください。

また、最寄りのNTTの営業所または支店へ取り替え工事を依頼することもできます。

モデムが使用可能な回線

本モデムは、接続する電話回線がNTTの一般公衆電話回線の電気的な仕様と同じでないと正常に動作しません。

ホームテレホン、ビジネスホンなどには接続できません

本モデムが接続できる回線は、一般的NTT公衆電話回線のみです。ホームテレホン、ビジネスホン、キーテレホン、ボタン電話などは、NTTの電話回線と電気的な仕様が異なるため接続できません。接続前に電話装置メーカーや保守業者にお問い合わせください。

デジタル回線に接続する場合

本モデムはデジタル網（ISDN等）やデジタル構内交換網（デジタルPBX）の回線に直接接続することはできません。本モデムが故障するおそれがありますので、ターミナルアダプタ等を経由して、アナログポートに接続してご使用ください。

PBXに接続する場合

PBXに接続される通信回線の仕様がNTTの電話回線と電気的な仕様が異なる場合、本モデムが使用できない場合があります。例えば、呼出信号の電圧や周期、ダイヤルトーンの条件などについてはNTT回線の仕様に準拠しています。接続する前に、使用されているPBXの製造メーカーや保守業者にお問い合わせください。

ただし、"0"発信によって外線に接続するPBX内線電話の場合、ご使用のアプリケーションの設定で初期化コマンドにATX3を追加するか、または発信音をチェックしない設定をすることで、発信できことがあります。

キヤッチホン契約をしている場合

キヤッチホン契約をしている場合は、パソコン通信やFAX送受信中に他から電話がかかると、回線が一時的に切断されます。その際、通信データが壊れたり、送受信が中止されたりすることがあります。キヤッチホン2に変更するか、または同一の回線ではご使用にならないでください。

通信アプリケーションご使用時の注意

通信アプリケーションでデータのアップロード・ダウンロードを行う際には、パソコンがサスPEND状態にならないように設定してください。アップロード・ダウンロードの途中でサスPEND状態になると、データ転送が中断することがあります。

国内でご使用ください

本モデムは、日本国内での規格に基づいて設計されていますので、海外では使用できません。

電源ケーブル等は離してご使用ください

電源ケーブル等は、ノイズを発生して電話回線に影響をおよぼす場合があります。モデムをご使用になる際は、これらのノイズ源と回線を影響のない程度に離してご使用ください。

ATコマンドについて

本モデムのATコマンドについては、「アプリケーションCD」のPDFマニュアル(¥Modem¥4661内蔵モデム取説)をご覧ください。

PDFマニュアルの使いかたは、『情報生活術入門』の「アプリケーションのご紹介」をご覧ください。

●パソコンと電話機の両方を接続する場合は●

本パソコンを電話回線に接続するときは、電話機のモジュラーケーブルは取り外すため、電話は使用できません。

■電話機を取り外したくないときは■

市販の分岐アダプタを利用すると、本パソコンと電話機の両方を電話回線につないでおくことができます。分岐アダプタを壁のモジュラージャックに取り付け、分岐アダプタに本パソコンと電話機の両方を接続します。分岐アダプタの2つのコネクタに区別はなく、どちらに接続してもかまいません。ただし、分岐アダプタを使用するときは、なるべく2分岐以内にしてご使用ください。

アドバイス

分岐アダプタを使用しているときの注意事項

- 内蔵モデムで通信中は、電話をかけたり受けたりできません。
- 通信中は、電話の受話器を外さないでください。受話器が外れると受話器からの音声が回線に入り込み、正しいデータの送受信ができなくなります。
- ノイズによって、通信エラーが発生することがあります。
- 通信速度が遅くなることがあります。

電話回線に接続する

△ 警告



近くで雷が起きたときは、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、モジュラーケーブルをモジュラージャックから抜いてください。
そのまま使用すると、雷によっては本パソコンを破壊し、火災の原因となります。

△ 注意



間違えないように接続してください。
誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および内蔵モデムが故障する原因となることがあります。



モジュラーコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。

1 電話機を電話回線から取り外します。

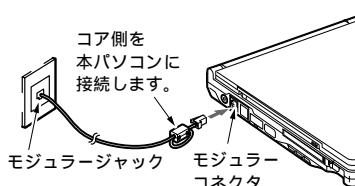
壁のモジュラージャックから、電話機を接続していたモジュラーケーブルを外します。モジュラープラグのツメを押さえながら、引き抜いてください。



2 本パソコンのモジュラーコネクタのゴムカバーを外します。

取り外したカバーは、モジュラーケーブルを本パソコンから取り外したときに、元どおりに取り付けます。なくさないように保管してください。

3 モジュラーコネクタに、本パソコンに添付されているモジュラーケーブル(長さ4m)のコア(⇒P.222)が付いている方のプラグを接続し、もう一方を壁のモジュラージャックに接続します。



重 要

市販のモジュラーケーブルを使うときは

ノイズが発生して、通信エラーを引き起こすことがあります。

ノイズの影響を減らすため、添付のモジュラーケーブルのコアを取り外して、お使いになるケーブルに付け替えてください。特に、長いケーブルをお使いの場合には、必ずコアを取り付けてください。

所在地情報の設定と切り替え

インターネットを使うなど通信を行うときに必要な所在地情報は、Windows98のセットアップ操作(▶ P.3)すでに設定しています。ここでは、移動先などでも通信が行えるように、所在地情報を追加したり切り替えたりする操作を説明します。

■ 所在地情報とは ■

インターネットなど通信を利用するときは、本パソコンのあるところ(これを発信元といいます)から、接続先(アクセスポイントといいます)に電話をかけて相手のコンピュータに接続します。

このとき、接続先に電話を正しくかけるための情報が所在地情報で、次のように電話のかけかたを決める働きをします。

- トーンとパルスのどちらの方法でダイヤルするか
- 市外局番を付けてダイヤルするかどうか
- 内線から外線につなぐための番号(外線発信番号)をダイヤルするかどうか

所在地情報の変更が必要になるのは

出張先などの移動先や携帯電話で通信を行うときは、その状況に合わせて、正しく電話がかけられるように所在地情報の内容を変える必要があります。

「移動先や携帯電話用の所在地情報を設定する」(▶ P.84)をご覧になり、あらかじめ複数の所在地情報を作成しておけば、接続するときに所在地情報を選び直すだけで済みます。

■ 移動先で室内の回線を使うときは ■

移動先で通信を行うときは、次のようにダイヤルする必要があります。

- 移動先の電話回線に合わせてトーンかパルスでダイヤルする
- アクセスポイントの市外局番が移動先の市外局番と違うときは、市外局番を付けてダイヤルする
- 移動先の電話回線に合わせて、外線発信番号を削除または追加してダイヤルする

■携帯電話やPHSを使うときは■

携帯電話やPHSで通信を行うときは、次のようにダイヤルする必要があります。

- 必ず市外局番を付けてダイヤルする
- 必ず外線発信番号を付けないでダイヤルする

■移動先や携帯電話用の所在地情報を設定する■

移動先や携帯電話でも通信できるように、移動先や携帯電話用の所在地情報をあらかじめ作成しておきましょう。

- 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
-  (テレフォニー) をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 「登録名」の右にある「新規」をクリックします。
「新しい場所が作成されました」というメッセージが表示されます。
- 「OK」をクリックします。
「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウに戻ります。

- 「登録名」の欄に所在地情報に付ける名前を入力します。
所在地情報の内容（市外局番、外線発信番号、ダイヤル方法）が分かる名前を付けます。
例：自宅(042、パルス)、会社(03、0発信、トーン)、携帯(000、トーン)、PHS(000、トーン)



6 「国名／地域」が「日本」になっていることを確認します。

7 市外局番に発信元の市外局番を半角数字で入力します。

アドバイス

携帯電話やPHSの場合は

- 接続先の市外局番が所在地情報に設定した市外局番と同じ場合は、接続するときに市外局番がダイヤルされません。
- 接続先とは違った市外局番（「000」など）を入力して、市外局番を常に付けてダイヤルするようにします。

8 内線から電話する場合は外線発信番号を入力します。

会社やホテルなど内線電話を使う場合は、外線につなぐための「0」などの番号を入力します。

外線発信番号が不要な一般的の電話や、携帯電話、PHSを使うときは、外線発信番号があると接続できません。

アドバイス

外線発信番号に続けてダイヤルすると接続できない場合は

外線発信番号をダイヤルしたあとに、少し待ってからダイヤルしないと電話がかからない場合は、半角のカンマ「,」を外線発信番号に続けて入力します。

カンマ1つにつき、約2秒間待ってからダイヤルします。

例：「0,」（0のあと約2秒待ってダイヤル）「0,,」（4秒待ってダイヤル）

ナンバーディスプレイ対応の電話番号に接続する場合は

「184」や「186」のあとに、少し待ってからダイヤルしないとかからない場合は、内線電話と同様に「184」や「186」と接続先電話番号の間に半角のカンマ「,」を入力してください。

9 「ダイヤル方法」を設定します。

使用する電話がパルス式（ダイヤル回線）なら「パルス♪ トーン式（ブッシュ回線）なら「トーン」をクリックして、にします。

ISDN回線を使うときは、「トーン」に設定します。

アドバイス

パルス式かトーン式か分からないときは

パルス式とトーン式では、ダイヤルするときの音で確認することができます。

- パルス式の電話は、「ブツブツ...」と高低のない音が繰り返されます。
- トーン式の電話は、「ピッポッパ」と高低のある音がします。

- 10 「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックし、「コントロールパネル」の (閉じるボタン) をクリックします。

以上で、設定した所在地情報が登録されました。

● 使用する所在地情報を切り替える ●

インターネットへは、前回使用した所在地情報を使って、自動的に接続されます。発信元の場所が変わったり、使用する電話が携帯電話やPHSに変わったときは、インターネットに接続する前に、所在地情報を切り替えてください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2 (テレフォニー) をクリックします。

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 3 「登録名」の右にある をクリックし、一覧から使用する所在地情報をクリックします。



- 4 「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックし、「コントロールパネル」ウィンドウの (閉じるボタン) をクリックします。

12

画面の解像度と発色数を変更する

表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイで表示できる解像度と発色数の組み合わせは、次のとおりです。

解像度	発色数		
	256 色	High Color (16 ピット)	True Color (32 ピット)
640 × 480 ドット ①			2 3
800 × 600 ドット			2
1024 × 768 ドット ④			×
1280 × 1024 ドット ④		×	×

- 1 640 × 480 ドットの領域が、ディスプレイの中央に表示されます。
解像度を 640 × 480 ドットに設定しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれます。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。
- 2 ディザリング機能(疑似的に色を表示する機能)によって、1677万色で表示されます。
- 3 [F5] を押しながら [F5] を押すことによる液晶ディスプレイの全画面表示、および「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「フラットパネル」タブの「ディスプレイストレッチ」を することによる液晶ディスプレイの全画面表示は使用できません。
- 4 仮想スクリーンモードでの表示となります。1024 × 768 ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイには 800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。
解像度を 1024 × 768 ドット以上に設定しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がずれます。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。

アドバイス

ご購入時の解像度と発色数は

解像度は 800 × 600 ドット、発色数は High Color(16 ピット)に設定されています。
High Color(16 ピット)は 65536 色、True Color(32 ピット)は 1677 万色です。

別売の外部ディスプレイを接続したときは

「外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数」(▶ P.135)をご覧ください。

解像度と発色数を変更する

アドバイス

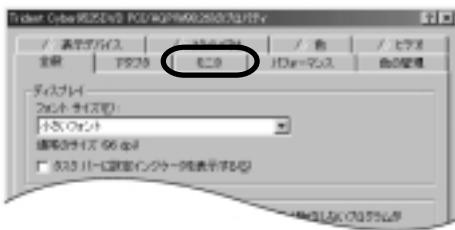
解像度や発色数を変更するときの注意事項

- 表示モードを変更するときに、一時的に表示画面が乱れことがあります。故障ではありません。
- アプリケーションによっては、正常に動作するために発色数の設定が必要になることがあります。アプリケーションの動作環境を確認してから、発色数を変更してください。
- 画面の解像度を変更すると、タッチパネルのタッチした位置とマウスポインタの位置がずれてしまいます。「タッチパネルの調整のしかた」(▶ P.44)をご覧になり、タッチパネルを調整してください。
- また、仮想スクリーンモードではクイックポイントをお使いください。

- 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」、「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「✓ Web ページで表示」をクリックし、「✓」を消します。
- 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- (画面) をクリックします。
- 「設定」タブをクリックします。
解像度を 800×600 ドット以下に設定する場合や、発色数のみを設定する場合は手順 17 に、解像度を 1024×768 ドット以上に設定する場合は、手順 5 に進んでください。
- 「詳細」をクリックします。



6 「モニタ」タブをクリックします。



7 「変更」をクリックします。

「デバイスドライバの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

8 「次へ」をクリックします。

9 「特定の場所にあるすべてのドライバの...」をクリックしてにします。



10 「次へ」をクリックします。

「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。……」というウィンドウが表示されます。

11 「すべてのハードウェアを表示」をクリックしてにします。

- 12 以下のように設定します。
製造元：「(標準モニタの種類)」
モデル：「Super VGA 1280x1024」



- 13 「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」というウィンドウが表示されます。
- 14 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアデバイス用に選択した...」というウィンドウが表示されます。
- 15 「完了」をクリックします。
「Trident Cyber9525DVD PCI/AGP (W98.26)のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
- 16 「閉じる」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウに戻ります。

アドバイス

「リフレッシュレート」ウィンドウが表示されたときは

- 1 「OK」をクリックします。
- 2 「この設定を保存しますか？」というウィンドウで「はい」をクリックします。
このあとは、手順 17 に進んでください。

17 解像度や発色数を変更します。

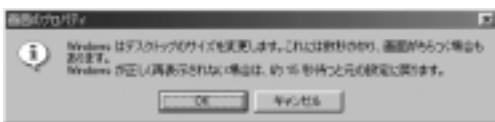


(この画面は、お使いの状況により異なります)

解像度を変更するには、「画面の領域」の を左右にドラッグしてください。
発色数を変更するには、「色」の欄の をクリックし、一覧から変更したい発色数をクリックしてください。

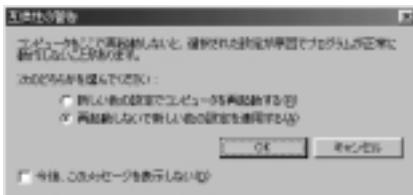
- 18 「OK」をクリックします。
次のいずれかのウィンドウが表示されます。このあと、他のウィンドウが表示されたときは、「OK」または「はい」をクリックしてください。

•「画面のプロパティ」ウィンドウ



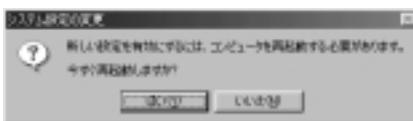
「OK」をクリックします。「この設定を保存しますか？」と表示されたら、15秒以内に「はい」をクリックしてください。

•「互換性の警告」ウィンドウ



「新しい色の設定で...」をクリックしてにし、「OK」をクリックします。本パソコンが再起動し、画面が設定した内容に変更されます。

•「システム設定の変更」ウィンドウ



「はい」をクリックします。本パソコンが再起動し、画面が設定した内容に変更されます。

- 19 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックし、「✓」を表示させます。

13

ボリュームコントロールで音量を設定する

音声入出力時のバランスや音量などを設定したい場合は、「ボリュームコントロール」ウィンドウでそれぞれの音量を調節します。

「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示する

次の2つの方法があります。

- タスクバーの (音量) をダブルクリックします。
- 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテイメント」の順にマウスポインタを合わせ、「ボリュームコントロール」をクリックします。

■ 再生時の音量設定 ■

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「再生」をクリックして にし、「OK」をクリックすると、再生時の音量を設定できます。なお、 が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
ボリュームコントロール	パソコン全体の音量
WAVE	Wave ファイルの音量
SW Synth	(Windows.WDM 標準)のソフトウェア MIDI の音量
3D Depth	3D 効果の調整
ZV	I ² S の音量
CD プレーヤー	未使用
ライン入力	未使用
マイク	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの音量
Phone	モデムの音量

アドバイス

「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります
解像度によっては、「ボリュームコントロール」ウィンドウの一部を表示できないことがあります。

表示されていない項目を表示させるには

「ボリュームコントロール」ウィンドウで、次のように設定します。

1 「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックします。

2 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてを付けます。

項目が「ボリュームコントロール」ウィンドウに表示されるようになります。

■ 録音時の音量設定 ■

「ボリュームコントロール」ウィンドウの「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「録音」をクリックしてにし、「OK」をクリックすると、録音時の音量を設定できます。なお、が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
モノラルミックス	録音全体（モノラル）の録音音量
ステレオミックス	録音全体（ステレオ）の録音音量
ZV	I ² S の録音音量
CD プレーヤー	未使用
ライン入力	未使用
マイク	マイクイン・ジャックに接続したマイクと内蔵マイクの録音音量
Phone	モデムの録音音量

■ その他の音量設定 ■

「ボリュームコントロール」ウィンドウで「オプション」メニューの「プロパティ」をクリックして表示されるウィンドウで「その他」をクリックしてにし、「OK」をクリックすると、その他の音量を設定できます。

なお、が付いている項目は、ご購入時には表示されないように設定されています。

項目	設定する音量
モノラルミックス	スピーカーやヘッドフォンから出力される音声を電話回線へ出力するときの音量
マイク	マイクからの入力音声のみを電話回線へ出力するときの音量 本パソコンをスピーカーフォンとして使う場合は「マイク」の「選択」をクリックして <input checked="" type="checkbox"/> にしてください。



オプション機器を使う

本パソコンにさまざまなオプション機器を接続すると、本パソコンの機能をさらに拡張できます。

オプション機器を接続して使えるようにする方法を説明します。

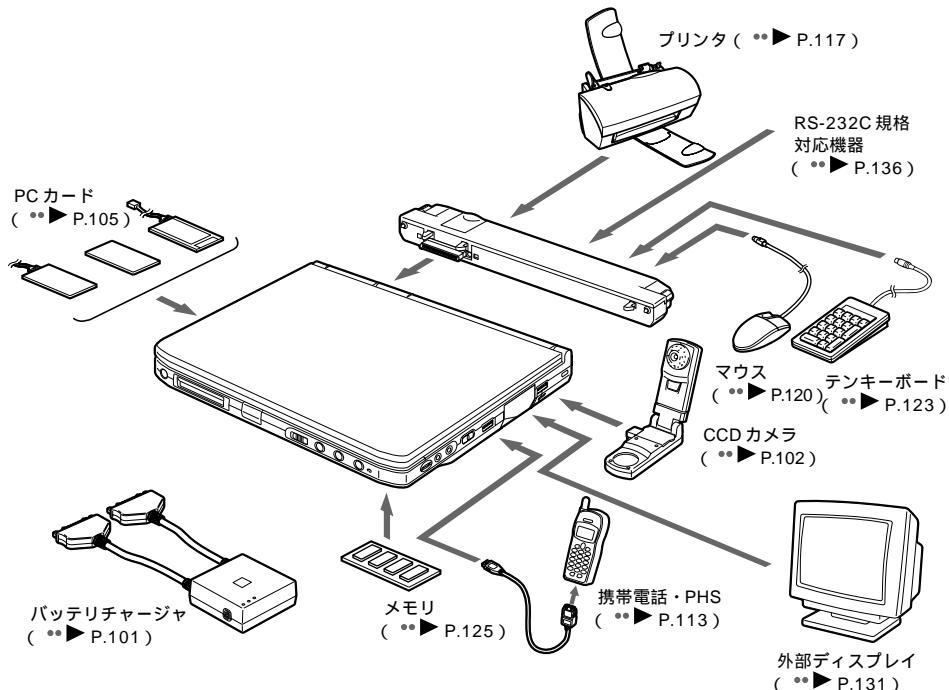
1.	オプション機器を使用するには	9 6
2.	オプション機器の活用例	9 9
3.	バッテリチャージャを使う	10 1
4.	CCD カメラを使う	10 2
5.	PC カードを使う	10 5
6.	CD-ROM ドライブを使う	11 0
7.	携帯電話や PHS を使う	11 3
8.	プリンタを使う	11 7
9.	マウスを使う	12 0
10.	テンキーボードを使う	12 3
11.	メモリを増やす	12 5
12.	外部ディスプレイを使う	13 1
13.	RS-232C 規格対応のオプション機器を使う	13 6
14.	USB 規格対応のオプション機器を使う	13 8
15.	外付けのハードディスクを使う	13 9

オプション機器を使用するには

本パソコンで使用できるオプション機器の種類と、ご購入される際に留意していただきたいことについて説明します。

使用できるオプション機器の種類

オプション機器とは、本パソコンにさまざまな機能を付け加える機器のことです。本パソコンを使う目的に応じて、オプション機器を取り付けてください。



ご購入時に気をつけること

ここでは、別売のオプション機器をご購入される前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

■本パソコンは「PC/AT互換機」■

パソコンには、さまざまな種類のものがあります。本パソコンは、「PC/AT互換機」と呼ばれる種類のパソコンです。また、通称で「DOS/Vパソコン」と呼ばれることもあります。

ここでは、オプション機器の接続について、PC/AT互換機の特徴に沿って説明しています。

■接続は専用ケーブルで■

オプション機器を接続するときに使うケーブルは、「プリンタにはプリンタケーブル」というように、接続するオプション機器によって専用のものが用意されています。また、パソコンの規格によっても使えるケーブルが決まっています。本パソコンで使えるケーブルは、「PC/AT互換機用」または「DOS/V用」などと表示されたものです。形状が同じでつながるように見えても、実際には規格が異なっていて使えない場合もあります。よく確かめてご用意ください。

■純正品をお使いください■

接続するオプション機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします。オプション機器については、販売店にお問い合わせになるか、FAX情報サービスをご利用ください。

パソコン用の機器は、さまざまなメーカーから提供されています。他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになって正しく動作しない場合は、その製品の製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

オプション機器のデバイスドライバについて

オプション機器を使用するためには、多くの場合、本パソコンにデバイスドライバをインストールする必要があります。

■「デバイスドライバ」が必要■

「デバイスドライバ」とは、パソコンに接続する機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。「ドライバ」とも呼ばれます。

ドライバは、それぞれのオプション機器に対して専用のものがあります。たとえば、プリンタの中でも、メーカーや機種が違えばドライバも異なります。必要なドライバは、ほとんどのオプション機器にフロッピーディスクなどで添付されています。

ただし、オプション機器でもメモリのように、ドライバが不要なこともあります。

コラム

ドライバについて

パソコンでオプション機器を使用するときは、多くの場合、ケーブルで機器どうしをつなげたあとに、ハードディスクに「ドライバ」をインストールする必要があります。

たとえば、プリンタを使用するには、パソコンとプリンタを接続し、ハードディスクに「プリンタドライバ」をインストールします。

プリンタドライバはパソコンとプリンタの仲立ちをします。パソコンのプログラムが実行しようとする命令を、プリンタが理解できるように翻訳するのがプリンタドライバの役目です。そのため、プリンタドライバがインストールされていないと、プリンタは正しく動きません。

アドバイス

フロッピーディスクが添付されているときは

オプション機器にドライバの入ったフロッピーディスクが添付されているときは、フロッピーディスクからデバイスドライバをインストールしてください。

Windows のディスクを求めるメッセージが表示されたときは

「Windows 98 Second Editionのラベルの付いたディスクを挿入して[OK]をクリックしてください」というメッセージが表示された場合は、次のフォルダをコピー元に指定してください。

コピー元：「c:\windows\options\cabs」

「バージョンの競合」ウィンドウが表示されたときは

インストールの途中で「バージョンの競合」ウィンドウが表示される場合があります。この場合は表示されたメッセージをご覧になり、新しいドライバがインストールされるように選択してください。

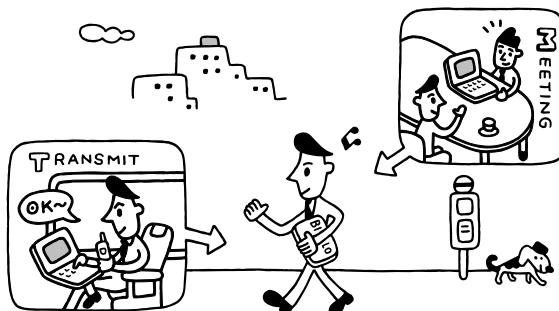
2

オプション機器の活用例

オプション機器を接続すると、本パソコンの用途がさらに広がります。ここでは、活用例を紹介します。

今日の出張に持って行こう！(外で使う編)

「必要なデータをパソコンに入れておけば、資料ファイルは必要ナシ。メモもパソコンに書き込めばいいので、ノートも不要！今日1日、これ1台で大丈夫」



3

オプション機器を使う

■ 予備のバッテリパックを持ち歩く ■

本パソコンを外出先で使用する場合は、ACアダプタを外し、バッテリで使います。内蔵バッテリだけで約3時間使用できます。さらに長時間使用する場合は、充電済みの予備のバッテリパックを用意してください。複数のバッテリパックを用意すると、本パソコンを使用できる時間が2倍3倍...になります。

なお、予備のバッテリパックを充電する場合は、バッテリチャージャを使用すると短時間でバッテリパックの充電を行うことができます。

詳しくは「バッテリチャージャを使う」(▶ P.101)をご覧ください。

■ 携帯電話や公衆電話からメール送受信 ■

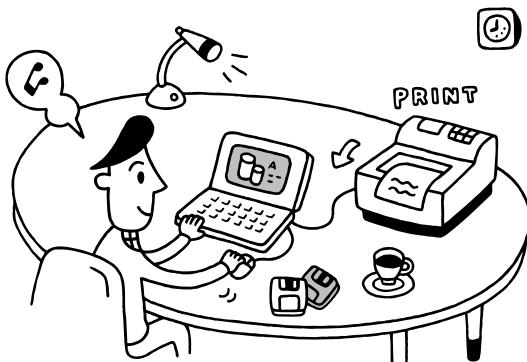
「今日の打ち合わせ資料、1枚追加。メールしておいたから」

突然、課長から携帯電話へメッセージ。本パソコンがあれば、携帯電話や公衆電話などを使って電子メールの送受信ができます。

携帯電話の接続方法については「携帯電話やPHSを使う」(▶ P.113)をご覧ください。

出張のまとめは今日中にやっておこう(家で使う編)

「ちょっと疲れているけど、出張のまとめは今日のうちにやってしまおう！」



■ プリンタをつなげて今日のメモを印刷 ■

「打ち合わせのメモは、明日課長に提出する前に印刷して確認しておこう」
画面上では見落としてしまいがちな誤字脱字も、プリンタを接続して印刷すればチェックできます。

接続方法については「プリンタを使う」(▶ P.117)をご覧ください。

■ フロッピーディスクユニットをつないで、メモをフロッピーディスクに保存 ■

「まとめ終了。フロッピーディスクに保存して、会社に持って行こう」
フロッピーディスクユニット(添付)を取り付ければ、大事なデータをフロッピーディスクに保存できます。
接続方法については「フロッピーディスクユニットを使う」(▶ P.59)をご覧ください。

3

バッテリチャージャを使う

バッテリチャージャは、短時間でバッテリパックの充電ができるオプション機器です。予備のバッテリパックを充電する場合などにお使いください。

バッテリチャージャの使いかた

バッテリチャージャの詳しい使いかたや、お使いになる上での注意事項については、バッテリチャージャのマニュアルをご覧ください。

△ 注意



間違えないように接続してください。

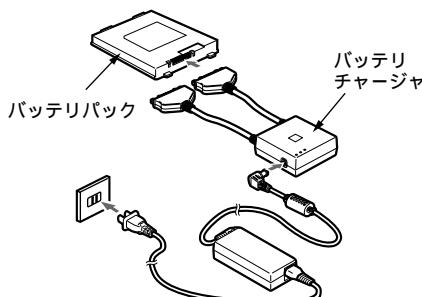
誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体およびバッテリチャージャが故障する原因となることがあります。

アドバイス

- ・ バッテリチャージャは、幣社純正のオプション機器である「バッテリチャージャ(FMV-NCA3)」をお使いください。
- ・ 予備のバッテリパックは、幣社純正のオプション機器である「内蔵バッテリパック(FMVNBP105)」をお使いください。

■ バッテリパックを充電する ■

パソコン本体に添付のACアダプタ、または別売のACアダプタ(FMV-AC305)を接続し、バッテリパックをバッテリチャージャに取り付けます。

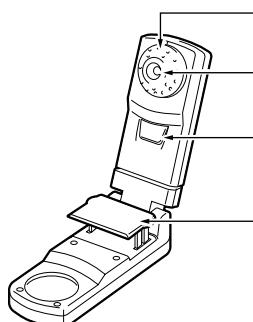


4

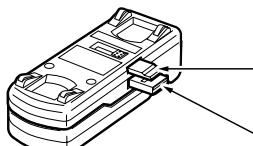
CCD カメラを使う

本パソコンに添付のCCDカメラ(親指シフトキーボードモデルは除く)を使うと、本パソコンでデジタル写真やデジタルビデオ映像を簡単に扱うことができます。

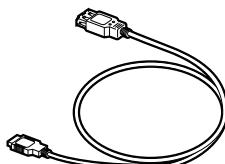
CCD カメラの各部の名称と働き



- ① フォーカスリング
映像のピントを合わせます。
- ② レンズ
被写体を映します。
- ③ シャッター ボタン
映像を撮影するときに押します。
- ④ 固定フリップ
パソコン本体に固定するときに引き出します。



- ⑤ 固定ツメ
パソコン本体に直接接続するときにパソコン本体に差し込みます。
- ⑥ 接続コネクタ
パソコン本体のUSBコネクタに直接接続したり、接続ケーブルを使用してパソコン本体に接続します。



- ⑦ 接続ケーブル
CCDカメラをパソコン本体から離して使用するときなどに使用します。



- ⑧ コア
接続ケーブルのパソコン本体側のコネクタに取り付けます。

CCD カメラを接続する

アドバイス

CCD カメラを接続したあとは

CCD カメラを接続したあとは、『情報生活術入門』の「CCD カメラを楽しむ」をご覧ください。

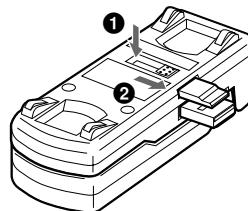
3

オプション機器を使う

■ USB コネクタに直接接続する場合 ■

- 1 CCD カメラ裏面の接続コネクタをスライドさせます。

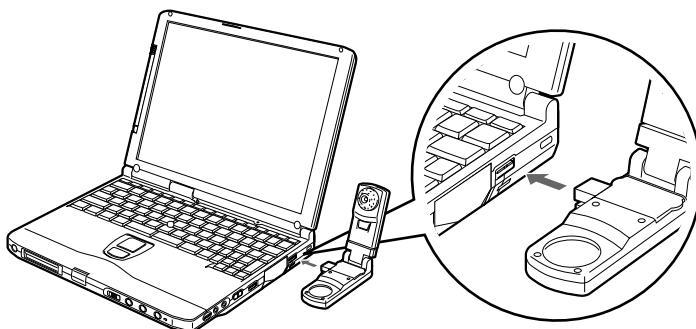
接続コネクタをスライドさせる場合は、ボタンを押さえながら(①)スライドさせてください(②)。



- 2

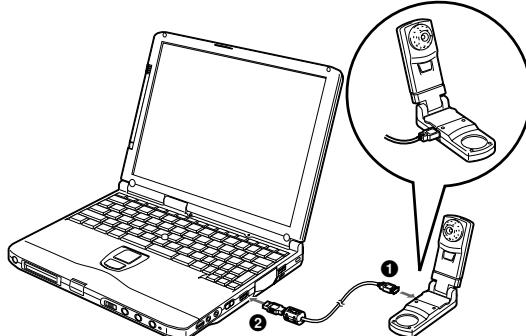
パソコン本体に接続します。

パソコン本体奥側のUSB コネクタとその下にあるCCD カメラ接続スリットに、CCD カメラの接続コネクタとツメをしっかりと差し込んで固定します。



■接続ケーブルを使用する場合■

- 1 接続ケーブルの大きいコネクタをCCDカメラに(①)、小さいコネクタをパソコン本体に接続します(②)。
コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



パソコン本体の横に置いて使用してください。

重要

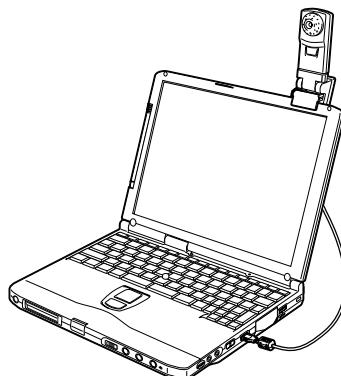
接続ケーブルについて

接続ケーブルを使用する場合、CCDカメラの接続コネクタ(▶P.102)は突出させないでください。コネクタが破損する場合があります。

アドバイス

液晶ディスプレイ上部への固定

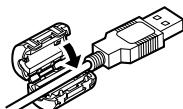
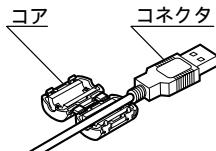
CCDカメラの固定フリップを引き出し、
液晶ディスプレイ上部に固定することも
できます。



コアの取り付け

接続ケーブルを使用する場合は、添付のコアを取り付けてください。

- 1 パソコン本体側のコネクタのすぐ後ろにコアを位置させます。
2 コアを閉じます。



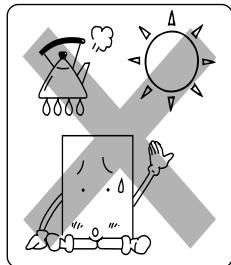
5

PC カードを使う

PC カードは、パソコン本体に機能を追加したり、データを保存するための名刺サイズのカードの総称です。本パソコンには、PC カードを 1 枚セットできます。

PC カードのご使用上の注意事項

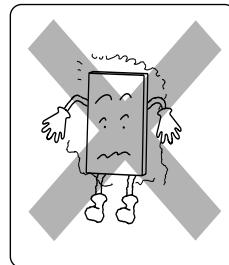
故障を防ぐため、PC カードを取り扱うときは、次の点に注意してください。



温度の高い場所や直射日光のある場所には置かないでください。



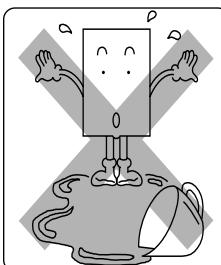
強い衝撃を与えないでください。



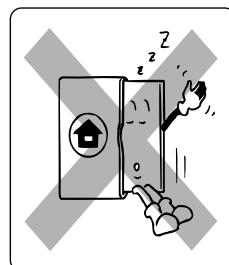
カードをこすったりして静電気をあおさないでください。



重い物をのせないでください。



コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。



保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

使用できる PC カードの種類

本パソコンでは、PC Card Standard に対応した PC カードが使えます。

PC カードは、厚さで分けると TYPE (3.3mm) TYPE (5mm) TYPE (10.5mm) の 3 種類があります。また、動作電圧で分けると 3V 、 5V 、 12V の 3 種類があります。本パソコンでは、厚さが TYPE と TYPE 、動作電圧が 3V と 5V の PC カードが使えます。また、この条件に合った ZV ポート対応の PC カードも使えます。

用語 ズイヴィ ZV ポート

ZV ポートは、動画や音声などのデータを高速に処理するための PC カードの規格です。ZV ポート対応の PC カードを使うと、CPU を経由しないで直接 PC カードとデータをやりとりできます。ZV ポートに対応した PC カードには、ビデオキャプチャカードや MPEG カードなどがあります。

用意するもの

PC カード

目的に応じて用意してください。

PC カードのドライバ

PC カードのドライバは、PC カードとパソコンとのやり取りを仲介するソフトウェアです。本パソコンに初めてセットする PC カードを使用する際は、ドライバをインストールする必要があります。

PC カードにフロッピーディスクが添付されている場合は、その中に入っているドライバのファイルをお使いください。

フロッピーディスクユニット（添付）

PC カードのドライバがフロッピーディスクで添付されているときに必要です。

コネクタボックス（添付）

フロッピーディスクユニットを取り付けるときに必要です。

その他

PC カードによっては、その他の機器やケーブル、ドライバなどが必要になることがあります。詳しくは、PC カードのマニュアルをご覧ください。

PC カードを本体にセットする

PC カードをセットするまでの手順を説明します。

△ 注意



けが PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

3

重 要

Windows のセットアップが済んでからセットしてください

PC カードは、Windows のセットアップ終了後にセットしてください。

Windows のセットアップの前にセットすると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

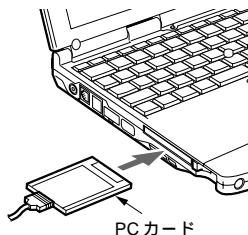
PC カードをセットするときの注意

PC カードによっては、セットするときに本パソコンの電源を切る必要があります。PC カードのマニュアルでご確認ください。

1

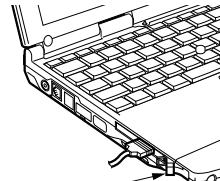
PC カードをセットします。

製品名を上にして、PC カードスロットの奥に差し込みます。PC カード取り出し / ロックボタンが飛び出るまで差し込んでください。



2

PC カード取り出し / ロックボタンを倒し、PC カードをロックします。
PC カード取り出し / ロックボタンを完全に引き出してから倒し、PC カードを金具で固定します。



アドバイス

必要に応じてドライバをインストールしてください

PC カードを使うために、ドライバのインストールが必要になる場合があります。通常は、PC カードにインストール用のフロッピーディスクが添付されていますので、PC カードのマニュアルをご覧になり、インストールを行ってください。

重 要

コネクタの取り扱いに注意してください

PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物をのせたり、ぶつけたりしないでください。

破損の原因となります。

PC カードを取り出す

PC カードを取り出す手順を説明します。

△ 注意



けが PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。



高温 使用した直後のPCカードは、高温になっていることがあります。PCカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。
火傷の原因となることがあります。

1

タスクバーの(PCカード)をクリックします。

「...の中止」が表示されます。「...」はお使いのカードの名称です。

2

「...の中止」をクリックします。

しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」というメッセージが表示されます。

重 要

必ず「...の中止」をクリックしてください

クリックせずにPCカードを取り出すと、PCカードが壊れる原因となります。
また、本パソコンが再起動したり、Windowsが停止することがあります。

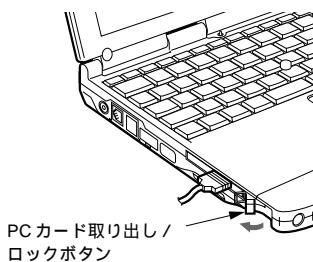
3 「OK」をクリックします。

重 要

「このデバイスは取りはずせません」と表示されたときは

「OK」をクリックし、Windows を終了して電源を切ってから、手順 4 以降の操作を行ってください。電源を入れたままで取り外すと、PC カードが壊れる原因となります。

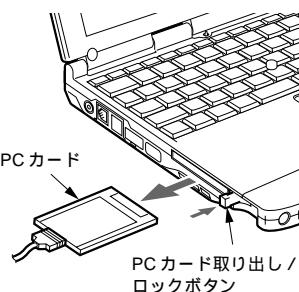
4 PC カード取り出し / ロックボタンを起こします。



PC カード取り出し /
ロックボタン

5 PC カードを取り出します。

PC カード取り出し / ロックボタンを押し、
PC カードを取り出してください。



PC カード取り出し /
ロックボタン

重 要

コードを引っ張らないでください

PC カードを取り出すときに、PC カードのコードを引っ張らないでください。
破損の原因となります。

CD-ROM ドライブを使う

本パソコンは外付けのCD-ROM ドライブを接続することによりCDを使うことができます。また、本パソコンが正常に動作しなくなった場合に、本パソコンをいったんご購入時の状態に戻して正常な状態に回復する作業(リカバリ)には、CD-ROM ドライブが必要です。

本パソコンで使用できる CD-ROM ドライブは、次の 2 つに分けることができます。

- CD-ROM ドライブに専用 PC カードが添付されている場合
- 市販の SCSI カードと CD-ROM ドライブを組み合わせて使う場合

重 要

Windows のセットアップが済んでから取り付けてください

CD-ROM ドライブは、Windows のセットアップ終了後に取り付けてください。

Windows のセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

購入されたらすぐにリカバリ用の設定をしてください

CD-ROM ドライブをご購入されたら、リカバリ作業(パソコンをご購入時の状態に戻すこと)でCD を使えるようにするための設定をすぐに行ってください。設定方法については、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧ください。

この作業を行わないと、リカバリができません。本パソコンに異常が発生してからでは、設定作業がやりにくくなります。

専用 PC カードが添付されている場合

弊社純正品の「CD-ROM ドライブ(FMV-NCD403)」のように専用PCカードとセットになっている CD-ROM ドライブを使うには、次のものが需要です。

■用意するもの■

CD-ROM ドライブ

専用 PC カードで本体に接続して使います。

専用 PC カード

CD-ROM ドライブを接続するのに必要な PC カードで、CD-ROM ドライブに添付されています。PC カードスロットにセットして使います。

■必要な作業■

次のような順序で、接続や設定を行います。

スカジー アイディー

1 製品によっては SCSI ID と終端抵抗を設定します。

設定方法については CD-ROM ドライブのマニュアルをご覧ください。

2 CD-ROM ドライブを PC カードに接続します。

CD-ROM ドライブと PC カードを接続します。接続方法については、CD-ROM ドライブのマニュアルをご覧ください。

3 PC カードをセットします。

PC カードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PC カードを使う」(▶ P.105)をご覧ください。

4 ドライバをインストールします。

ドライバのインストール方法は、PC カードのマニュアルと「オプション機器のデバイスドライバについて」(▶ P.98)をご覧ください。

市販の SCSI カードと組み合わせて使う場合

SCSI 対応の CD-ROM ドライブを使うには、次のものが必要です。

■用意するもの■

SCSI カード

PC カード形式の SCSI カードをご用意ください。CD-ROM ドライブをパソコン本体に接続するために使います。

SCSI 対応の CD-ROM ドライブ

SCSI カードでパソコン本体に接続して使います。

終端抵抗（ターミネータ）

接続された SCSI 機器の間で、データ転送をエラーなく行うためのものです。

終端抵抗は、CD-ROM ドライブに内蔵されている場合と、内蔵されていない場合があります。どちらに該当するかは、CD-ROM ドライブのマニュアルで確認してください。

CD-ROM ドライブに内蔵されている場合は、ディップスイッチなどで設定します。内蔵されていない場合は、CD-ROM ドライブに添付されています。添付されていない場合は、SCSI コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

SCSI ケーブル

CD-ROM ドライブと SCSI カードをつなぐケーブルです。

SCSI カードに添付されている SCSI ケーブルが CD-ROM ドライブに接続できない場合は、CD-ROM ドライブのコネクタの形状に合った SCSI ケーブルをお買い求めください。

■必要な作業■

次のような順序で、接続や設定を行います。

1 製品によっては SCSI ID と終端抵抗を設定します。

SCSIカードを使うと、SCSIに対応した複数の機器を接続できます。そのため、それぞれの機器を区別する番号(0～7番)を付けておきます。この番号を「SCSI ID」と呼びます。このうち7番はSCSIカードに割り当てられるので、各機器は0～6番が使えます。

本パソコンでは、SCSIに対応した機器を、4台まで接続できます。CD-ROMドライブだけを接続するときは、0～6のどの番号を使ってもかまいません。ただし、ひとつのSCSI IDを複数の機器で使うことはできません。他の機器を接続するときは、SCSI IDが重ならないように設定します。

設定のしかたについて詳しくは、SCSIカードおよび各機器のマニュアルをご覧ください。

2 CD-ROM ドライブを SCSI カードに接続します。

SCSIカードとCD-ROMドライブを接続します。接続方法については、SCSIカードとCD-ROMドライブのマニュアルをご覧ください。

3 SCSI カードをセットします。

SCSIカードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PCカードを使う」(⇒ P.105)をご覧ください。

4 ドライバをインストールします。

ドライバのインストール方法は、PCカードのマニュアルと「オプション機器のデバイスドライバについて」(⇒ P.98)をご覧ください。

7

携帯電話や PHS を使う

本パソコンに携帯電話やPHSを接続すると、外出先でも自由にインターネットやパソコン通信ができます。

ここでは、本パソコンのUSBコネクタを使用して接続する方法とPCカードを使って接続する方法について説明します。

USB コネクタを使って接続する

「携帯電話接続用USBケーブル」または「PHS接続用USBケーブル」を利用すると、デジタル携帯電話やPIAFS対応のPHSを、本パソコンのUSBコネクタに接続して通信することができます。

用語 PIAFS(ピアフ)

PHS Internet Access Forum Standard の略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格のことです。PHSのデジタル通信回線(32Kbps以上)を利用して、非常に高速な通信ができます。相手側のアクセスポイントや端末も、PIAFSに対応している必要があります。

用意するもの

デジタル携帯電話またはPIAFS対応のPHS

お使いになれる機種については、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(<http://www.fmworld.ne.jp/support/hikken/index.html>)にてご案内します。

「2000年春モデル必見情報」にある「FMV-BIBLO」をご覧ください。

携帯電話接続用USBケーブル(添付)

本パソコンに添付のFMV-CBL101をお使いください。

PHS接続用USBケーブル(別売)

FMV-CBL102をお使いください。

PHS接続用USBケーブルについて詳しくは、ケーブルに添付のCDのreadme.txtをご覧ください。

携帯電話や PHS の接続

△ 注意

故障 間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および携帯電話やPHSが故障する原因となることがあります。

重要

ケーブルを接続する前に通信アプリケーションを終了してください
通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。

PHS を接続するときは

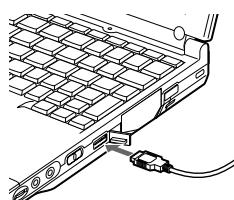
PHSをケーブルに接続する際には、Windowsが起動した状態で接続してください。

USB コネクタ経由で通信するときの注意

- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- 通信中または通信アプリケーション起動中には、サスPEND(一時停止)状態にしたり、Save To Disk 状態にすることはできません。
- AT コマンドは、内蔵モデム（V.90 対応）の AT コマンドと仕様が異なります。
- USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしによる対向接続はできません。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断される場合があります。
- 「接続ケーブル」は、WindowsNT4.0 ではサポートしておりません。

1 接続ケーブルの大きいほうのコネクタを、携帯電話や PHS に接続します。
コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。

2 USB コネクタのカバーを開き、接続ケーブルのもう一方のコネクタを、本パソコンのUSBコネクタに接続します。
コネクタの向きに注意して、カチッと止まるまで軽く押し込みます。



このあと、接続した携帯電話や PHS で通信を行うための設定を行ってください。使用するモデムについては、「携帯電話や PHS 用のモデムを選択する」（⇒ P.115）をご覧ください。

アドバイス**携帯電話や PHS を取り外すとき**

携帯電話接続用USBケーブルの場合は、コネクタの両側にあるボタンを、PHS接続用USBケーブルの場合は、コネクタの上側にあるボタンを押しながら引き抜いてください。

携帯電話や PHS 用のモデムを選択する

「接続に使用するモデム」の種類は、お使いの携帯電話またはPHSによって異なります。

以下の表とお使いの携帯電話やPHSのマニュアルを参照し、お使いの機種に対応するモデムを選択してください。

- 携帯電話接続用 USB ケーブル (FMV-CBL101) を使用する場合

携帯電話 /Doccimo のモード	モデム
携帯電話 (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC
携帯電話 (28800bps、パケット交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-PACKET
Doccimo 携帯モード (9600bps、回線交換)	Fujitsu SOFT USB PDC-Doccimo
Doccimo PHS モード (32K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K-Doccimo
Doccimo PHS モード (64K)	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K-Doccimo

- PHS 接続用 USB ケーブル (FMV-CBL102) を使用する場合

PHS のモード	モデム
NTT DoCoMo PHS 32K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo32K
NTT DoCoMo PHS 64K	Fujitsu SOFT USB PHS-DoCoMo64K

接続用の PC カードを使って接続する

接続用のPCカード(接続カード)を利用すると、デジタル携帯電話やPIAFS対応のPHSを接続することができます。

**用語 PIAFS (ピアフ)**

PHS Internet Access Forum Standardの略で、PHSによるデジタルデータ通信の標準規格のことです。PHSのデジタル通信回線(32Kbps以上)を利用して、非常に高速な通信ができます。相手側のアクセスポイントや端末も、PIAFSに対応している必要があります。

用意するもの

接続カード

- ・デジタル携帯電話を接続する場合：「デジタル携帯電話接続カード」
- ・PIAFS 対応の PHS を接続する場合：「PHS 接続カード」

デジタル携帯電話または PHS

アドバイス

PIAFS に対応していない PHS を接続するときは

PIAFS に対応していない PHS は、「モデムカード-2400」を使用して「無線電話接続ケーブル」で接続してください。

携帯電話や PHS の接続

初めて使うときは、接続カードのドライバをインストールする必要があります。必要に応じてフロッピーディスクユニットなどを接続してください。

△ 注意



けが PC カードをセットするときは、PC カードスロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。

重 要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

1 接続カードをデジタル携帯電話や PHS に接続します。

接続については、接続カードのマニュアルをご覧ください。

2 接続カードを本パソコンの PC カードスロットにセットします。

セットのしかたについては、「PC カードを本体にセットする」(▶ P.107)をご覧ください。

接続したデジタル携帯電話や PHS で通信を行うには、接続カードや通信ソフトウェアの設定が必要です。詳しくは、接続カードのマニュアルをご覧ください。

8

プリンタを使う

プリンタを接続する手順を説明します。USB規格対応のプリンタを接続する場合には、「USB 規格対応のオプション機器を使う」(⇒ P.138)をご覧ください。

用意するもの

プリンタを使うには、次のものが必要です。

コネクタボックス(添付)

プリンタケーブルを本パソコンに接続するために使います。

プリンタ

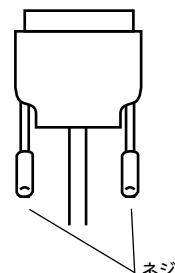
Windows98で使用できるものをご用意ください。

プリンタケーブル

プリンタとパソコン本体を接続するためのケーブルです。

プリンタに添付されているプリンタケーブルが本パソコンで使えない場合や、プリンタにプリンタケーブルが添付されていない場合は、別にお買い求めください。

本パソコンでは、「PC/AT互換機用」「DOS/V用」などと表示されたプリンタケーブルをお使いください。右図のようにコネクタをねじで固定する形式のプリンタケーブルが使えます。



プリンタドライバ

プリンタドライバは、プリンタとパソコンとのやり取りを仲介するソフトウェアです。本パソコンに初めて接続するプリンタを使う場合は、プリンタドライバをインストールする必要があります。

プリンタにフロッピーディスクが添付されている場合は、その中にプリンタドライバが入っています。添付のフロッピーディスクをお使いください。

フロッピーディスクユニット(添付)

プリンタドライバがフロッピーディスクで添付されているときに必要です。

アドバイス

プリンタにCD-ROMが添付されているときは

プリンタドライバがCD-ROMの中に入っています。「CD-ROMドライブを使う」(⇒ P.110)をご覧になり、CD-ROMドライブを接続してください。

プリンタを接続する

△ 警告



感電 プリンタを接続するときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

△ 注意



ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使いになると、パソコン本体およびプリンタが故障する原因となることがあります。

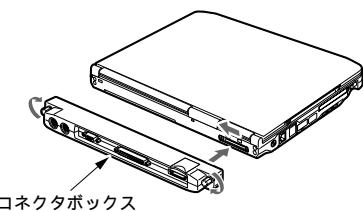
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

プリンタは、Windows のセットアップ終了後に接続してください。

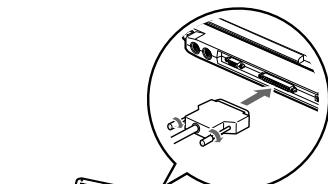
Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

- 1 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします(▶ P.38)。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。
- 4 コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては
「コネクタボックスを取り付ける」(▶ P.56)
をご覧ください。

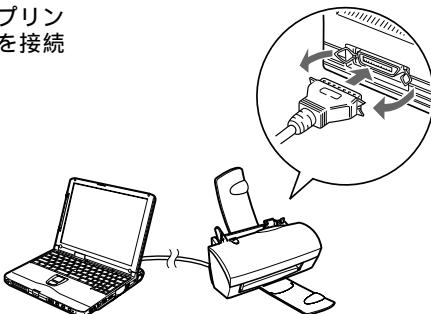


- 5** コネクタボックスのパラレルコネクタに、プリンタケーブルを接続します。

プリンタケーブルのコネクタを、パラレルコネクタにしっかりと差し込みます。プリンタケーブルのコネクタの左右のネジをしめて、プリンタケーブルを固定してください。



- 6** プリンタのプリンタコネクタに、プリンタケーブルのもう一方のコネクタを接続します。



プリンタの接続方法は、プリンタによって異なります。プリンタのマニュアルもあわせてご覧ください。

- 7** 本パソコンのACアダプタとプリンタの電源ケーブルのプラグを、コンセントに接続します。

- 8** プリンタドライバをインストールします。

接続したプリンタが使えるように、プリンタドライバをインストールします。プリンタドライバをインストールする方法は、プリンタによって異なります。インストール方法については、プリンタのマニュアルをご覧ください。

アドバイス

ドライバがインストールできないときは

プリンタのマニュアルの説明に従っても、ドライバがインストールできないときは、次の操作を行ってください。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポイントを合わせ「プリンタ」をクリックして「プリンタ」ウィンドウを表示します。「プリンタ」ウィンドウの「プリンタの追加」をクリックし、「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウでプリンタドライバをインストールしてください。

インストール後は通常使うプリンタに設定してください

「プリンタ」ウィンドウで、接続したプリンタのアイコンにマウスポイントを合わせて選択し、「ファイル」メニューの「通常使うプリンタに設定」に「✓」を付けてください。

マウスを使う

コネクタボックスのマウスコネクタにマウスを接続すると、本パソコンでもマウスを使うことができます。USB規格対応のマウスを接続する場合は、「USB規格対応のオプション機器を使う」(▶ P.138)をご覧ください。

マウスを接続する

マウスの接続のしかたについて説明します。

重要

Windows98 のセットアップが済んでから接続してください

マウスは、Windows98 のセットアップ終了後に接続してください。

Windows98のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

本パソコンの動作中はマウスを取り外さないでください

本パソコンの動作中は、マウスを取り外さないでください。取り外してしまった場合は、以下のように操作してください。

- 1 [Alt] キーを押し、[Shift] キーで「Windows の終了」を選んで、[Enter] キーを押します。

「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

- 2 [Shift] キーを押して「再起動する」を選び、[Enter] キーを押します。
本パソコンが再起動されます。

マウスを使用できるように設定してください

マウスを使用する場合は、BIOSセットアップの「詳細」メニューの「キーボード/マウス設定」で、「ポインティングデバイス」を「構成 2」、「構成 3」、または「構成 4」に設定してください。標準設定値の「構成 1」では、マウスを接続しても使用できません。

ポインティングデバイスの設定については「ポインティングデバイス」(▶ P.154)をご覧ください。

ドライバを必要とするマウスを使用する場合は

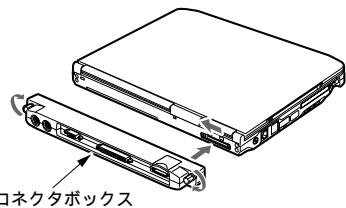
- Microsoft 社製 IntelliMouse™などのドライバをインストールすると、クリックポイント は使用できますが、タッチパネルは使用できなくなります。
- ドライバを必要とするマウスを使用する場合は、タッチパネルドライバをアンインストールしてから、マウスに添付のドライバをインストールしてください。

操作方法は『リカバリガイド』の「タッチパネルドライバの再インストール」をご覧ください。

1 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします（ \Rightarrow P.38）。

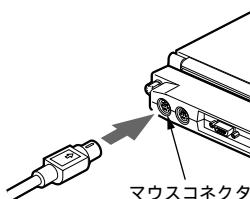
2 コネクタボックスを取り付けます。

コネクタボックスの取り付けかたについては
「コネクタボックスを取り付ける」（ \Rightarrow P.56）
をご覧ください。



3 コネクタボックスのマウスコネクタにマウスを接続します。

マウスのコネクタに刻印されている矢印を上側にして、奥までしっかりと差し込みます。



アドバイス

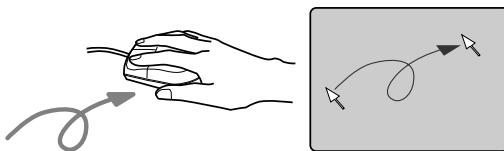
コネクタボックスが接続されているときは

マウスは、本パソコンがサスPEND状態になっているときでも接続できます。コネクタボックスが本パソコンに接続されている場合は、MAINスイッチをOFFにする必要はありません。

マウスの使いかた

マウスの動かしかた

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、マウスポインタが同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



操作のしかた

・クリック

マウスの左ボタンを1回カチッと押して離す操作です。また、右ボタンをカチッと押して離すことを「右クリック」といいます。



・ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押し離す操作です。

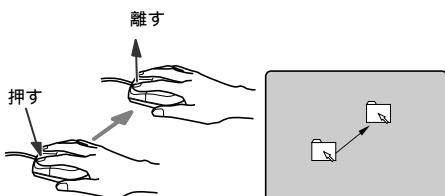


・マウスポインタを合わせる操作(ポイント)

マウスポインタをメニュー やアイコンなどに合わせる操作です。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、サブメニューが表示されます。

・ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、目的の位置でボタンを離す操作です。



10

テンキー ボードを使う

本パソコンにテンキー ボードを接続すると、数字を効率よく入力することができます。USB 規格対応のテンキー ボードを接続する場合は、「USB 規格対応のオプション機器を使う」(▶ P.138)をご覧ください。

テンキー ボードを接続する

ここでは、テンキー ボードを接続する場合について説明します。
その他のキーボードを接続する場合も、手順は同じです。

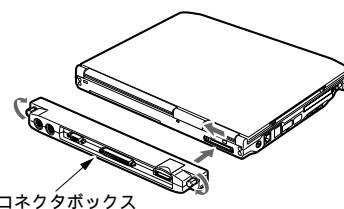
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

テンキー ボードは、Windows のセットアップ終了後に接続してください。
Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

1 本パソコンの電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします (▶ P.38)

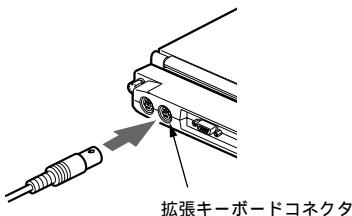
2 コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては
「コネクタボックスを取り付ける」(▶ P.56)
をご覧ください。



3

テンキー ボードを拡張キー ボードコネクタに接続します。

テンキー ボードのコネクタに刻印されている矢印を上側にして、奥までしっかりと差し込みます。



アドバイス

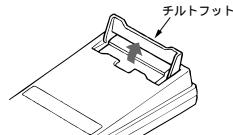
接続できるキー ボード

コネクタ ボックスの拡張キー ボードコネクタには、101キー ボード、OADGキー ボード、JISキー ボード、親指シフトキー ボードも接続できます。

ただし、親指シフトキー ボードを使うには、OAKV5.0以上が必要です。

テンキー ボードの傾きを調節するには

テンキー ボード下面にあるチルトフットで、傾きを調節できます。



テンキー ボードで数字を入力できるときは

テンキー ボードでは、状態表示LCDに $\frac{1}{1}$ が表示されているときのみ数字を入力できます(パソコン本体のテンキーは無効)。

状態表示LCDに $\frac{1}{1}$ が表示されていないときは、[NumLk]を押すか、テンキー ボードの[NumLk]を押してください。状態表示LCDに $\frac{1}{1}$ が表示され、テンキー ボードで数字を入力できるようになります。

11

メモリを増やす

本パソコンには、お買い求めのときにあらかじめ64MBのメモリが内蔵されています。

メモリは必要に応じて最大192MBまで増やすことができます。

メモリを増やすと、パソコンの処理が速くなります。

3

オプション機器を使う

△ 警告

感電



メモリの取り付け／取り外しを行うときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

誤飲



取り外したカバー、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置くように注意してください。

万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

△ 注意

けが



メモリの取り付け／取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは取り外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。

故障



メモリの取り付け／取り外しを行うときは、端子やICなどには触れないようふちを持って行ってください。

指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

アドバイス

取り付けられる拡張RAMモジュールは

FMVNM12SD(128MB)またはFMVNM64SD(64MB)のどちらか1枚のみ取り付けることができます。

拡張RAMモジュールを取り付ける

重 要

Windowsのセットアップが済んでから取り付けてください。

メモリは、Windowsのセットアップ終了後に取り付けてください。
Windowsのセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われないことがあります。

静電気に注意してください。

メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人間の体内にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り付けるときは、端子やICなどには触れないよう、ふちを持って行ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

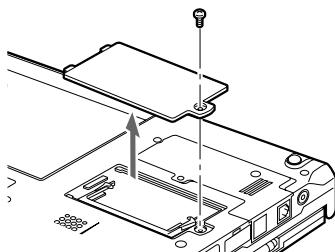
- 1 本パソコンの電源を切り、MAINスイッチをOFFにします(⇒P.38)。
- 2 ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンからACアダプタを取り外します。

アドバイス

オプション機器を接続しているときは

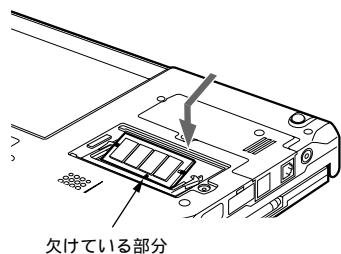
接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。
- 5 ネジを外し、拡張RAMモジュールスロットのカバーを外します。



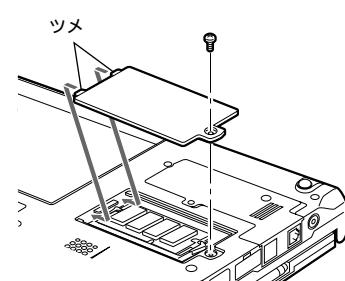
6 増設する拡張RAMモジュールを取り付けます。

拡張RAMモジュールの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかりと差し込み、「パチン」と音がするまで下に倒してください。



7 拡張RAMモジュールスロットのカバーを取り付けます。

ツメの部分を合わせて取り付け、手順5で外したネジで固定します。



8 裏返しになっているパソコン本体を元に戻します。

コラム

メモリのしくみ

メモリは、CPUが処理するデータを一時的にためておく記憶装置です。CPUがハードディスクなどに記憶されているプログラムやデータを処理するときは、メモリにプログラムなどを読み込んでから処理を行います。また、CPUが処理した結果は、メモリに書き込んでからハードディスクなどに記憶されます。

そのため、メモリの容量を増やすと、ためておけるプログラムやデータも多くなり、CPUの処理速度も速くなります。

拡張 RAM モジュールを取り外す

- 1 本パソコンの電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします(⇒ P.38)。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

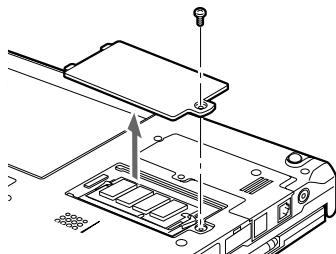
アドバイス

オプション機器を接続しているときは

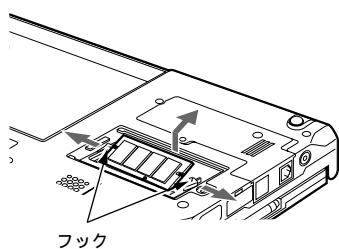
接続しているオプション機器の電源を切り、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜いてください。

- 4 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

- 5 ネジを外し、拡張 RAM モジュールスロットのカバーを外します。

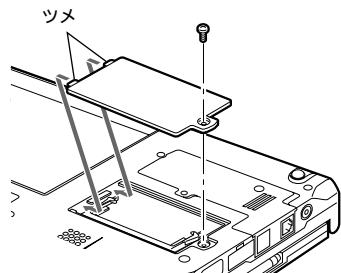


- 6 拡張 RAM モジュールを取り外します。
拡張 RAM モジュールを押さえている両側のフックを左右に開き、スロットから取り外します。



- 7 拡張RAMモジュールスロットのカバーを取り付けます。

ツメの部分を合わせて取り付け、手順5で外したネジで固定します。



- 8 裏返しになっているパソコン本体を元に戻します。

メモリの容量を確認する

増やしたメモリが使える状態になっているかを確認します。

- 1 ACアダプタを接続します。
- 2 ACアダプタに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3 本パソコンのMAINスイッチをONにします。
Windowsが起動します。
- 4 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
- 5  (システム)をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 6 メモリの数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。



上の画面は、128MBの拡張RAMモジュールを取り付けて、192MBに増やした例です。
お使いのシステム構成によっては若干少なく表示される場合があります。
増えていなかつた場合は、拡張RAMモジュールがスロットにきちんと取り付けられているかどうかを確認してください(⇒P.126)。

- 7 「OK」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウに戻ります。

12

外部ディスプレイを使う

本パソコンにCRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続すると、外部ディスプレイに画面を表示できます。

また、外部ディスプレイを接続したときは、本パソコンの液晶ディスプレイと外部ディスプレイとで、表示するディスプレイ装置を切り替えることができます。

3

オプション機器を使う

用意するもの

外部ディスプレイを使うには、次のものが必要です。

外部ディスプレイ

ディスプレイケーブル

外部ディスプレイとパソコン本体をつなぐためのケーブルです。

外部ディスプレイの背面に直接つながっていたり、外部ディスプレイに添付されていたりします。

コネクタの形状が異なっている場合や、外部ディスプレイに添付されていない場合は、外部ディスプレイとパソコン本体の両方に接続できる「PC/AT互換機用」「DOS/V用」などと表示されたディスプレイケーブルをお買い求めください。

外部ディスプレイを接続する

△ 警告



感電 外部ディスプレイの接続をするときは、必ずパソコン本体のMAINスイッチをOFFにし、ACアダプタを取り外してください。

感電の原因となります。

△ 注意

故障



ケーブル類は、間違えないように接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

重 要

Windows のセットアップが済んでから接続してください。

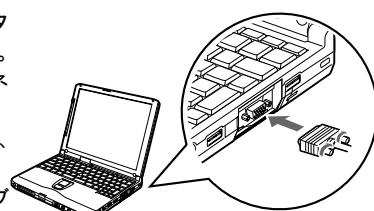
外部ディスプレイは、Windows のセットアップ終了後に接続してください。
Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

1 本パソコンの電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします(\Rightarrow P.38)。

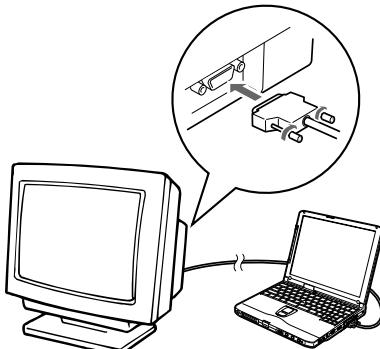
2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。

3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

4 パソコン本体の右側面の CRT コネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。
ディスプレイケーブルのコネクタを、CRTコネクタにしっかりと差し込みます。
ディスプレイケーブルの左右のネジをしめて、
ディスプレイケーブルを固定してください。
外部ディスプレイの背面にディスプレイケーブルがつながっているときは、手順 6 に進みます。



5 外部ディスプレイ側のコネクタに、ディスプレイケーブルのもう一方のコネクタを接続します。



6 外部ディスプレイの電源ケーブルをコンセントに差し込みます。

表示装置を切り替える

本パソコンの液晶ディスプレイと接続したCRTディスプレイなどの外部ディスプレイの表示を、次のように切り替えて使うことができます。

- 本パソコンの液晶ディスプレイで表示する
- 接続した外部ディスプレイで表示する
- 本パソコンの液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイで同時に表示する

3

オプション機器を使う

1 本パソコンに AC アダプタを接続します。

2 外部ディスプレイの電源を入れます。

電源の入れかたについては、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

3 本パソコンの MAIN スイッチを ON にします。

Windows が起動します。

4 **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押します。

[Fn] を押しながら **[F10]** を押すたびに、「液晶ディスプレイで表示 外部ディスプレイで表示 液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示 液晶ディスプレイで表示....」の順に切り替わります。

重　要

表示するディスプレイが切り替わらないときは

5秒以上間隔をあけてから、もう一度 **[Fn]** を押しながら **[F10]** を押してください。間隔が短いと、正しく表示されないことがあります。

液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示をしているときは

外部ディスプレイの表示画面がゆがむことがあります、故障ではありません。

アドバイス

「画面のプロパティ」で表示するディスプレイを切り替えるには

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面)をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 3 「詳細」をクリックし、「表示デバイス」タブをクリックします。
- 4 「表示デバイス」で表示するディスプレイを選択します。
外部ディスプレイは「CRT」、液晶ディスプレイは「LCD」と表示されます。

外部ディスプレイで正常に表示されないときは

液晶ディスプレイが消えている場合には、**[Fn]** を押しながら **[F10]** を押して、画面を液晶ディスプレイに切り替えてください。

外部ディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。外部ディスプレイのマニュアルでサポートする走査周波数を確認し、次の操作でリフレッシュレートを変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
- 2  (画面)をクリックし、「設定」タブをクリックします。
- 3 「詳細」をクリックし、「アダプタ」タブをクリックします。
- 4 「リフレッシュレート」の ▾ をクリックしてリフレッシュレートを選択し、「適用」をクリックします。

BIOS セットアップの画面について

BIOS セットアップの画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。 BIOS セットアップの画面も外部ディスプレイに表示したいときには、 BIOS セットアップの「詳細」メニューの「ディスプレイ設定」の「ディスプレイ」(▶ P.155) で「外部ディスプレイ」または「同時表示」を選択してください。

表示されるディスプレイ

Windows 98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows 98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。

マルチモニタ機能を使うとき

「マルチモニタ機能を使う」(▶ P.223) をご覧ください。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数

液晶ディスプレイと外部ディスプレイを同時に表示しているときや、外部ディスプレイのみで表示しているときの、外部ディスプレイの解像度と発色数の設定について説明します。

外部ディスプレイで表示できる解像度と発色数は、次の表のとおりです。

以下の解像度や発色数以外には、設定しないでください。

解像度	発色数	
	液晶と外部に 同時表示したとき	外部だけに表示したとき
640 × 480 ドット	256 色 ₁ High Color (16 ピット) ₁ True Color (32 ピット) _{1, 2}	256 色 High Color (16 ピット) True Color (32 ピット)
800 × 600 ドット	256 色 High Color (16 ピット) True Color (32 ピット) ₂	256 色 High Color (16 ピット) True Color (32 ピット)
1024 × 768 ドット	256 色 ₃ ₄ High Color (16 ピット) ₃	256 色 High Color (16 ピット)
1280 × 1024 ドット ₅	256 色 ₃	256 色

- 液晶ディスプレイでは、640 × 480 ドットの領域が画面の中央に表示されます。解像度を640 × 480 ドットに設定しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がれます。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。
- 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能(擬似的に色を表示する機能)によって、1677万色で表示されます。
- 液晶ディスプレイでは、仮想スクリーンモードでの表示となります。
1024 × 768 ドット以上に設定すると、液晶ディスプレイおよび外部ディスプレイに800 × 600 ドットの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。解像度を1024 × 768 ドットで表示しているときは、ペンでタッチした位置とマウスポインタの位置がれます。マウスポインタの移動はクイックポイントで行ってください。
- モニタをSuperVGA 1024 × 768 以上にする必要があります。
- モニタをSuperVGA 1280 × 1024 以上にする必要があります。

アドバイス

High Color と True Color の発色数は

High Color (16 ピット) は 65536 色、True Color (32 ピット) は 1677 万色です。

解像度を変更するとき

解像度の変更方法は、「解像度と発色数を変更する」(▶ P.88)をご覧ください。その際、「ハードウェアの製造元とモデルを選択してください。」というウィンドウ(手順12)では、お使いの外部ディスプレイにあわせて「製造元」と「モデル」を選んでください。

RS-232C 規格対応のオプション機器を使う

本パソコンのコネクタボックスに、RS-232C 規格対応のオプション機器を接続することができます。

接続できるオプション機器には、外付けモ뎀、デジタルカメラなどがあります。

シリアルコネクタの接続のしかた

△ 警告



感電
オプション機器の接続をするときは、必ずパソコン本体の MAIN スイッチを OFF にし、AC アダプタを取り外してください。
感電の原因となります。

重 要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

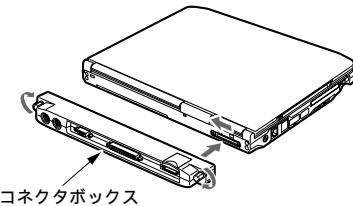
RS-232C 規格対応のオプション機器は、Windows のセットアップ終了後に接続してください。

Windows のセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

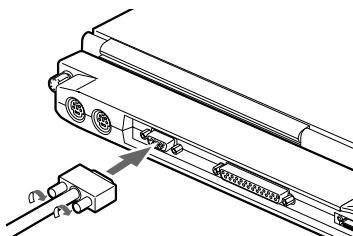
- 1 本パソコンの電源を切り、MAIN スイッチを OFF にします(▶ P.38)。
- 2 AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜きます。
- 3 本パソコンから AC アダプタを取り外します。

4

コネクタボックスを取り付けます。
コネクタボックスの取り付けかたについては
「コネクタボックスを取り付ける」(▶ P.56)
をご覧ください。

**5**

コネクタボックスのシリアルコネクタに、
接続する機器のケーブルを接続します。
ケーブルのコネクタを、シリアルコネクタに
しっかり差し込みます。ケーブルの左右のネジ
をしめて固定してください。



アドバイス

シリアルコネクタの COM ポート番号は「COM1」です

接続した機器によっては、あらかじめ設定されている状態では使用できないことがあります。お使いの機器のマニュアルをご覧になり、再設定を行ってください。

外付けモデムを接続したときは

外付けモデムなどを新たに取り付けたときは、接続形態に合わせて COM ポート番号などの再設定が必要です。また、お使いのモデムによっては、あらかじめ設定されている状態で、正常に通信できないことがあります。そのときも、お使いのモデムに合わせて、通信ソフトの再設定を行ってください。設定について詳しくは、各通信ソフトとモデムのマニュアルをご覧ください。

USB 規格対応のオプション機器を使う

本パソコンのUSBコネクタに、USB規格対応のオプション機器を接続することができます。

USB コネクタの接続のしかた

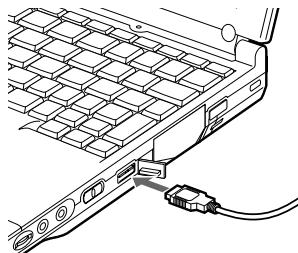
重要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

USB規格対応のオプション機器は、Windowsのセットアップ終了後に接続してください。

Windowsのセットアップの前に接続すると、セットアップが正常に行われないことがあります。

- 1 本パソコンのUSBコネクタに、接続する機器のUSBケーブルを接続します。
USBコネクタのカバーを開き、USBケーブルのコネクタをカチッと止まるまで差し込みます。コネクタの形を互いに合わせ、まっすぐに差し込んでください。



アドバイス

必要に応じてドライバをインストールしてください

接続した機器を使うために、ドライバのインストールが必要になる場合があります。通常は、接続した機器にインストール用のフロッピーディスクなどが添付されていますので、接続した機器のマニュアルをご覧になって、インストールを行ってください。

USB マウス

本パソコンは、別売のUSBマウス(FMV-MO202L)を使用することができます。USBマウスの使用にあたっては以下の点に留意してください。

- パソコン本体の電源が入った状態で取り付け／取り外しを行えます。なお、取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。
- ホットプラグ(⇒P.153)が機能しないので、USBマウスを接続してもクイックポイントは無効なりません。
- MS-DOSモードではUSBマウスはお使いになれません。

15

外付けのハードディスクを使う

本パソコンには、外付けのハードディスクを接続することができます。

重 要

Windows のセットアップが済んでから接続してください

外付けのハードディスクは、Windowsのセットアップ終了後に取り付けてください。

Windowsのセットアップの前に取り付けると、セットアップが正常に行われないおそれがあります。

3

オプション機器を使う

用意するもの

外付けのハードディスクを使うには、次のものが必要です。

SCSI カード

外付けのハードディスクを接続するのに必要な PC カードです。PC カードスロットにセットして使います。

SCSI 対応のハードディスク

終端抵抗（ターミネータ）

接続された SCSI 機器の間で、データ転送をエラーなく行うためのものです。

終端抵抗は、外付けのハードディスクに内蔵されている場合と、内蔵されていない場合があります。内蔵されている場合は、ディップスイッチなどで設定します。内蔵されていない場合は、外付けのハードディスクに添付されています。添付されていない場合は、SCSI コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

SCSI ケーブル

外付けのハードディスクと SCSI カードをつなぐケーブルです。

SCSI ケーブルは SCSI カードに添付されています。添付されている SCSI ケーブルがハードディスクに接続できない場合は、コネクタの形状をよくご確認のうえ、お買い求めください。

作業の流れ

次のような順序で、接続や設定を行います。

スカジー アイディー

1 SCSI ID の設定と終端抵抗の設定を行います。

SCSIカードを使うと、SCSIに対応した複数の機器を接続できます。そのため、それぞれの機器を区別する番号(0 ~ 7番)を付けておきます。この番号を「SCSI ID」と呼びます。このうち7番はSCSIカードに割り当てられるので、各機器は0 ~ 6番が使えます。

本パソコンでは、SCSIに対応した機器を、4台まで接続できます。外付けのハードディスクが1台目のSCSI機器の場合は、0 ~ 6のどの番号を使ってもかまいません。ただし、ひとつのSCSI IDを複数の機器で使うことはできません。他の機器を接続するときは、SCSI IDが重ならないように設定します。

SCSI IDや終端抵抗の設定のしかたは、ハードディスクによって異なります。詳しくは外付けのハードディスクのマニュアルをご覧ください。

2 外付けのハードディスクをSCSIカードに接続します。

SCSIカードと外付けのハードディスクを接続します。接続方法については、SCSIカードと外付けのハードディスクのマニュアルをご覧ください。

3 SCSIカードをセットします。

SCSIカードをパソコン本体にセットします。セットのしかたについては「PCカードを本体にセットする」(▶ P.107)をご覧ください。

4 領域(パーティション)を設定します。

ハードディスクを接続した場合、そのハードディスクをパソコン本体が認識できるように設定する必要があります。

ドライブを設定したり、ハードディスクの領域を分けるには、「領域の設定」という作業をします。領域の設定は、SCSIカードに添付されているソフトウェアによって行います。操作方法は、SCSIカードのマニュアルをご覧ください。

5 フォーマットします。

新しいハードディスクは、フォーマットが必要です。お買い求めのときにフォーマット済みのものも、領域の設定をするとフォーマットが無効になります。あらためてフォーマットし直してください。フォーマットは、「マイコンピュータ」での目的のドライブを選択し、「ファイル」メニューの「フォーマット」をクリックして、画面のメッセージに従って行ってください。

重要

ドライブ名について

外付けのハードディスクを接続したり、接続したハードディスクの領域を分けると、ドライブ名にずれが生じます。お使いのソフトウェアによっては、ドライブ名の修正が必要な場合がありますのでご注意ください。

外付けのハードディスクのデータは消去されます

領域の設定やフォーマットを行うと、それまで外付けハードディスクに記憶されていたデータがすべて消去されますので、ご注意ください。

4

ハードウェア環境を設定する バイオス (BIOS セットアップ)

BIOS セットアップは、本パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。

これらの設定は、使いやすいようにあらかじめ設定されているため、通常お使いになる範囲では、設定を変更する必要はありません。
設定の変更が必要な場合のみお読みください。

- | | | |
|----|---------------------------|-----|
| 1. | BIOS セットアップが必要なときは | 142 |
| 2. | BIOS セットアップの操作 | 143 |
| 3. | ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す | 148 |
| 4. | 各メニューでの設定内容の詳細 | 150 |
| 5. | BIOS のパスワード機能を使う | 164 |

BIOS セットアップが必要なときは

BIOSセットアップとは、本パソコンのハードウェア環境を設定するためのプログラムです。本パソコンの環境は、あらかじめ設定されているので、通常はBIOSセットアップで環境を変更する必要はありません。必要に応じて行います。

BIOS セットアップが必要になるのは

BIOSセットアップは、次のような場合に行います。

- ・特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード(暗証番号)を設定するとき
- ・起動時の自己診断テスト(POST)で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

BIOSセットアップで設定した内容は、パソコン本体内部のCMOS RAMと呼ばれるメモリに記憶されます。このCMOS RAMは、電源を切っても、バックアップ用バッテリによって記憶した内容を保持しています。

アドバイス

起動時に「システム CMOS のチェックが正しくありません。」と表示されたときは BIOS セットアップを正しく行っても、起動時の自己診断テストで「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。」とメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリが消耗していることが考えられます。弊社パーソナルエコセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

2

BIOS セットアップの操作

ここでは、BIOS セットアップの操作のしかたを説明します。

BIOS セットアップの操作は、すべてキーボードで行います。

BIOS セットアップを開始する

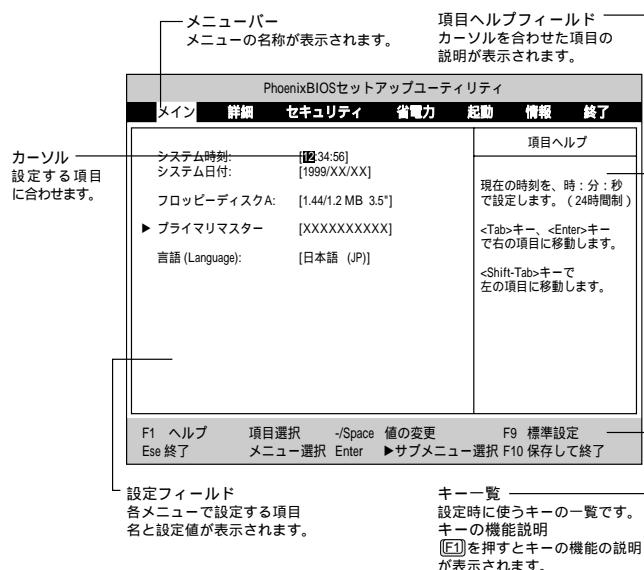
4

1 「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」をクリックします。
必要に応じてデータを保存してください。
「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。

2 「再起動する」をクリックして [F4] にし、「OK」をクリックします。
本パソコンが再起動します。

3 Windows が起動する前の、画面下に「< ESC > キー：自己診断画面 / < F12 > キー：起動メニュー / < F2 > キー：BIOS セットアップ」と表示されている間に、[F2] を押します。

BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。



アドバイス

起動時の自己診断画面を表示するには

上記の手順3で、[F2] の代わりに [Esc] を押します。

「起動メニュー」で起動ドライブを検索する順番を一時的に変更するには

この画面は、起動ドライブを検索する順番を一時的に変更したいときに利用します。

上記の手順3で、[F2] の代わりに [F12] を押すと、「起動メニュー」という画面が表示されます。

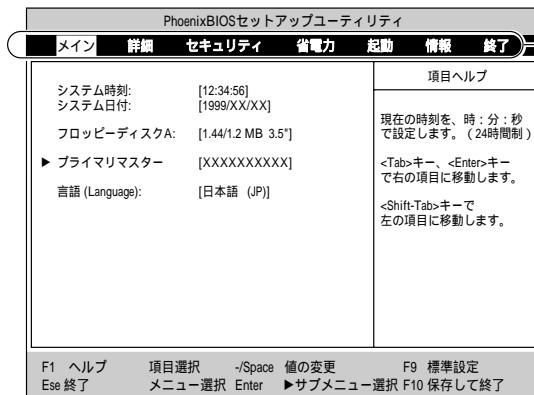
[↑] を押して起動ドライブを選択し、[Enter] を押します。また、「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動できます。

設定を変更する

ここでは、一般的な操作方法のみを説明します。各設定項目の詳細については、「各メニューでの設定内容の詳細」(▶ P.150)をご覧ください。

1 [↑] または [↓] を押して、設定したいメニューを選びます。

[Esc] を押すと「メイン」「詳細」「セキュリティ」…の順にメニューが表示されます。



[↑] [↓] を押して
メニューを切り
替える。

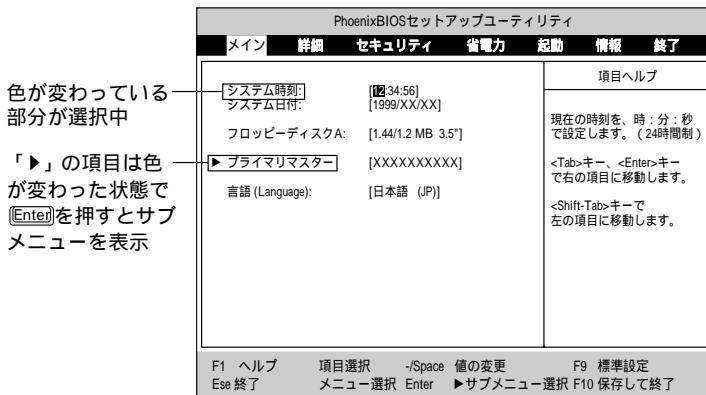
2 [↑] または [↓] を押して、設定する項目を選びます。

アドバイス

変更する項目に がついている場合

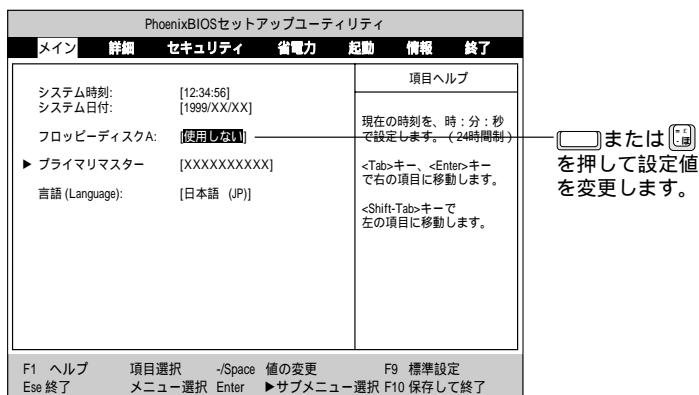
先頭に「」の付いた項目は、その項目を選択した状態で [Enter] を押すと、その項目に含まれる設定項目の一覧(サブメニュー)が表示されます。

サブメニューから元のメニューに戻るには [Esc] を押します。



3 選択している項目の設定値を変更します。

[F6] または [F8] を押して設定値を変更します。



続けて他の項目を設定する場合は、手順 1 ~ 3 を繰り返します。

BIOS セットアップの終了については「**変更を保存して終了する**」(⇒ P.146)をご覧ください。

アドバイス

作業の途中でそれまでに設定した内容を保存するには

次の操作により、そのときまでに設定した内容を CMOS RAM に保存できます。設定を保存すると、変更前の設定内容に戻すことができなくなります。

1. 「終了」メニューの「変更を保存する」を選択し、[Enter] を押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
2. [●] または [●] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。
引き続き、設定を続けることができます。

それまでに設定した内容を取り消すには

次の操作により、CMOS RAM に保存されている設定内容を読み込みます。

1. 「終了」メニューの「変更前の値を読み込む」を選択し、[Enter] を押します。
「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。
2. [●] または [●] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。
引き続き、設定を続けることができます。

本パソコンの標準設定値（ご購入時の設定内容）に戻すには

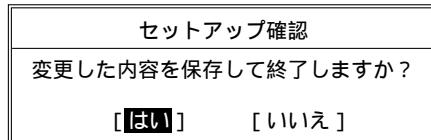
「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行します。詳しくは、「ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す」（ $\cdots \blacktriangleright$ P.148）をご覧ください。

変更を保存して終了する

変更した設定値を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存する必要があります。以下の操作によって、設定内容を保存して BIOS セットアップを終了することができます。

- 1 [Esc] を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニュー画面を表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで [Esc] を 2~3 回押してください。
[●] または [●] で表示させることもできます。

- 2 [●] または [●] を押して「変更を保存して終了する」を選択し、[Enter] を押します。
次のメッセージが表示されます。



- 3 [●] または [●] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。
すべての設定値が保存されたあと BIOS セットアップが終了し、本パソコンが起動します。

アドバイス

変更した設定値を保存せずに BIOS セットアップを終了するには

設定内容を破棄して、CMOS RAM に保存されている設定内容を変更せずに BIOS セットアップを終了することができます。

1. 「終了」メニューの「変更を保存せずに終了する」を選択し、**[Enter]** を押します。
設定値を変更していない場合には、これで BIOS セットアップが終了します。
変更していた場合は、「設定が変更されています! 変更した内容を保存して終了しますか?」というメッセージが表示されます。
2. または で「いいえ」を選択します。
「はい」を選択すると、設定値が保存されてしまうので注意してください。
3. **[Enter]** を押します。
これで、BIOS セットアップが終了します。

4

3

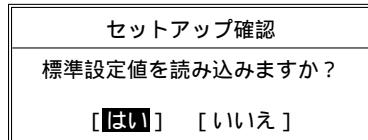
ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す

エラーが発生してハードウェア環境をご購入時の状態に戻したいときには、BIOSセットアップの設定を「標準設定値」に戻します。

標準設定値に戻すには

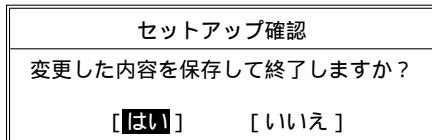
すでに BIOS セットアップを起動しているときは、手順 2 から始めてください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。
操作については、「BIOS セットアップを開始する」(▶ P.143) をご覧ください。
- 2 [Esc] を押して、「終了」メニューを表示します。
サブメニュー画面を表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで [Esc] を 2 ~ 3 回押してください。
[①] または [②] で表示させることもできます。
- 3 [①] または [②] を押して「標準設定値を読み込む」を選択し、[Enter] を押します。
次のメッセージが表示されます。



- 4 [①] または [②] で「はい」を選択し、[Enter] を押します。
BIOS セットアップのすべての設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
読み込まれた設定値を有効にするには、CMOS RAM に保存する必要があります。

- 5** ④または⑤を押して「変更を保存して終了する」を選択し、[Enter]を押します。
次のメッセージが表示されます。



アドバイス

保存後に設定操作を続けたいときは

「変更を保存して終了する」の代わりに「変更を保存する」を選択して、[Enter]を押します。

- 6** ④または⑤で「はい」を選択し、[Enter]を押します。
読み込んだ標準設定値が保存されたあと BIOS セットアップが終了し、本パソコンが起動します。
これで、ハードウェア環境がご購入時の設定値に戻りました。

各メニューでの設定内容の詳細

ここでは、各メニューの項目の詳細について説明します。

各メニューの説明では、マークを次の意味で使用しています。

- ：項目名
- ：サブ項目名やサブメニューの項目名
- ：設定する値

「メイン」メニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

フロッピーディスク A (標準設定値 : 1.44 / 1.2 MB 3.5")

フロッピーディスクを使用するかどうかを設定します。本パソコンに添付されているフロッピーディスクユニットに対応します。

プライマリマスター

内蔵ハードディスクのタイプと動作モードを設定します。

アドバイス

標準設定値を読み込んだときは

「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(▶ P.163) を実行した直後には、各項目の自動設定は行われません。本パソコンを再起動すると、各項目が自動設定されます。

タイプ (標準設定値 : 自動)

通常は自動に設定してください。

シリンド数

ヘッド数

セクタ数

重 要

シリンダ数、ヘッド数、セクタ数を設定するときは

必ず正しい値を設定してください。誤った値を設定すると、本パソコンが正常に動作しなくなります。

最大容量

マルチセクタ転送

LBA モード制御

PIO 転送モード

DMA 転送モード

言語 (Language) (標準設定値：日本語 (JP))

BIOS セットアップや起動時の自己診断テストで、画面表示に使用する言語を選択します。

「詳細」メニュー

「詳細」メニューでは、パソコン本体と周辺機器の機能やリソースなどの設定を行います。

アドバイス

I/O ポートアドレスを設定するとき

同じI/Oポートアドレスに、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。

割り込み番号 (IRQ) を設定するとき

1つの割り込み番号に、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。
ご購入時の設定値については、「リソース一覧」(▶ P.196)をご覧ください。

DMA チャネルを設定するとき

1つのDMAチャネルに、複数のデバイスを割り当てないように注意してください。
ご購入時の設定値については、「リソース一覧」(▶ P.196)をご覧ください。

リソース設定が競合したときは

競合した設定項目の左に、黄色の「*」マークが表示されます。この場合には、「*」マークが消えるように設定を変更してください。

プラグアンドプレイ対応 OS (標準設定値 : はい)

デバイス設定の保護 (標準設定値 : いいえ)

シリアル / パラレルポート設定

シリアルポートやパラレルポート、ディスクコントローラなどに関する設定を行います。

シリアルポート (標準設定値 : 使用する)

I/O アドレス (標準設定値 : 3F8-3FF)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 4)

赤外線通信ポート (標準設定値 : 使用する)

モード (標準設定値 : FIR)

「FIR」に設定する場合は、高速モード用の「I/O アドレス」と「DMA チャネル」も設定する必要があります。

I/O アドレス (標準設定値 : 2E8-2EF)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ 3)

I/O アドレス (標準設定値 : 118-11F)

DMA チャネル (標準設定値 : DMA3)

パラレルポート (標準設定値 : 使用する)

モード (標準設定値 : 双方向)

アドバイス

「ECP」の設定について

ECP モードは、パラレルポートに ECP 対応の周辺機器を接続する場合に設定します。

ECP モード用の「DMA チャネル」も設定する必要があります。

I/O アドレス (標準設定値 : 378-37F)

割り込み番号 (標準設定値 : IRQ7)

DMA チャネル (標準設定値 : DMA1)

アドバイス

ECP モード用 DMA チャネルの設定上の注意

通常は「DMA 1」に設定してください。DMA 3 は、標準設定値では赤外線通信ポートの FIR 用に割り当てられています。

キーボード / マウス設定

キーボードやクイックポイント、別売の PS/2 マウスの使用に関する設定を行います。

起動時の Numlock 設定（標準設定値：自動）

ホットプラグ（標準設定値：使用する）

アドバイス

接続したマウスやキーボードが使えないとき

接続したマウスやキーボードがホットプラグに対応していない場合があります。

本パソコンの動作中に接続したマウスやキーボードが使えないときは、いったん取り外し、しばらく待ってからもう一度接続してください。それでも使えないときは、本パソコンの電源を切るか、サスペンドしてから接続してください。

次のような場合には「使用しない」に設定してください

- 「ホットプラグ」を「使用する」に設定したときに、お使いのキーボードの動作に異常が見られる場合
- 拡張キーボードコネクタに入力装置(バーコードリーダ: FMV-BCR101、バーコードタッチリーダ: FMV-BCR201、磁気カードリーダ: FMV-MCR101など)を接続した場合
- また、この場合は「省電力モード」(▶ P.158) も「使用しない」に設定してください。

ポインティングデバイス

タッチパネルやクイックポイント、外部PS/2マウスを使うかどうかを設定します。

- 構成 1（標準設定値）

タッチパネルとクイックポイントが使用できます。外部PS/2マウスは接続しても使用できません。

- 構成 2

接続した外部PS/2マウスとタッチパネルが使用できます。クイックポイントは使用できません。

- 構成 3

接続した外部PS/2マウスとクイックポイントが使用できます。タッチパネルは使用できません。

- 構成 4

外部PS/2マウスが接続してある場合は、外部PS/2マウスのみが使用でき、接続していない場合は、クイックポイントのみが使用できます。タッチパネルは使用できません。

ただし、外部PS/2マウスが接続してあるときに、マウスを抜くとクイックポイントが使えないことがあります。使えない場合は、いったんサスペンド状態にしてから、SUS/RESスイッチを押してレジュームしてください。

アドバイス

IntelliMouse™ の使用について

Microsoft 社製のIntelliMouse™は、設定が「構成 4」の場合のみ使用できます。

ディスプレイ設定

表示装置(ディスプレイ)に関する設定を行う項目です。

ディスプレイ(標準設定値:液晶ディスプレイ)

全体表示(標準設定値:使用しない)

その他の内蔵デバイス設定

フロッピーディスクコントローラ(標準設定値:使用する)

IDEコントローラ(標準設定値:使用する)

PCI設定

PCIデバイスに関する設定を行います。

割り込み番号の予約

特定の割り込み番号をPCカードに割り当てるとき、その割り込み番号が内蔵デバイスに使用されないように、予約しておくための設定です。

IRQ 3 ~ IRQ 15(標準設定値:予約しない)

ACPI設定

ACPI管理機能(標準設定値:使用しない)

イベントログ設定

イベントログ領域の状態

イベントログ内容の状態

イベントログの表示

アドバイス

イベントログメッセージ

表示されるイベントログメッセージにおいて以下のメッセージが表示された場合は、弊社パーソナルエコーセンターにご連絡ください。それ以外は、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- 「POST エラー XXXXXXXX XXXXXXXX」

イベントログ(標準設定値:保存する)

システム起動(標準設定値:保存しない)

イベントログの消去(標準設定値:消去しない)

イベントログのマーク

「セキュリティ」メニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを不正使用から保護するための設定を行います。

詳しくは、「BIOS のパスワード機能を使う」(▶ P.164) をご覧ください。

管理者用パスワード

管理者（本パソコンをご購入になった方など）用のパスワードの設定状態が表示されます。

ユーザー用パスワード

ユーザー（ご家族など、管理者以外の利用者）用のパスワードの設定状態が表示されます。

管理者用パスワード設定

設定のしかたについては、「パスワードを設定する」(▶ P.164) をご覧ください。設定すると、BIOSセットアップの起動時にパスワードの入力が要求されます。

ユーザー用パスワード設定

この項目が設定できるのは、「管理者用パスワード」が設定されている場合のみです。設定のしかたについては、「パスワードを設定する」(▶ P.164) をご覧ください。BIOSセットアップ起動時のパスワード入力でユーザー用パスワードを入力すると、BIOSセットアップで設定できる項目が制限されます。

重要

ユーザー用パスワードで BIOS セットアップを起動すると

次の各項目の設定は変更できません。

- 管理者用パスワード設定
- ハードディスクセキュリティ
- ユーザー用パスワード文字数
- 所有者情報
- 起動時のパスワード
- ハードディスク起動セクタ
- 取り外し可能なディスクからの起動
- フロッピーディスクアクセス

ユーザー用パスワード文字数（標準設定値：0）

ユーザー用パスワードの文字数を設定します。

起動時のパスワード（標準設定値：使用しない）

この項目が設定できるのは、「管理者用パスワード」が設定されている場合のみです。

本パソコンの起動時に、パスワードの入力を要求するかどうかを設定します。

「使用する」に設定すると、起動時にパスワードの入力を要求されます。管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力しないと、本パソコンを起動できません。

アドバイス**レジューム時のパスワードを設定する場合**

レジューム時のパスワードを設定する場合は、Windows 98 の「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効にしてください。ただし、この場合はWindowsのパスワードを入力してください。

取り外し可能なディスクからの起動（標準設定値：常に可能）

フロッピーディスクアクセス（標準設定値：常に可能）

「管理者用パスワード」が設定されている場合にのみ設定できます。

重 要**フロッピーディスクアクセスの設定についての注意**

BIOS を経由しないで直接フロッピーディスクコントローラにアクセスする OS (WindowsNT4.0 など) では、正しく動作しません。

ハー ドディスクセキュリティ

ハードディスクドライブのパスワードロック機能を設定します。パスワードロック機能に対応しているハードディスクドライブでのみ利用できます。

プライマリマスター（標準設定値：使用しない）

所有者情報

所有者情報

所有者情報設定

文字色（標準設定値：グレー）

背景色（標準設定値：黒）

ハードディスク起動セクタ（標準設定値：通常動作）

重要

ハードディスク起動セクタの設定についての注意

- OSをインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- この設定は、BIOSを経由しないで直接ハードディスクにアクセスするOS（WindowsNT4.0など）では、正しく動作しません。

「省電力」メニュー

「省電力」メニューでは、本パソコンの省電力機能に関する設定を行います。

省電力機能は、「コントロールパネル」の^④（電源の管理）や「PMSet98」でも設定できます（^⑩▶P.76）。通常は、「省電力」メニューの設定値を変更する必要はありません。

アドバイス

Windows98をお使いのときは

以下の各項目の設定内容は、無効となります。

- 「スタンバイタイマー」
- 「サスPENDタイマー」

省電力モード（標準設定値：ユーザー設定）

ハードディスク省電力（標準設定値：使用しない）

「コントロールパネル」の^④（電源の管理）で、ハードディスクの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

ディスプレイ省電力（標準設定値：使用しない）

「コントロールパネル」の（電源の管理）で、モニタの電源を切るまでの時間を設定しているときは、短い時間に設定しているほうが有効になります。

重要

別売のシリアルマウスをお使いのときは

「ディスプレイ省電力」で時間を設定したときは、「シリアルマウス」（ P.160）を「使用する」に設定してください。「使用しない」に設定していると、シリアルマウスを使用しているときでもディスプレイの表示が消えてしまいます。

スタンバイタイマー（標準設定値：4分）

Windows98でいう「スタンバイ状態」とは異なります。

また、Windows98が起動しているときは、本設定は無効になります。時間を設定していても、スタンバイモードには移行しません。

サスペンドタイマー（標準設定値：15分）

Windows98が起動しているときは、本設定は無効です。「コントロールパネル」の（電源の管理）の設定に従ってサスペンド状態になります。

アドバイス

「サスペンド動作」を「Save To Disk」に設定しているときは

サスペンドするときに、自動的に Save To Disk 機能が働いて電源が切れます。

サスペンド動作（標準設定値：サスペンド）

アドバイス

「Save To Disk」に設定してもサスペンド状態になることがあります

次の各場合には、Save To Disk 機能が働かず、サスペンド状態になります。

- Save To Disk 領域が作成されていないとき
- 「モデム着信によるレジューム」や「時刻によるレジューム」を設定しているとき
- 「PMSet98 のプロパティ」ウインドウで、「電話が鳴ったら、パソコンを元の状態に戻す」の左がになっているとき
- バッテリ切れ状態で自動的にサスペンドするとき

自動 Save To Disk（標準設定値：使用しない）

モデム着信によるレジューム（標準設定値：使用しない）

この設定は「PMSet98」(▶ P.78) が起動しているときに有効です。また、「PMSet98」の「電話が鳴ったらパソコンを元の状態に戻す」の設定と連動します。「PMSet98」が起動していないときは、Windowsがレジュームするように自動的に設定されるため、本設定は無効となります。

アドバイス

モデム着信によるレジューム機能についての注意

- USB コネクタに接続した携帯電話や PHS からの着信ではレジュームしません。
- パソコン本体がレジュームしてからアプリケーションがモデムと通信できるようになるまでには、多少の時間が必要です。アプリケーションがモデムの着信信号を検出できるように、モデムの自動応答回数を設定してください。
- 「使用する」に設定すると、サスペンド中でもモデムを動作させておくため、サスペンド中の電力消費が増加します。この場合には、AC アダプタを接続してください。

時刻によるレジューム（標準設定値：使用しない）

Windows98 で「タスクスケジュール」を設定している場合には、BIOS と「タスクスケジュール」の両方の設定が有効になります。

レジューム時刻

詳細設定

サスペンド / レジュームスイッチ（標準設定値：使用する）

カバークローズ サスペンド（標準設定値：使用する）

重 要

カバークローズサスペンドについての注意

- ディスクへのアクセス中やモデムでの通信中、PC カード利用中は、それらの作業を完了または中断してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- Windows98 の終了処理中は、液晶ディスプレイを閉じないでください。

カバーオープン レジューム（標準設定値：使用しない）

シリアルマウス(標準設定値：使用しない)

「起動」メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

高速起動（標準設定値：使用する）

起動時の自己診断画面（標準設定値：表示しない）

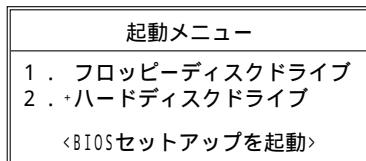
起動デバイスの優先順位（標準設定値：「フロッピーディスクドライブ」「ハードディスクドライブ」の順番）

アドバイス

優先順位を一時的に変更したいときは

起動時の自己診断テスト中に[F12]を押すと、「起動メニュー」という画面が表示されます。起動用のデバイスを[1]または[2]で選択し、[Enter]を押してください。

「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。



「情報」メニュー

「情報」メニューには、 BIOS やパソコン本体の情報が表示されます。

BIOS 版数

BIOS 日付

BIOS 領域

CPU タイプ

CPU 速度

L1 キャッシュ

L2 キャッシュ

全メモリ容量

搭載しているメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

標準メモリ

内蔵されているメモリ (RAM) の容量が表示されます。

メモリスロット

拡張 RAM モジュールスロットに取り付けているメモリの容量が表示されます。

拡張 RAM モジュールスロットにメモリを取り付けていないときは、「未使用」と表示されます。

「終了」メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。詳しくは「BIOS セットアップの操作」(▶ P.143)をご覧ください。

変更を保存して終了する

変更した設定内容を CMOS RAM に保存して、BIOS セットアップを終了したいときに選択します。

変更を保存せずに終了する

変更した設定内容を保存しないで、変更前の設定のままで BIOS セットアップを終了したいときに選択します。

標準設定値を読み込む

すべての設定項目の値を、ご購入時の設定（標準設定値）に戻したいときに選択します。

変更前の値を読み込む

すべての設定項目に変更前の値を読み込んで、変更を取り消したいときに選択します。

変更を保存する

変更した設定内容をいったん保存して、設定を続けたいときに選択します。

5

BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、BIOS のパスワード機能について説明します。

BIOSのパスワード機能を使うことによって、特定の人以外が本パソコンを使用できないように制限したり、ハードディスクのデータが盗用されないように保護したりできます。

パスワードを設定する

パスワードを設定するときは、以下の操作を行ってください。

ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときにのみ設定できます。

重要

設定したパスワードを忘れないようにご注意ください

管理者用パスワードを忘るとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

管理者用パスワードを忘れてしまった場合には、弊社パーソナルエコセンターまでご連絡ください。

リカバリを行うには

パスワードが設定されている場合は、リカバリの操作を行うことはできません。リカバリの操作を行うには、パスワードを解除してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

詳しくは「BIOS セットアップを開始する」(▶ P.143)をご覧ください。

2 [Esc] または [F10] を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。

- 3** または で「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択し、**[Enter]**を押します。

パスワードを設定するための画面が表示されます。

管理者用パスワード設定	
新しいパスワードを入力して下さい。 []	[]
新しいパスワードを確認して下さい。 []	[]

- 4** 設定したいパスワード（半角英数字、8 文字まで）を入力します。
英字の大文字と小文字は区別されません。入力した文字は表示されません。

アドバイス

設定を中止するには

[Esc]を押してください。

- 5** **[Enter]**を押します。
カーソルが、下の欄に移動します。

- 6** 確認のため、設定したパスワードをもう一度入力します。

- 7** **[Enter]**を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

確認のパスワードが間違っていたとき

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。**[Enter]**を押して、もう一度手順 4 からやり直してください。設定を中止するときは **[Esc]** を押します。

- 8** **[Enter]**を押します。
これでパスワードが設定されました。

パスワードを入力する

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワード入力が要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

BIOS セットアップや本パソコンの起動時のパスワード入力

「パスワードを入力してください。」というメッセージが表示されます。設定してあるパスワードを入力して、**[Enter]** を押してください。

アドバイス

誤ったパスワードを 3 回入力したときは

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなり、本パソコンが使用できなくなるので、いったん MAIN スイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してから、正しいパスワードを入力してください。

「ユーザー用パスワード」で BIOS セットアップを起動すると
設定できる機能が制限されます。

レジューム時のパスワードを入力するときは

Windows 98 の「電源の管理のプロパティ」で、「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」の設定を有効にしているときは、レジューム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

パスワードを変更 / 削除する

パスワードを変更する

設定してあるパスワードを変更したいときは、以下の操作を行ってください。

- 1** BIOS セットアップを起動します。
詳しくは、「BIOS セットアップを開始する」(▶ P.143) をご覧ください。
- 2** または を押して、「セキュリティ」メニューを表示します。
- 3** または で「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を選択し、 を押します。
パスワードを設定するための画面が表示されます。
- 4**

管理者用パスワード設定	
現在のパスワードを入力して下さい。	[]
新しいパスワードを入力して下さい。	[]
新しいパスワードを確認して下さい。	[]

- 4** 設定してあるパスワードを入力し、[Enter]を押します。
カーソルが、次の欄に移動します。

アドバイス

「入力したパスワードが間違っていたとき」

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。[Enter]を押して、もう一度入力し直してください。設定を中止するときは[Esc]を押します。

「誤ったパスワードを3回入力したとき」

「システムは使用できません。」というメッセージが表示され、ビープ音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなるので、いったんMAINスイッチで本パソコンの電源を切り、もう一度電源を入れ直してBIOSセットアップを起動してください。なお、BIOSセットアップの起動時にも、パスワードの入力が要求されます。

- 5** 新しく設定したいパスワード(半角英数字、8文字まで)を入力し、[Enter]を押します。
英字の大文字と小文字の区別はありません。
カーソルが、下の欄に移動します。

アドバイス

「ユーザー用パスワード文字数」が設定されているとき

ユーザー用パスワードを変更する場合、「ユーザー用パスワード文字数」(⇒P.156)を設定していると、設定されている文字数よりも短い文字数のパスワードは設定できません。

- 6** 確認のため、新しく設定したパスワードをもう一度入力し、[Enter]を押します。
「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

アドバイス

「確認のパスワードが間違っていたとき」

「パスワードが一致しません。」というメッセージが表示されます。[Enter]を押して、もう一度手順5からやり直してください。設定を中止するときは[Esc]を押します。

- 7** [Enter]を押します。
これで新しいパスワードが設定されました。

パスワードを削除する

設定してあるパスワードを削除したいときは、「パスワードを変更／削除する」(⇒P.167)の手順5と6で、何も入力せずに[Enter]を押してください。

5

困ったときには

本パソコンを使っていて、トラブルが発生したときや意味のわからないメッセージが表示されたときなど、「故障かな？」と思ったときに確認していただきたい項目について説明します。困ったときの参考としてお使いください。

- | | | |
|----|-----------------------|-----|
| 1. | 困ったときのQ & A | 170 |
| 2. | BIOS が表示するメッセージ | 178 |
| 3. | それでも解決できないときは | 185 |

困ったときのQ & A

ここでは、本パソコンが動かなくなった、画面が消えてしまったなど、本パソコンを使っていて「故障かな?」と思ったときの対処法について、Q&A形式で説明しています。

Q 電源が入らないのですが?

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
ACアダプタが接続されていない。	ご購入後、最初にお使いになるときは、バッテリが充電されていないことがあります。ACアダプタを接続し、MAINスイッチをONにしてください。
ACアダプタが正しく接続されていない。	コンセントと本パソコンに正しく接続し直してください。
MAINスイッチがOFFになっている。	MAINスイッチがOFFになっていると、SUS/RESスイッチを押しても電源は入りません。MAINスイッチをONにしてください。
バッテリが充電されていない。	MAINスイッチがONのとき、警告音が鳴ったら、バッテリ残量が少なくなっています。そのままバッテリで使い続けると、電源が入らなくなります。ACアダプタを接続してお使いください。
長期間使用していないかった。	長期間お使いにならないと、バッテリは自然に放電します。お使いになるときは、ACアダプタを接続し、MAINスイッチをONにしてください。

以上の点を確認しても電源が入らない場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

Q 電源を入れてもWindowsが起動しないのですが?

A 画面に「<F1>キー：継続 /<F2>キー：BIOSセットアップ」というメッセージが表示されている場合は、パソコン内部に何らかのエラーが発生しています。画面にエラーメッセージが表示されるので、「BIOSが表示するメッセージ」(▶ P.178)をご覧になり、エラー解消の操作を行ってください。

Q 画面に何も表示されません。

A 次の点を確認してください。

状態表示 LCD に①が表示されている場合

原因	対処法
省電力機能で液晶ディスプレイが消えている。	クイックポイントに触れるか、[Shift] を押してください。
外部ディスプレイに表示するように設定されている。	[Fn] を押しながら [F10] を何度か押してください（[Fn] を押しながら [F10] を押すたびに表示装置が切り替わります）。

状態表示 LCD に①が点滅表示または消灯している場合

原因	対処法
サスPEND(一時停止)状態になっている（①が点滅表示）。	SUS/RESスイッチを押して、本パソコンをリジュームさせてください。バッテリ残量不足のためにリジュームしない場合は、ACアダプタを接続してください。
電源OFF状態になっている（①が消灯）。	MAINスイッチがOFFになつていれば、ONにしてください。ONになつているときは、SUS/RESスイッチを押してください。

状態表示 LCD に何も表示されていない場合

原因	対処法
MAINスイッチがOFFになっている。	MAINスイッチをONにしてください。バッテリ残量不足のために起動しない場合は、ACアダプタを接続してください。

Q しばらく作業しないと画面が消えてしまいます。

A これは、省電力機能が働いたためです。省電力機能とは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、パソコンの消費電力を抑える機能です。次の操作を行つて画面を表示してください。

- ・ 状態表示 LCD に①が表示されている場合は、[Shift] を押すか、クイックポイントに触れてください。
- ・ 状態表示 LCD に①が点滅している場合は、SUS/RESスイッチを押してください。

Q フロッピーディスクをセットしているのに、画面にエラーメッセージが出て使えません。

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
フロッピーディスクが正しくセットされていない。	フロッピーディスクのラベルを上にし、シャッター側から、しっかり差し込んでください。
フロッピーディスクがフォーマットされていない。	フロッピーディスクをフォーマットしてください。
フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。	フロッピーディスクの書き込み禁止タブを、書き込み可能な位置に動かしてください。
フロッピーディスクユニットが正しく取り付けられていない。	「フロッピーディスクユニットを取り付ける」(▶ P.59)をご覧になり、フロッピーディスクユニットを正しく取り付けてください。
フロッピーディスクが壊れている。	他のフロッピーディスクで試してみてください。他のフロッピーディスクが使えれば、使えなかったフロッピーディスクが破損している可能性があります。
フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れている。	「フロッピーディスクユニットのお手入れ」(▶ P.65)をご覧になり、クリーニングフロッピー(別売)で、ヘッドの汚れを落してください。
フロッピーディスクドライブのタイプが正しく設定されていない。	BIOS セットアップを実行し、「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」を「1.44 / 1.2 MB 3.5」に設定してください。
BIOS セットアップで、「詳細」メニューの「その他の内蔵デバイス設定」で「フロッピーディスクコントローラ」が「使用しない」に設定されている。	BIOS セットアップを実行し、「詳細」メニューの「その他の内蔵デバイス設定」で「フロッピーディスクコントローラ」を「使用する」に設定してください。
BIOS セットアップで、「セキュリティ」メニューの「フロッピーディスクアクセス」が「管理者のみ可能」に設定されている。	BIOS セットアップを実行し、「セキュリティ」メニューの「フロッピーディスクアクセス」を「常に可能」に設定してください。

Q 充電されないのですが？

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
ACアダプタが正しく接続されていない。	コンセントと本パソコンに正しく接続し直してください。
バッテリまたはパソコン本体が熱くなっている。 (状態表示LCDの→が点滅)	周囲の温度が高いときに、バッテリ保護機能が働いて充電を止めることができます。SUS/RESスイッチを押して、一時停止の状態にしてください。適温に戻ると、自動的に充電が再開されます。
パソコン本体が冷えてしまっている。 (状態表示LCDの→が点滅)	バッテリの温度が5℃以下になっていると、バッテリ保護機能が働いて、充電を止めることができます。本パソコンを暖かい所に置いて、ACアダプタを接続し直してください。適温に戻ると自動的に充電が再開されます。
充電を途中で中断した。	充電が完了する前に、ACアダプタを取り外したり、本パソコンを使用したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合には、本パソコンをしばらくの間バッテリで稼動させてから、もう一度充電し直してください。
バッテリが正しく取り付けられていない。	「バッテリパックを交換する」(▶ P.71)をご覧になり、バッテリを正しく取り付けてください。

Q 状態表示LCDのバッテリ残量表示の点滅が止まりません。

A バッテリの残量表示の点滅には、次の3種類があります。

■■■が点滅している場合

充電が完了していません。点滅が止まるまでACアダプタを取り外さないでください。

■■■が点滅している場合

バッテリ残量が12%以下になっています。ACアダプタを接続してください。

■■■が点滅している場合

バッテリパックの取り付けをやり直してください。それでも表示される場合は、バッテリパックが異常です。新しいバッテリパックと交換してください。
交換のしかたは、「バッテリパックを交換する」(▶ P.71)をご覧ください。

Q 省電力機能が働きません。

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
画面の書き替えを行う プログラムを実行して いる。	キーボードやクリックポイント を操作してい なくとも、クリーンサーバーなどが画面の書 き替えを行うと、省電力機能は実行されないこ とがあります。 省電力機能を実行させるためには、これらのプ ログラムを終了してください。

Q スピーカーから音が出ません。

A 本体右側面の音量ボリュームを調節して適正な音量にしてください。

ボリュームを調節しても音が出ないときは、[Fn] を押しながら [Esc] を押してください。
「ピー」という音がすると、スピーカーが「ON」になります。
それでも音が出ないときは、ヘッドホン・ジャックにヘッドホンが接続されていない
か、確認してください。ヘッドホンが接続されていると、スピーカーから音が出ませ
ん。ヘッドホン・ジャックからヘッドホンを取り外してください。
ヘッドホンが接続されていなければ、タスクバーの  (音量) をダブルクリックして、
「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示し、音量を調節してください。

Q スピーカーの音量調節ができません。

A スピーカーの音量ボリュームを動かしても音量が変わらない場合は、タスクバーの  (音量) をダブルクリックして「ボリュームコントロール」ウィンドウを表示し、音
量を調節してください。

Q 音声の再生ができません。

A タスクバーの  をダブルクリックし、「ボリュームコントロール」の「全ミュート」
が になっていることを確認してください。なっていないときは に設定してくだ
さい。

Q タスクバーに (音量) が表示されない。

A 次の項目を順番に確認してください。

オーディオの設定を確認する

- 1 「コントロールパネル」の (マルチメディア) をクリックします。
- 2 「再生」の「優先するデバイス」にサウンドドライバ名が選ばれていない場合は、右の をクリックして、一覧からサウンドドライバ名をクリックします。
- 3 「音量の調節をタスクバーに表示する」が になっている場合は、クリックして にします。
- 4 「OK」をクリックします。
- 5 タスクバーに (音量) が表示されているか確認します。

以上の設定を確認しても表示されない場合は、次の項目を確認してください。

サウンドドライバの設定を確認する

- 1 「コントロールパネル」の (システム) をクリックします。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」をダブルクリックします。
サウンドドライバが表示されない、またはドライバ名の先頭に「!」が付いている場合は、『リカバリガイド』の「サウンドドライバの再インストールと設定」をご覧になり、サウンドドライバをインストールしてください。
- 3 「Intel(r) 82440MX AC'97 Audio Controller-SigmaTel Codec」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 4 「デバイスの使用」の「このハードウェア プロファイルで使用不可にする」の左が になっている場合は、クリックして にします。
- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「閉じる」または「OK」をクリックします。
- 7 タスクバーに (音量) が表示されているか確認します。

以上の設定を確認しても表示されない場合は、『リカバリガイド』の「サウンドドライバの再インストールと設定」をご覧になり、サウンドドライバをインストールし直してください。

Q PC カードが使えません。

A 次の点を確認してください。

原因	対処法
PC カードが正しくセットされていない。	「PC カードを使う」(▶ P.105)をご覧になり、PC カードを正しくセットしてください。
PC カードのドライバがインストールされていない。	PC カードにドライバが添付されている場合、Windows 98 対応のドライバをインストールしてください。詳しくは、「オプション機器のドライバについて」(▶ P.98)と PC カードのマニュアルをご覧ください。

Q SCSI カードが使えません。

A 次の手順で、SCSIカードのドライバがインストールされているか確認してください。

- 1 「コントロールパネル」の  (システム) をクリックする。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、SCSIコントローラが登録されているか確認する。
- 3 登録されていなければ、「コントロールパネル」の  (ハードウェアの追加) をクリックし、SCSIカードの検出とドライバのインストールを行う。

Q アプリケーションのインストールが正常に行えません。

A アプリケーションをインストールするときは、実行中のすべてのアプリケーションを終了してから行ってください。ウイルス検出ソフト (VirusScan) を常駐させている場合、その影響が考えられます。タスクバーの「McAfee VirusScan スケジューラ」および「McAfee Vshield」を右クリックしてメニューを表示し、「終了」をクリックしてください。

すべてのアプリケーションを終了してもインストールが正常に行われないときは、インストールするアプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

本パソコンに添付のアプリケーションのサポート窓口については、「それでも解決できないときは」(▶ P.185)をご覧ください。

Q アプリケーションの操作中に動かなくなったり、Windows が正常に再起動、または終了しません。

A **[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押すと、「プログラムの強制終了」ウィンドウが表示されます。使用中のアプリケーション名をクリックし、「終了」をクリックすれば、動かなくなったアプリケーションを強制終了させることができます。

[Ctrl] と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押したあと、しばらくしても何も動かない場合には、再度 **[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を押して、Windows を強制終了してください。強制終了できない場合は、MAINスイッチをOFFにしてください。約10秒待ってから MAINスイッチをONにすると、MS-DOS画面でスキャンディスクが実行されたあと、Windows が起動します。

いずれの場合でも、作業中のデータは保存されませんので、ご注意ください。

Q MS-DOS モードの英語モードで、「¥」の文字が表示されません。

A MS-DOSモードの英語モードでは、「¥」は「\」(バックスラッシュと読みます)になります。キーボードから「¥」を入力しても、画面では「\」と表示されます。

Q 「～（から）」を入力したいのですが？

A お使いの日本語入力システムによって、入力方法が違います。たとえば「MS-IME98」の場合は、かなが入力できる状態で「から」と入力して変換します。「OAK V7.0」の場合は、かな入力ができる状態で^{親指左}【**黒変換**】を押しながら^{#3}【**押す**】を押します。

Q 「～（チルダ）」を入力したいのですが？

A 「～（チルダ）」は、キーボードに刻印されている^④では、入力することはできません。入力するには、日本語入力システムがオフの状態で、【Shift】を押しながら^⑤を押します。親指シフトキーボードモデルでは、日本語入力システムがオフの状態で、【Shift】を押しながら^⑥を押します。

BIOS が表示するメッセージ

本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアに異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的にチェックし、その結果をメッセージとして表示します。

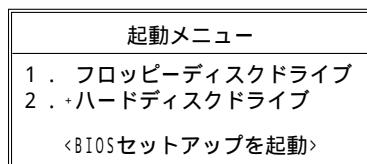
BIOS が表示するメッセージ一覧

メッセージ中の「n」「x」「z」には数字が表示されます。

正常時のメッセージ

- ① <ESC> キー:自己診断画面 / <F12> キー:起動メニュー / <F2> キー:BIOS セットアップ

起動時に「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。メッセージが表示されている間に [F2] を押すと、BIOS セットアップが起動し、[Esc] を押すと、起動時の自己診断画面が表示されます。また、[F12] を押すと「起動メニュー」という画面が表示されます。この場合は、起動ドライブを [1] または [2] で選択して、[Enter] を押してください。「<BIOS セットアップを起動>」を選択すると、BIOS セットアップを起動することもできます。



- ② <F12> キー:起動メニュー / <F2> キー:BIOS セットアップ

起動時の自己診断画面の下に表示され、メッセージが表示されている間に [F12] を押すと「起動メニュー」が表示され、[F2] を押すと、BIOS セットアップが起動します。

- ③ BIOS セットアップを起動しています ...

BIOS セットアップの起動中に表示されます。

- ④ nnnnM システムメモリ テスト完了。

システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。

- ⑤ nnnnK メモリキャッシュ テスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- ⑥ システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ⑦ マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、ポインティングデバイスが使えるようになったことを示しています。

アドバイス

正常時のメッセージを表示するには

「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、[Esc] を押します。

常に表示させたいときは、BIOS セットアップの「起動」メニューで、「起動時の自己診断画面」を「表示する」に設定します。

5

困ったときには

エラーメッセージ

- ① Invalid system disk
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク（「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など）以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、[]などを押してください。
- ② Non-System disk or disk error
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク（「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」など）以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、[]などを押してください。
- ③ Operating system not found
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- ④ システムメモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。
拡張RAMモジュールスロットに取り付けられているメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑤ 拡張メモリエラー。オフセットアドレス: xxxx
誤りビット: zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレスxxxxでエラーが発見されたことを示しています。
拡張RAMモジュールスロットのメモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。詳しくは、「メモリを増やす」(▶P.125)をご覧ください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑥ メモリキャッシュのエラーです。 - キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑦ キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑧ キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑨ フロッピーディスクAのエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ⑩ ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑪ システムタイマーのエラーです。
システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑫ リアルタイムクロックのエラーです。
リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑬ システム CMOS のチェックサムが正しくありません。- 標準設定値が設定されました。
CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
[F2] を押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FM インフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑭ 前回の起動が正常に完了しませんでした。- 標準設定値が設定されました。
前回の起動時に正しく起動されなかつたため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中に電源を切ってしまったり、BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は [F1] を押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は [F2] を押してください。
- ⑮ <F1> キー : 繙続 / <F2> キー : BIOS セットアップ
起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。[F1] を押すと OS の起動を開始し、[F2] を押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- ⑯ 日付と時刻の設定を確認してください。
日付と時刻の設定値が不正です。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

- ⑯ パスワードで保護されています。: ハードディスク n
取り付けたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。
そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」(▶ P.156)を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- ⑰ サポートされないタイプのメモリが検出されました。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
「拡張RAMモジュールを取り外す」(▶ P.128)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑯ メモリタイプのエラーです。: SPDが66MHzのメモリを示しています。
本システムには100MHzのメモリが必要です。電源を落としてください。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
「拡張RAMモジュールを取り外す」(▶ P.128)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑰ SPDが見つかりませんでした。-メモリ速度が不明です。
システムを正しく動作させるためにはSPDが必要です。
メモリ速度100MHzで起動しますか?
<Y>を押すとこのまま起動し、<N>を押すとシステムを停止します。
メモリのSPDデータを検出できなかったことを示しています。
[N]を押して電源を切り、メモリを増設しているときはメモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
「拡張RAMモジュールを取り外す」(▶ P.128)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑱ SPDが見つかりませんでした。-メモリ速度が不明です。
メモリ速度100MHzで起動します。
メモリのSPDデータを検出できなかったことを示しています。
メモリを増設しているときは、メモリを取り外して、もう一度電源を入れ直してください。
「拡張RAMモジュールを取り外す」(▶ P.128)
それでも本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

- ② ハードディスク上の Save To Disk 領域が見つかりませんでした。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成してください。
ハードディスク上に、Save To Disk 領域が確保されていないことを示しています。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」（ \Rightarrow P.208）をご覧ください。
- ③ ハードディスク上の Save To Disk 領域が不足しています。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
ハードディスク上の Save To Disk 領域の容量が不足しているため、Save To Disk 機能を使用できないことを示しています。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」（ \Rightarrow P.208）をご覧ください。
- ④ ハードディスクが検出されませんでした。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑤ 不明な Save To Disk エラーが発生しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑥ ハードディスクからの読み取りに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑦ ハードディスクへの書き込みに失敗しました。
Save To Disk 機能は使用できません。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。
- ⑧ ハードディスク上の Save To Disk 領域が壊れている可能性があります。
Save To Disk 機能を使用するためには、Save To Disk 領域を作成し直してください。
Save To Disk 領域について詳しくは、「Save To Disk 領域の作成」（ \Rightarrow P.208）をご覧ください。
- ⑨ Save To Disk を行ったハードディスクが検出されなかっただため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Disk を行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1> キーを押すと、このまま起動します。

- ⑩ Save To Diskを行ったハードディスクが交換されているため、システム状態を復元できませんでした。
システム状態を復元するには、電源を切って、Save To Diskを行ったハードディスクを接続した後、システムを再起動してください。
<F1>キーを押すと、このまま起動します。

アドバイス

これ以外のメッセージが表示されたとき

電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、次の「エラーメッセージが表示されたときは」をご覧になり、手順に従って確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合は、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、「BIOS が表示するメッセージ一覧」(▶ P.178)をご覧になって対処してください。表示されたメッセージが一覧にない場合や、対処方法が分からぬ場合には、次の手順に従って処置を行ってください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの該当する項目の設定値を確認してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して、起動し直してください。ご購入時の設定に戻す操作について詳しくは、「ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す」(▶ P.148)をご覧ください。

2 オプション機器を取り外します。

オプション機器を取り付けている場合には、すべてのオプション機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外したオプション機器を、1つずつ取り付けます。

取り外したオプション機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。また、割り込み番号（IRQ）を使用するオプション機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各オプション機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処置を行っても、まだ同じメッセージが表示される場合には、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。

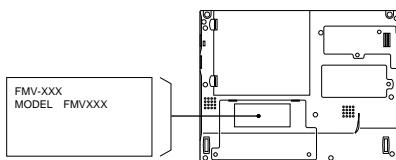
3

それでも解決できないときは

「困ったときのQ & A」(▶ P.170)と「BIOSが表示するメッセージ」(▶ P.178)をご覧になっても問題が解決しない場合には、下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせの際には、あらかじめ機種名とMODELを確認し、「お問い合わせの確認シート」(▶ P.189)に使用環境とトラブルの状況などを記入しておいてください。

機種名と MODEL の表記場所

5



連絡先

困ったときには

こんなときは	こちらへ
添付品の不備(欠品)	お買い上げの弊社営業、販売会社または富士通パソコン診断センター
正しく接続しても電源が入らないなどの機器の不備	弊社パーソナルエコーセンター*、またはご購入元
本パソコンに関するご質問、ご相談	FM インフォメーションサービス*

* 連絡先は、添付の『サポート & サービス 富士通パソコン ご案内』をご覧ください。

ソフトウェアのお問い合わせ先(2000年1月現在)

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。電話番号、FAX番号などはお間違いのないよう、お確かめのうえおかげくださるようお願いいたします。

重　要

有償サポートについて

- ・ソフトウェアのお問い合わせ先の中には、サポートを有償としている場合がありますので、ご了承ください。
- ・本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件に従い取り扱われるものとします。

はじめよう！インターネット	・入会 / @niftyサービス全般 / (@nifty(無料体験付))	@niftyテクニカルサポート ニフティ株式会社 @niftyサービスセンター 9:00-21:00(当社指定の休日を除く) TEL:0120-816-042 (携帯・PHS・海外の場合:03-5444-2902)
AOL5.0 for Windows	・パスワード再発行 / 各種手続き / 解約	ニフティ株式会社 @niftyカスタマーセンター 9:00 ~ 21:00(当社指定の休日を除く) TEL:0120-842-210 (携帯・PHS・海外の場合:03-5471-5806)

AOL5.0 for Windows	AOLジャパン株式会社 AOLメンバーサポートセンター 9:00 ~ 21:00 土日祝祭日もOK TEL:03-5331-7400
--------------------	---

DIONかんたん インターネット2.0	第二電電株式会社 DDIカスタマーサービスセンター - 9:00 ~ 21:00 土日祝祭日もOK TEL:0077-23-332332(無料) 03-5351-9333 E-mail: support@dion.ne.jp
------------------------	---

ODNオンライン 登録ソフトウェア	日本テレコム株式会社 ODNサポートセンター 平日9:00 ~ 21:00、 土曜9:00 ~ 18:00 TEL:0088-86(無料) FAX:0088-22-8850 E-mail: odn-support@odn.ad.jp
----------------------	--

Hatch inside	ディアンドアイシステムズ株式会社 ハッチ事業本部 サポートグループ 10:00 ~ 13:00、14:00 ~ 19:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:03-3348-1660 FAX:03-3348-1681
10円メールマスター Ver.2	マスターネット株式会社 会員サポートダイヤル 10:00 ~ 17:00(土日、祝祭日を除く) TEL:0120-526-900、 03-5381-4500 FAX:03-5381-4511 E-mail:support@mnx.ne.jp
ゼンリン電子地図帳 Z[zi:] for FUJITSU	株式会社ゼンリン ユーザーサポート センター 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:03-5259-5064 FAX:03-5259-5073 E-mail:webmaster@zenrin.co.jp
乗換案内 時刻表対応版	ジョルダン株式会社 業務部 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:03-5389-1712 FAX:03-3361-1576 E-mail:norikae@jorudan.co.jp
GAMEPACK2001	ダットジャパン株式会社 ユーザサポートセンター 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:011-716-5310 FAX:011-716-5350 E-mail:support@datt.co.jp
柿木将棋 Light	株式会社アスキー ゲームユーザーサポート 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:03-5433-7152、 03-5351-8499
Jet-Audio Player	株式会社ノバック ユーザサポートデスク 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL:03-3817-0938 FAX:03-3817-0823 E-mail:users@novac.co.jp

VirusScan for Windows 95/98	ネットワークアソシエイツ株式会社 テクニカルサポートセンター 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土日、祝祭日を除く) TEL : 03-3379-7770
VirtualCD 2	住友金属システム開発サポートセンター 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 16:30 (土日、祝祭日および年末年始を除く) TEL : 03-5476-9802 FAX : 03-5476-9886 E-mail : vd-info@ssd.co.jp
RealPlayer™ タッチおじさんメール	各ソフトウェア提供会社様より無償で提供 されている製品のため、ユーザーサポート はございません。ご了承ください。
Adobe® Acrobat® Reader 4.0	
その他	FM インフォメーションサービス *

* 連絡先は、添付の『サポート & サービス 富士通パソポート ご案内』をご覧ください。

● 情報サービス

FAXサービス（カタログ、Q&A）	043-299-3642 06-6949-3270
インターネット (製品の技術情報、Q&A)	@nifty (GO FMINFO)
富士通ホームページ(製品など)	http://www.fujitsu.co.jp/

お問い合わせの確認シート

お客様の環境

お使いのパソコン 機種名: FMV-

MODEL: FMV

購入日: 年 月 日 購入店:

メモリ容量: 64 MB

増設: MB(メーカー: 型番:)

増設したオプション機器: 種類 型番号 メーカー

お使いのソフトウェア ソフトウェア名 バージョン / レベル メーカー

SECOND EDITION

Windows 98 4.10.2222 A

トラブル状況

何をしているときに起きたか

エラーメッセージが表示された場合、その内容

以前は問題なく動作していたか

以前は動作した 以前から動作しない 今回はじめて試した



仕様一覧

本パソコンの仕様について説明しています。

- | | | | |
|----|------|-------|-----|
| 1. | 仕様一覧 | | 192 |
|----|------|-------|-----|

仕様一覧

本体仕様

品名	FMV-BIBLO MC3/45		
CPU 1	モバイル Intel® Celeron™ プロセッサ (450MHz)		
PCI チップセット	Intel® 440MX		
キャッシュメモリ	1 次: 32KB (CPU 内蔵) 2 次: 128KB (CPU 内蔵)		
BIOS ROM	512KB (フラッシュ ROM)		
システム RAM	標準 64MB (SDRAM) / 最大 192MB (拡張 RAM モジュール 64 / 128MB 、スロット × 1)		
内蔵ハードディスク 2	2.5 インチ 9GB (固定)		
VRAM	2.5MB (Trident Cyber9525DVD に内蔵)		
タッチパネル	方式: 抵抗膜方式 i/f: PS/2 インターフェース		
液晶ディスプレイ 3	10.4 インチ TFT カラー 800 × 600 ドット (ドットピッチ 0.264mm)		
表示機能	液晶ディスプレイ	256 色 (仮想スクリーンモード)	
	・ 1280 × 1024 ドット時	65536 色 (仮想スクリーンモード)	
	・ 1024 × 768 ドット時	1677 万色 (ディザあり)	
	・ 800 × 600 ドット時	1677 万色 (ディザあり)	
機能	・ 640 × 480 ドット時		
	CRT 表示	256 色	
	・ 1280 × 1024 ドット時	65536 色	
	・ 1024 × 768 ドット時	1677 万色	
数	・ 800 × 600 ドット時	1677 万色	
	・ 640 × 480 ドット時		
	同時表示	256 色 (液晶 : 仮想スクリーンモード)	
	・ 1280 × 1024 ドット時	65536 色 (液晶、CRT ともに : 仮想スクリーンモード)	
音源機能		1677 万色 (ディザあり)(液晶) / 1677 万色 (CRT)	
キーボード		1677 万色 (ディザあり)(液晶) / 1677 万色 (CRT)	
内蔵ポインティングデバイス		標準内蔵 (クイックポイント)	
モデム		通信速度 データ: 最大 56Kbps (K56flex™ および V.90) FAX: 最大 14.4Kbps	
インターフェース	本体 内蔵	コネクタボックス	専用コネクタ 80 ピン
		モジュラージャック	RJ-11
		PC カード	PC Card Standard 準拠 TYPE I / II × 1 スロット (CardBus / ZV ポート対応)
		赤外線ポート	IrDA1.1 準拠 × 1
		マイクイン・ジャック	3.5mm ミニジャック × 1
		ヘッドホン・ジャック	3.5mm ステレオ・ミニジャック × 1
		USB	4 ピン × 2 ポート 4
		外部 CRT	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン

品名			FMV-BIBLO MC 3/45
インターフェース	コネクタ	パラレル シリアル FDD マウス キーボード	ECP 対応 D-SUB 25 ピン RS-232C D-SUB 9 ピン (16550A 互換) 専用コネクタ 26 ピン (標準添付 FDD 接続) PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン PS/2 タイプ Mini DIN 6 ピン
電源供給方式			AC アダプタ または リチウムイオンバッテリ (標準 × 1)
バッテリパック			リチウムイオン 10.8V 2600mAh
バッテリ稼動時間			約 3 時間 5
バッテリ 充電時間	急速 標準		約 3 時間 (標準バッテリ) 6 約 8 時間 (標準バッテリ) 7
消費電力			約 35W (AC 電源時)
省エネ法に基づく エネルギー消費効率	8		S 区分 0.002
重量			本体のみ 約 1.4kg
外形寸法 W × D × H			本体のみ 250 × 199 × 24 ~ 30mm 本体 + コネクタボックス 250 × 229 × 24 ~ 30mm
状態表示 LCD			反射型
盗難防止用ロック			有り
サポート OS			Windows98/Windows NT4.0 9

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

- 1 アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。
- 2 本書のハードディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。
1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算のものとは表記上同容量でも、実容量は少くなりますのでご注意ください。
- 3 TFT 液晶ディスプレイは、高度な技術を駆使し、一画面上に 144 万個以上 (解像度 800 × 600 の場合) の画素 (ドット) より作られてあります。このため、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合がありますが、これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 4 液晶ディスプレイは、その特性上、温度変化などで多少むらが発生することがあります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 5 すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
- 6 省電力機能有り、バッテリ満充電の場合 (稼動時間は使用条件によって異なります)。
- 7 MAIN スイッチ OFF またはシャットダウン時またはサスペンド時。ただし、使用条件により充電時間は異なります。
- 8 装置動作中。ただし、使用条件により充電時間は異なります。
- 9 エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したもののです。
 - Service Pack 5 以降
 - WindowsNT4.0 をお使いになるときは、インターネット富士通パソコン情報ページ「FM WORLD」(http://www.fmworld.ne.jp/)をご覧ください。
 - WindowsNT4.0 に変更した場合、次の機能は使えません。また、搭載アプリケーションの動作は保証できません。
 - ・携帯電話 / PHS 接続
 - ・ワンタッチボタン
 - ・赤外線通信
 - ・USB (CCD カメラ)
 - ・省電力機能
 - ・MIDI 再生 / FM エミュレーション音源
 - ・動作中・サスペンド中の PC カードのセット / 取り出し
 - ・CardBus 対応の PC カード
 - ・ZV ポート対応の PC カード

品名		Fujitsu LB RWModem V.90 56K J															
通信方式		2線式 全二重 (FAX モードでは2線式 半二重)															
通信規格	データモード	K56flex ITU T V.90 , V.34 , V.32bis , V.32 , V.22bis															
	FAX モード	ITU T V.17 , V.29 , V.27ter , V.21ch2															
通信速度	V.90 モード	受信	56000 , 54667 , 53333 , 52000 , 50667 , 49333 , 48000 , 46667 , 45333 , 44000 , 42667 , 41333 , 40000 , 38667 , 37333 , 36000 , 34667 , 33333 , 32000 , 30667 , 29333 , 28000bps														
		送信	33600 , 31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400bps														
	K56flex モード	受信	56000 , 54000 , 52000 , 50000 , 48000 , 46000 , 44000 , 42000 , 40000 , 38000 , 36000 , 34000 , 32000bps														
		送信	31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400bps														
	データモード	33600 , 31200 , 28800 , 26400 , 24000 , 21600 , 19200 , 16800 , 14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400 , 1200bps															
FAX モード		14400 , 12000 , 9600 , 7200 , 4800 , 2400 , 300bps															
同期方式		調歩同期															
データ転送プロトコル		MNP class 4 / 5 ITU T (CCITT) V.42 / V.42bis															
FAX インターフェース		TIA / EIA578 (class 1)															
最大端末速度		115200bps															
バスインターフェース		P C I															
使用環境条件		パソコン本体による (温度 : 5 ~ 35 (結露がないこと))															
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・自動速度検出 ・発信音、呼出し音、話中音、無音、ダイヤル音、音声などの回線接続の進行状態を示す応答音の検出 ・トーン式 / パルス式ダイヤルの自動選択 ・ナンバーディスプレイ対応 (Windows98 のみサポート) 															

- ・本モデムは Windows98 、 WindowsNT4.0 以外の OS での動作はサポートしていません。
- ・K56flex は Conexant Systems Inc. 、 Lucent Technologies 社が提唱している通信規格です。
- ・V.90 および K56flex での接続においては、接続先のプロバイダなどが同規格に対応していることが必要です。
- ・56000bps は V.90 および K56flex の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線状況により変化します。V.90 による 33600bps (K56flex は 31200bps) を超える通信速度は受信時のみで、V.90 送信時は 33600bps (K56flex は 31200bps) が最高速度になります。
- 日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては、同規格での通信が行えない場合があります。
- ・ MS-DOS モードではお使いになれません。

品名		携帯電話接続用 USB ケーブル
適用回線		デジタル携帯・自動車電話回線
伝送方式		RCR 標準規格 27D 準拠（携帯電話） RCR 標準規格 28 準拠（PHS）
同期方式		調歩同期
通信速度	データモード	9600 bps (無線圧縮効果により変動)
	FAX モード	4800 bps (ECM 時 9600bps)
	パケット	28800 bps
	Doccimo PHS	32K : 64K (PIAFS2.0 対応)
エラー訂正・データ圧縮	MNP class 4, 10	ITU-T V.42
	MNP class 5	ITU-T V.42 bis
FAX インターフェース	EIA / TIA 578 (Class1)	

CRT ディスプレイの走査周波数について

■ CRT 表示のみの場合 ■

ディスプレイドライバにより下表の走査周波数が選択できます。

ただし、CRTディスプレイによっては選択しても表示できない走査周波数があります。そのときは、液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示に切り替えて選び直してください。

解像度(ドット)	水平走査周波数(kHz)	垂直走査周波数(Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.8	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

■ 同時表示の場合 ■

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」をにした場合

CRT ディスプレイの走査周波数は以下のように設定できます。

解像度(ドット)	水平走査周波数(kHz)	垂直走査周波数(Hz)
640 × 480	31.5	60
	37.5	75
	43.3	85
800 × 600	37.9	60
	46.9	75
	53.6	85
1024 × 768	48.4	60
	60.0	75
	68.7	85
1280 × 1024	64.0	60

「表示デバイス」タブで、「ディファレントリフレッシュレート」をにした場合

CRT ディスプレイの走査周波数は解像度や色数に関係なく一定です。

水平走査周波数(kHz)	垂直走査周波数(Hz)
37.9	60

重　要

CRT ディスプレイ表示に切り替えて正常に表示されないとき

CRT ディスプレイによってサポートする走査周波数が異なるため、正常に表示されない場合があります。

正常に表示するには、CRT ディスプレイのマニュアルで CRT ディスプレイがサポートする走査周波数を確認し、リフレッシュレートを変更してください。

リソース一覧

以下の表は、本パソコンをお買い求めのときに、DMA と割り込み番号(IRQ)をどのハードウェアが使っているのかの一覧です。ご使用の状態によっては、異なることがあります。

DMA

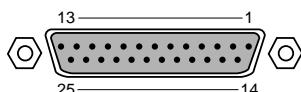
DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	赤外線シリアルポート
4	DMA コントローラ
5	空き

割り込み番号(IRQ)

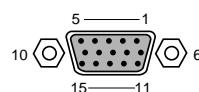
IRQ	使用状況	IRQ	使用状況
0	システムタイマ	9	CardBus Controller、USB Universal Host Controller、ディスプレイ
1	キーボード		PCI モデムエミュレータ、サウンド
2	割り込みコントローラ		
3	赤外線通信ポート	10	空き
4	通信ポート(COM1)	11	空き
5	空き	12	ポインティングデバイス
6	フロッピーディスクコントローラ	13	数値データプロセッサ
7	プリンタポート	14	IDE コントローラ
8	システム CMOS、リアルタイムクロック	15	空き

コネクタのピン配列と信号名

- ・パラレルコネクタ
(D-SUB25ピン、メス)



- ・CRTコネクタ
(ミニD-SUB15ピン、メス)

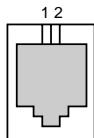


ピン番号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA 0	入出力	データ0
3	DATA 1	入出力	データ1
4	DATA 2	入出力	データ2
5	DATA 3	入出力	データ3
6	DATA 4	入出力	データ4
7	DATA 5	入出力	データ5
8	DATA 6	入出力	データ6
9	DATA 7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクリティック
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	選択
18 ~ 25	GND	-	グランド

ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グランド
9	+5V	-	電源
10	GND	-	グランド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

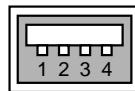
:MAX 300mA

・モジュラーコネクタ
(モデム)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

・USBコネクタ



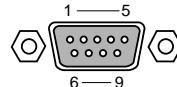
ピン番号	信号名	方向	説明
1	+5V	-	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	- データ信号
3	+ DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グランド

・拡張キーボード / マウスコネクタ
(PS/2タイプ ミニDIN6ピン)

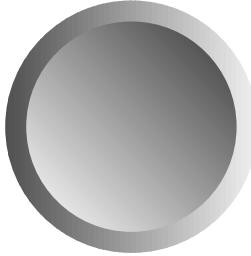


ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グランド
4	+5V	-	電圧
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

・シリアルコネクタ
(D-SUB9ピン、オス)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	出力	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート



付録

1.	ハードディスクの領域を設定する	200
2.	Save To Disk 領域の作成	208
3.	ACPI モードについて	212
4.	その他の注意事項	220

ハードディスクの領域を設定する

ハードディスク上にシステムで管理する範囲を設定したものを、領域（パーティション）といいます。ご購入時は、内蔵ハードディスクの容量全体を Save To Disk 領域と基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域に割り当てています。

拡張 MS-DOS 領域の中には「D:」や「E:」といった（操作上は）独立したドライブを設定することができます。

重 要

ご注意！ハードディスクのデータは消えてしまいます

- 基本MS-DOS領域を設定すると、それ以前のハードディスクのデータはすべて消えてしまいます。大切なデータは必ずフロッピーディスクなどに保存してから、設定を行ってください。
- 設定後、パソコンをご購入時の状態に戻す作業(リカバリ)が必要になります。詳しくは『リカバリガイド』をご覧ください。
また、以下の作業を行う前に、『リカバリガイド』の「リカバリに必要な設定をする」をご覧になり、設定を行ってください。

設定の手順

ハードディスク領域の設定は次の順番で行います。

1. 現在の領域設定を確認する
2. 現在の領域を削除する
3. 基本 MS-DOS 領域を作成する
4. 拡張 MS-DOS 領域を作成し、拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成する

重 要**ご購入時の領域設定を変更する場合**

「リカバリ」を実行するには、FAT32形式で1.7GB以上の領域(基本MS-DOS領域)が必要です。

容量が少ないと、正常にリカバリされない場合や、リカバリ後にエラーが頻繁に表示される場合がありますので、余裕を持って設定してください。

Save To Disk 領域について

「Non-DOS」と表示される領域は、Save To Disk 領域です。Save To Disk 領域は、適切な容量がご購入時に設定されているため、特に設定し直す必要はありません。Save To Disk 領域(「Non-DOS」領域)を削除してしまったときは、「Save To Disk 領域の作成」(▶ P.208)をご覧になって、設定し直してください。

また、Save To Disk 領域は、基本 MS-DOS 領域を作成する前か、拡張 MS-DOS 領域を作成する前に作成してください。

領域設定をはじめる

領域の設定は、電源が切れた状態で作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使用して行います。

1 作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットにセットします。

2 MAIN スイッチを ON にします。

アドバイス**電源が入った状態から始める場合**

Windows が起動している場合は、「スタート」メニューの「Windows の終了」から、「再起動する」を実行します。その操作ができない場合は、**[Ctrl]** と **[Alt]** を押しながら **[Del]** を 2 回以上押し、パソコンを再起動します。

しばらくすると、画面に「Windows 98 リカバリメニュー」が表示されます。

3 ④ を押して、「4. 領域の設定」を選びます。

ハードディスクの領域設定を行います。

しばらくすると、「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか」というメッセージが表示されます。

- 4** [Y] を押し、[Enter] を押します。

アドバイス

[N] を押したときは

「リカバリ」は実行できません。また、2.1GB を超える領域は作成できなくなります。ご購入時の状態に戻したいときは、必ず[Y] を押してください。

「大容量ディスクのサポート」とは

従来の「FAT16」形式のフォーマットで作成できる領域サイズの限界（2.1GB）を超えるサイズの領域を作成するため、「FAT32」形式でフォーマットできるようになります。大容量ディスクのサポートを有効にしても、512MB以下の領域は「FAT16」形式になります。

「FDISK オプション」画面が表示されます。

1. 現在の領域設定を確認する

- 1** [④] を押して「4. 領域情報を表示」を選び、[Enter] を押します。
「領域情報を表示」画面に、設定されている領域の一覧が表示されます。

- 2** 領域の設定状態を確認します。
領域の「種類」は、次のように表示されます。

種類	意味
PRI DOS	基本 MS-DOS 領域です。
EXT DOS	拡張 MS-DOS 領域です。
Non-DOS	Save To Disk 領域です。

確認を終了したいときは、論理ドライブを削除したときは、手順 5 に進んでください。

- 3** 拡張MS-DOS領域内に設定されている論理ドライブの状態を確認したいときは、[Enter] を押します。
「論理MS-DOSドライブ情報を表示」画面に、設定されている論理ドライブの一覧が表示されます。

- 4** 論理ドライブの設定状態を確認します。

- 5** [Esc] を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

2. 現在の領域を削除する

領域を削除するときは、次の順序で行います。

1. 拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブの削除
2. 拡張 MS-DOS 領域の削除
3. 基本 MS-DOS 領域の削除

基本 MS-DOS 領域 (C ドライブ) のサイズを変更しないときは、拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブのみを削除してください。

■ 拡張 MS-DOS 領域内の論理ドライブの削除 ■

- 1** ③を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、[Enter] を押します。

「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。

- 2** ③を押して「3. 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、[Enter] を押します。

「どのドライブを削除しますか ? []」というメッセージが表示されます。

- 3** 削除するドライブ名のキー (④や⑤など) を押し、[Enter] を押します。
「ボリュームラベルを入力してください ? []」というメッセージが表示されます。

- 4** [Enter] を押します。

アドバイス

ボリュームラベルをついている場合

一覧の「ボリュームラベル」欄にボリュームラベルが表示されている場合は、その名前を入力してから [Enter] を押してください。

「よろしいですか (Y/N) ? [N]」というメッセージが表示されます。

- 5** ④を押し、[Enter] を押します。

指定したドライブ名の論理ドライブが削除されます。

拡張 MS-DOS 領域内に論理ドライブが残っていないときは、「拡張 MS-DOS 領域の論理ドライブはすべて削除されました。」と表示されます。この場合には、手順 7 に進んでください。

6 続けて手順 3～5を繰り返し、その他の論理ドライブを削除します。
論理ドライブを残したまま終了したいときは、[Esc]を押して手順 8に進んでください。

7 [Esc]を押します。
「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示されます。

8 [Esc]を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
基本 MS-DOS 領域(C ドライブ)のサイズを変更しないときは、続いて「4. 拡張 MS-DOS 領域を作成する」(▶ P.206) の操作を行ってください。

■ 拡張 MS-DOS 領域の削除 ■

1 [③]を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、[Enter]を押します。
「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。

2 [②]を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を削除」を選び、[Enter]を押します。
「続けますか(Y/N).....?[N]」というメッセージが表示されます。

3 [Y]を押し、[Enter]を押します。
「拡張 MS-DOS 領域を削除しました。」というメッセージが表示されます。

4 [Esc]を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

■ 基本 MS-DOS 領域の削除 ■

1 [③]を押して「3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」を選び、[Enter]を押します。
「MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除」画面が表示されます。

2 [①]を押して「1. 基本 MS-DOS 領域を削除」を選び、[Enter]を押します。
「どの基本領域を削除しますか.....?[1]」というメッセージが表示されます。
種類が「Non-Dos」で容量が200 メガバイト前後の領域は Save To Disk 用の領域です。
削除しないでください。

3 [②]を押し、[Enter]を押します。
「ボリュームラベルを入力してください.....?[]」というメッセージが表示されます。

4 [Enter] を押します。

アドバイス

ボリュームラベルをついている場合

一覧の「ボリュームラベル」欄にボリュームラベルが表示されている場合は、その名前を入力してから [Enter] を押してください。

「よろしいですか(Y/N).....?[N]」というメッセージが表示されます。

5 [Y] を押し、[Enter] を押します。

「基本 MS-DOS 領域を削除しました。」というメッセージが表示されます。

6 [Esc] を押します。

「FDISK オプション」画面に戻ります。

3. 基本 MS-DOS 領域を作成する

1 [①] を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、[Enter] を押します。

付録

2 [①] を押して「1. 基本 MS-DOS 領域を作成」を選び、[Enter] を押します。
しばらくすると、「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか」というメッセージが表示されます。

3 [N] を押し、[Enter] を押します。

アドバイス

[Y] を押したときは

「領域設定をはじめる」の手順 4(▶ P.202)で、[Y] を押しているか [N] を押しているかによって、動作が異なります。

- [Y] を押している場合

ハードディスクのすべての領域が C ドライブになります。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら [Esc] を押し、『リカバリガイド』をご覧になって、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻してください。

- [N] を押している場合

2.1GB の領域が C ドライブに割り当てられます。

「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示されたら [Esc] を押し、「A:¥>」に続けて FDISK と入力して [Enter] を押します。このあとは、「大容量ディスクのサポート」を選択して、拡張 MS-DOS 領域を作成してください。

- 4** 基本 MS-DOS 領域に割り当てる容量を入力します。
リカバリの操作を行うためには、1700MB 以上になるように設定してください。

アドバイス

基本 MS-DOS 領域のサイズを自由に設定したいときは
「MB」で入力するときは「××××」と数値だけを入力し、「%」で入力するときは「×
%」と単位を付けて入力します。

- 5** **[Enter]** を押します。
- 6** **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
- 7** **[②]** を押して「2. アクティブな領域を設定」を選び、**[Enter]** を押します。
「アクティブにしたい領域の番号を入力してください.....:[]」というメッセージが表示されます。
- 8** **[①]** を押し、**[Enter]** を押します。
「領域 1 がアクティブになりました。」というメッセージが表示されます。
- 9** **[Esc]** を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。
このあと、拡張 MS-DOS 領域を作成してください。

4. 拡張 MS-DOS 領域を作成する

- 1** **[①]** を押して「1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成」を選び、**[Enter]** を押します。
- 2** **[②]** を押して「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」を選び、**[Enter]** を押します。

アドバイス

論理 ドライブのみを作成したいときは
「2. 拡張 MS-DOS 領域を作成」の代わりに「3. 拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS
ドライブを作成」を選んで**[Enter]** を押し、手順 5 に進んでください。

3 表示されている値（最大値）を確認し、[Enter] を押します。
「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。」というメッセージが表示されます。

4 [Esc] を押します。
「拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成」画面が表示されます。

5 表示されている値（最大値）を確認し、[Enter] を押します。

アドバイス

複数の論理 ドライブを作成するには

手順 5 で [Enter] を押す前に、論理 ドライブに設定したい容量を入力します。
「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理 ドライブに割り当てられています。」
というメッセージが表示されるまで、手順 5 の操作を繰り返して論理 ドライブを作成する
ことができます。

6 「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理 ドライブに割り当てられて
います。」と表示されたら、[Esc] を押します。
「FDISK オプション」画面に戻ります。

7 [Esc] を押します。
「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」というメッセージが表示
されます。

8 [Esc] を押します。
画面に「A:¥>」と表示されます。
作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットしたままで、パソコンを再起動して
ください。
続けて『リカバリガイド』をご覧になり、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻し
てください。

付
録

重 要

パソコンがご購入時の状態に戻ったあとに

拡張 MS-DOS 領域を設定した方は、C ドライブの内容をご購入時の状態に戻
したあと、D 以降のハードディスクのドライブをフォーマットする必要があり
ます。お使いになる前に「マイコンピュータ」からフォーマットしてくだ
さい。

2

Save To Disk 領域の作成

Save To Disk 領域とは

「Save To Disk 領域」とは、ハードディスクに確保する、Save To Disk 機能専用の保存領域のことです。

アドバイス

区画形式とファイル形式

Save To Disk 領域には「区画形式」と「ファイル形式」とがあります。「区画形式」ではハードディスク上に Save To Disk 専用の領域(区画)が作成され、「ファイル形式」では C ドライブに作業用ファイルが作成されます。

ファイル形式についての注意

C ドライブを「ドライブスペース」や「ダブルスペース」などのディスク圧縮機能で圧縮しているときは、Save To Disk 領域をファイル形式で作成することはできません。また、Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、ディスク圧縮機能は使用しないでください。

Save To Disk 領域の容量

Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量 = メインメモリ容量 + (ビデオメモリ容量 / その他)

本パソコンでは、メモリ容量を最大に拡張した場合を想定し、ご購入時には次の容量の Save To Disk 領域が、「区画形式」で設定されています。

Save To Disk 領域の容量	最大emainメモリの容量(増設時)	ビデオメモリ容量 / その他
約 199MB	基本 64 + 増設 128 = 192MB	7MB

Save To Disk 領域を作成する / 変更する

Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行うには、PHDISK ユーティリティを使います。PHDISK ユーティリティ(PHDISK.EXE)は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に入っています。

■ PHDISK ユーティリティの使用方法 ■

PHDISK ユーティリティは、Windows の「プログラム」から選択する「MS-DOS プロンプト」では正しく動作しません。

PHDISK ユーティリティを使うときは、必ず次の操作を行ってください。

- 1** 作業用の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をフロッピーディスクユニットにセットします。
- 2** MAIN スイッチを ON にします。
しばらくすると、画面に「Windows98 リカバリメニュー」が表示されます。
- 3** [5] を押して、「5. 終了」を選びます。
「A:¥>」と表示されます。
- 4** 「A:¥>」に続けて、次のコマンドを入力し、[Enter] を押します。

PHDISK { オプション }

/CREATE /PARTITION
 /CREATE /FILE
 /DELETE /PARTITION
 /DELETE /FILE
 /REFORMAT /PARTITION
 /INFO

「{ オプション }」の部分には、上記のいずれかのオプションを入力します。詳しくは、次の「オプションの詳細」をご覧ください。

「PHDISK」だけでオプションの指定を省略すると、PHDISK の簡単な使いかたと、現在作成されている領域やファイル名などの情報が表示されます。

■ オプションの詳細 ■

- それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、/CREATE と /C は同じです。
- 「/CREATE /PARTITION」のようにオプションを続けて入力するときは、その間に必ず半角スペース（□または空）を入力してください。

作成 : /CREATE /PARTITION
/CREATE /FILE

Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使います。

「/CREATE /PARTITION」と指定すると区画形式で、「/CREATE /FILE」と指定するとファイル形式で、現在のシステムに最適な容量の Save To Disk 領域が作成されます。

Save To Disk 領域を区画形式で作成したときは、作成が終わると自動的にフォーマットされます。フォーマット中に、ハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークが付き、以後使えないようになります。

アドバイス

区画形式で作成するときは

- あらかじめ、拡張 MS-DOS 領域または基本 MS-DOS 領域を削除し、未設定の領域が充分残っているときに Save To Disk 領域を作成してください。ハードディスクの領域設定について詳しくは、「ハードディスクの領域を設定する」(▶ P.200)をご覧ください。
- Save To Disk 領域を区画形式で作成すると、ファイル形式で作成したときよりも、大きな空き容量が必要になります。

Save To Disk 領域を作成したときは

作成後に、必ず再起動してください。再起動せずに Save To Disk 機能を利用すると、正しく動作しないことがあります。

削除 : /DELETE /PARTITION
/DELETE /FILE

/DELETE /PARTITION を指定すると、区画形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

/DELETE /FILE を指定すると、ファイル形式で作成された Save To Disk 領域を削除します。

Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず、/DELETE によってすでに作成された Save To Disk 領域を削除したあと、/CREATE によって新たに作成し直します。現在のメモリ容量に対応した容量の Save To Disk 領域が作成されます。

アドバイス

Save To Disk 領域の容量を増やす場合

区画として作成された Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量をFDISKユーティリティを使って減らす必要があります。FDISKによって MS-DOS 領域の容量を変更すると、その MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。

作業前に必ず大切なデータのバックアップを行ってください。

再フォーマット : /REFORMAT/PARTITION

区画形式で作成されている Save To Disk 領域を再フォーマットします。

このオプションは、Save To Disk 機能の使用中に、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使ってください。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタが見つかった場合は、そのセクタにマークが付き、以後使えないようになります。Save To Disk 領域の容量が変わることはできません。

詳細情報 : /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

【区画形式で作成した場合の表示例】

Save To Disk 領域詳細情報:

開始セクタ: XXXXXXXX (ヘッド X、シリンド XXX、セクタ X)

全容量: XXXXXXK バイト

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

【ファイル形式で作成した場合の表示例】

Save To Disk 情報:

現在の Save To Disk 領域は、ファイル名が C:¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、及び読み取り専用です。

現在の状態:

現在の構成では、XXXXXXk バイトの Save To Disk 領域が必要です。PHDISK は更に多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

3

ACPI モードについて

本パソコンご購入時は、省電力機能としてAPM(Advanced Power Management)モードに設定されています。本パソコンにはWindows98がインストールされているので、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに変更することもできます。

重要

必要のない方は設定を変更しないでください

本パソコンを ACPI モードでお使いになるには、多くの注意事項があります。特に必要な方は、APM モードの設定のままお使いになることを、強くお勧めします。

注意事項をご確認ください

ACPI モードでお使いになるときは、注意していただきたいことがあります。ここに記載している注意事項を十分確認してから、設定を変更してください。

操作手順を間違えないでください

設定を変更するときは、必ず手順どおりに行ってください。操作を間違えると、Windows98 が起動できなくなる場合があります。

ACPI モード使用時の注意事項

作成されたデータに関する注意

ACPI モードを有効にする前に、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻します。

…▶『リカバリガイド』

ご購入時の状態に戻すと、本パソコンご購入後に作成したファイルは、すべて消えてしまします。大切なファイルは、必ずバックアップをとっておいてください。

また、本パソコンご購入後にインストールしたアプリケーションは、ACPI モードが有効になったあとに、インストールし直す必要があります。

オプション機器に関する注意

本パソコンで使用する PC カードなどのオプション機器が、ACPI モードに対応している必要があります。

ACPI モードを有効にしたあとで、ACPI モードに対応していない PC カードなどのオプション機器を接続すると、オプション機器が使えなかったり、サスPEND(一時停止)などの省電力モードから復帰できなくなる場合があります。事前にお使いになる PC カードなどのオプション機器が、ACPI モードに対応しているかどうかをご確認ください。

なお、ご使用になる PC カードなどのオプション機器によっては、ドライバで ACPI モードに対応できるものもあります。

アドバイス

CCD カメラについて

本パソコンに添付の CCD カメラ(親指シフトキーボードモデルは別売)は、ACPI モードには対応しておりません。

APM モードに戻すときの注意

ACPI モードに設定を変更後、再び APM モードへ戻すときにも、ハードディスクの内容をご購入時の状態に戻す必要があります。

ネットワーク環境の使用時の注意

ネットワーク環境をご使用の場合、省電力モードへ移行すると通信先との接続が切れてしまい、レジューム(サスPENDする前の状態に戻す)時に、正常に通信を継続できなかったり、Windows98 が正常に動作しなくなる場合があります。

付録

お使いになれない機能

BIOS セットアップの「省電力」メニュー

ACPI モードでは、Windows98 がすべての省電力機能を制御します。そのため、BIOS セットアップの「省電力」メニューの設定は、すべて無効になります。

モデム着信によるレジューム

サスPEND状態で内蔵モデムに着信すると、常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーコネクタからモジュラーケーブルを抜いておいてください。

ACPI モードに設定する

必要なものを用意する

- ・『リカバリガイド』
- ・リカバリ CD-ROM 起動ディスク（フロッピーディスク）
- ・リカバリ CD-ROM
- ・アプリケーション CD
- ・コネクタボックス
- ・フロッピーディスクユニット
- ・CD-ROM ドライブ

ACPI モードに設定する

重 要

もう一度注意事項を確認してください

- ・Windows98のACPIモードを有効にしたあとに再びAPMモードに戻すときは、ハードディスク（C ドライブ）の内容をご購入時の状態に戻す必要があります。注意事項を再度ご確認の上、内容にご同意いただける場合のみ、以下の操作を行ってください。
「ACPI モード使用時の注意事項」（[P.212](#)）
- ・操作手順は間違えないように十分注意してください。手順を間違えると、Windows98 が起動できなくなる場合があります。

■ ACPI モードの設定を始める前に ■

Lockボタン（[P.34](#)）が右側にスライドされていることを確認してください。また、PCカードなどのオプション機器を接続していたり、アプリケーションをインストールされている場合には、以下の操作を行う必要があります。

オプション機器を取り外す

CD-ROM ドライブ以外のオプション機器を接続している場合は、すべて取り外してください。また、すべての作業が完了するまでは、オプション機器を取り付けないでください。

BIOS セットアップの設定を戻す

BIOSセットアップの設定を変更している場合は、ご購入時の設定に戻してください。「ご購入時の設定内容（標準設定値）に戻す」（[P.148](#)）

バックアップをとる

ご購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションは、すべて削除されます。必要なデータはあらかじめフロッピーディスクなどに保存しておいてください。また、インストールしたアプリケーションは、すべての作業が完了してからインストールし直してください。

■ ACPI モードの設定方法 ■

- 1** ハードディスクの内容を、ご購入時の状態に戻します。
⇒『リカバリガイド』
- 2** パソコンの電源を入れ、スタートアップのアプリケーション登録をすべて削除します。

重　要

スタートアップにアプリケーションが登録されていると
ACPIモードに正しく設定されない場合があります。スタートアップへの登録
は、ACPIモードを有効にしてから行ってください。

- 3** 本パソコンを再起動します。
「スタート」ボタンをクリックし、「Windowsの終了」をクリックします。「Windowsの終了」ウィンドウが表示されたら、「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
- 4** タスクバーの「McAfee VirusScan スケジューラ」および「McAfee Vshield」を右クリックして表示されるメニューで、「終了」をクリックします。
- 5** CD-ROM ドライブに「アプリケーション CD」をセットします。
- 6** 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイルを指定して実行」をクリックします。
- 7** 「名前」の右の欄に `e:\chgacpi\chgacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)
「FUJITSU ChgACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。
- 8** 「次へ」をクリックします。
- 9** 「ACPIモードに設定する」をクリックして を にし、「次へ」をクリックします。
- 10** 「完了」をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
画面の表示に従って、ハードウェアの検索を行ってください。検索には数分かかります。
検索が完了したら、画面の表示に従って Windows98 を再起動してください。
Windows98 を再起動すると、新しいハードウェアの検出が行われます。

アドバイス

メッセージが表示されたとき

新しいハードウェアを検出している途中で、メッセージやウィンドウが表示されたら、次の操作を行ってください。

- ・「Windows98 Second Edition CD-ROM のラベルの付いたディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで `c:\windows\options\cabs` と入力して「OK」をクリックしてください。
- ・「ドライバ更新の警告」ウィンドウが表示された場合
「はい」をクリックしてください。
- ・「ディスプレイ設定に問題があります」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示される「画面のプロパティ」ウィンドウで「キャンセル」をクリックしてください。
- ・「不明なデバイス」ウィンドウが表示された場合
「キャンセル」をクリックして、次に進んでください。
- ・「Fujitsu Touch Panel Driver Disk' ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください。」というメッセージが表示された場合
「OK」をクリックし、次に表示されるウィンドウで「スキップ」をクリックしてください。

すべてのハードウェアの検出と設定が完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。

メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたとき
Windows98の再起動中に「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウに不明なデバイスが表示されたときは、以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. 「キャンセル」をクリックします。
しばらくすると、「不明なデバイス」が表示されます。
2. 「キャンセル」をクリックし、再起動します。
3. 「次へ」をクリックします。
「検索方法を選択してください。」というウィンドウが表示されます。
4. 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
5. デバイスの種類の一覧で「システムデバイス」をクリックして反転表示させ、「次へ」をクリックします。
6. 「ディスク使用」をクリックします。
7. 「配布ファイルのコピー元」の下の欄に、`e:\pmset` と入力し、「OK」をクリックします。
(e:にはお客様がお使いのCD-ROM ドライブ名を入力してください)
8. 「モデル」欄に「Fujitsu FUJ02B1 Device Driver [x-xx-1999]」と表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します」というウィンドウが表示されます。
9. 「次へ」をクリックします。
ファイルのコピーがはじまります。
10. 「完了」をクリックします。

11 「スタート」ボタンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

12 「名前」の右の欄に `e:\fixacpi\fixacpi.exe` と入力し、「OK」をクリックします。

(e: にはお客様があ使いの CD-ROM ドライブ名を入力してください)

「FixACPI」ウィンドウが表示されます。表示される内容をよくお読みください。

13 「OK」をクリックします。
再起動を確認するメッセージが表示されます。

14 「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動されます。

15 「アプリケーション CD」を CD-ROM ドライブから取り出します。

16 「スタート」ボタンをクリックし、「設定」にマウスポインタを合わせ、「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

17  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブで「接続別に表示」をクリックして  にします。
「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」と表示されていることを確認します。
ACPI モードが有効になりました。

18 「OK」をクリックします。
続いて、3 モードフロッピードライバを再インストールしてください。

■ 3 モードフロッピードライバを再インストールする ■

1 「コントロールパネル」ウィンドウの  (システム) をクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

2 「種類別に表示」をクリックして  にし、「フロッピーディスクコントローラ」の左の  をクリックします。

3 「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)」をクリックし、「削除」をクリックします。
「デバイス削除の確認」ウィンドウが表示されます。

- 4** 「OK」をクリックします。
- 5** 「閉じる」をクリックします。
- 6** 「コントロールパネル」ウィンドウの (ハードウェアの追加) をクリックします。
「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「次へ」をクリックします。
- 8** 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します。」というウィンドウが表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 9** 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」というウィンドウで「いいえ」をクリックして にし、「次へ」をクリックします。
「インストールするハードウェアの種類を選んでください。」というウィンドウが表示されます。
- 10** 「ハードウェアの種類」で「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、「次へ」をクリックします。
- 11** 「製造元」に「FUJITSU」を、「モデル」に「Fujitsu 3-mode Floppy (FMV Series)(FUJITSU)[11-18-1998]」を選び、「次へ」をクリックします。
- 12** 「完了」をクリックします。
インストールが完了すると、再起動を確認するメッセージが表示されます。メッセージに従って本パソコンを再起動してください。
メッセージが表示されない場合は、「スタート」ボタンをクリックし、「Windows の終了」ウィンドウで「再起動する」をクリックし、「OK」をクリックしてください。

■ Windows 98 の再設定を行う ■

ACPI モードを有効にすると、Windows98 の設定の一部が変更されます。次の手順で再設定を行ってください。

SUS/RES スイッチを押したときの動作設定

ACPI モードを有効にすると、SUS/RES スイッチを押したときの動作設定が、「シャットダウン（電源断）」になります。「コントロールパネル」ウィンドウの（電源の管理）の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を設定して、サスPENDするように設定を変更してください。

液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定

ACPIモードを有効にすると、液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が、「何もしない」になります。susPEND機能を有効にするときは、「コントロールパネル」ウィンドウの①(電源の管理)の「詳細」タブの「電源ボタン」で、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を設定してください。

液晶ディスプレイを閉じたときの動作設定が「何もしない」のときは、電源が入っている状態で液晶ディスプレイを閉じないでください。

キーボードからの放熱効果が失われ、本パソコンが故障する原因となることがあります。

スタートアップの再登録

ACPIモードを有効にする前に削除したアプリケーションを、再登録します。

ACPIモードで使う際のヒント

Save To Disk 領域

Save To Disk 領域を削除すると、「電源の管理のプロパティ」ウィンドウに「休止状態」タブは表示されません。「休止状態」の機能を使用する場合には、Save To Disk 領域を作成してください。

「Save To Disk 領域の作成」(▶ P.208)

なお、ご購入時には Save To Disk 領域は作成されています。

付録

レジューム時の画面表示

「モデル着信によるレジューム」機能でレジューム(サスペンドする前の状態に戻す)時に画面が表示されません。

クイックポイント(マウス)を操作すると画面が表示されます。表示されない場合は□などのキーを押してください。この操作をしても画面が表示されない場合には、状態表示LCDの①が点滅していないか確認してください。点滅している場合にはサスペンドになっています。SUS/RESスイッチを押して、レジュームさせてください。

電源を切る

「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「休止状態」タブで、「休止状態をサポートする」を☑にし、「詳細」タブの「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「シャットダウン」を選択したときに、「適用」を押してからSUS/RESスイッチを押した場合は、電源を切るまでの時間が、長くかかることがあります。

その他の注意事項

本パソコンをお使いになる上で注意していただきたいことなどを記載しています。

お問い合わせをする前に

パソコンが起動できない場合は、以下の点をもう一度確認してください。

- フロッピーディスクユニットに、起動ディスク以外のフロッピーディスクがセットされていますか？
- バッテリは充電されていますか？

原因がわからないときは、弊社パーソナルエコーセンター、FMインフォメーションサービス、またはご購入元にご連絡ください。その際、事前に以下のことを確認して、「お問い合わせの確認シート」(▶ P.189)に記入しておいてください。

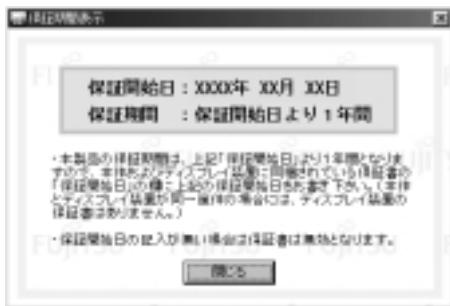
- パソコンの機種名と MODEL(パソコン本体下面のラベルに表示されています)
- 購入時期
- 使用しているソフトウェア、およびそのバージョン、レベル
- BIOS セットアップ情報
- 取り付けている拡張メモリの容量
- 取り付けているオプション機器の種類
- 現象(何をしているときに何が起きたか、画面にどのようなメッセージが表示されたか)
- 発生日時

パーソナルエコーセンターと、FMインフォメーションサービスの連絡先は、『サポート&サービス 富士通パソポート ご案内』をご覧ください。

保証期間について

保証期間は、Windows98を初めて起動した際にパソコン本体に記録されます。記録された保証期間は、Windows98が起動しているときに確認できます。

- 1 デスクトップの[保証期間]をクリックします。



保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償修理となります。必ず保証開始日を保証書に記入してください。

修理を依頼する前に

パソコンを修理に出すと、パソコンの内容がご購入時の状態に戻ったり、ファイルなどが何も入っていない状態で戻ってくる場合があります。

大切なデータやファイルは、修理に出される前に必ずバックアップをしておいてください。

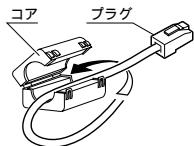
また、添付の「リカバリ CD-ROM」を使ってご購入時の状態に戻すと、問題が解決される場合があります。『リカバリガイド』をご覧になり、本パソコンをご購入時の状態に戻してみてください。

修理に関する各サービスについては、『サポート & サービス 富士通パソポート ご案内』をご覧ください。

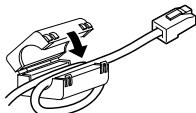
モジュラーケーブルのコアについて

本パソコンの内蔵モデムを使用する場合は、不要電波の輻射を軽減させるために、モジュラーケーブルに添付のコアを取り付けてください。

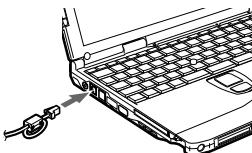
- 1 モジュラーケーブルのプラグのすぐ後ろで、コアにケーブルを1回巻き付けます。



- 2 コアを閉じます。



- 3 モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラーコネクタに接続します。
コアを閉じる際に、ケーブルをはさみこまないようご注意ください。



マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで、1つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここではプライマリアダプタ(メイン画面)として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ(拡張表示)として外部ディスプレイを使用する場合の手順を次のように説明します。

- セカンダリアダプタを設定する (▶ P.224)
- マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数 (▶ P.225)
- アダプタの表示位置を変更する (▶ P.226)

セカンダリアダプタを設定する

重 要

マルチモニタ機能の注意

- マルチモニタ機能をお使いになる前に、使用中のアプリケーションを終了してください。
- 2つのディスプレイにまたがるウィンドウがあるときは、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーションを起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了させないでください。アプリケーションおよびWindows98の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- 以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
 - 液晶ディスプレイの全画面表示
 - 一部のスクリーンセーバー
 - 動画再生画面のフルスクリーン表示

アクティブデスクトップの解除

アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や発色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。

「スタート」ボタンをクリックし、「設定」「アクティブデスクトップ」の順にマウスポインタを合わせ、「Webページで表示」をクリックしてチェックマークを外すとアクティブデスクトップが解除され、Windows98の標準画面に切り替わります。

解像度や発色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。

発色数についての注意

- プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の発色数を設定しないでください。
- High ColorまたはTrue Colorに設定してください。256色に設定すると、正しく表示されないことがあります。
- セカンダリアダプタは256色に設定できません。

解像度についての注意

- プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。

アドバイス**ディスプレイの切り替え**

マルチモニタ使用時は、キーボードによるディスプレイの切り替えは無効となります。

プライマリアダプタについて

現在、画面が表示されているディスプレイがプライマリアダプタになります。

ただし同時表示の場合は、液晶ディスプレイがプライマリアダプタになります。

「設定」タブの「1」と「2」について

「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。

- 1** 「コントロールパネル」ウィンドウで、 (画面) をクリックします。
- 2** 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。
「モニタ #2」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「はい」をクリックします。
- 4** セカンダリアダプタの解像度と発色数を設定します。
「解像度と発色数を変更する」の手順 17 (\Rightarrow P.91)
- 5** 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

付録

マルチモニタ機能を使っているときに表示できる解像度と発色数

次の組み合わせで選択できます。

次の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

発色数	セカンダリの解像度 プライマリの解像度	640	800	1024	1280
		$\times 480$	$\times 600$	$\times 768$	$\times 1024$
High Color (16 ビット)	640 × 480				×
	800 × 600				×
	1024 × 768			×	×
True Color (32 ビット)	640 × 480		×	×	×

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 セカンダリアダプタを設定します。
「セカンダリアダプタを設定する」(▶ P.224)
- 2 「コントロールパネル」ウィンドウの (画面) をクリックします。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。
- 5 「OK」をクリックします。
分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

PS/2マウスのホイール機能について

タッチパネルドライバがインストールされている状態では、PS/2マウスでのホイール機能は使用できません。

ホイール機能を使用する場合は、タッチパネルドライバをアンインストールしてください。アンインストールする方法は、『リカバリガイド』の「タッチパネルドライバの再インストール」をご覧ください。

索引

数字

- 2DD フロッピーディスク 62
- 2HD フロッピーディスク 62
- 3 モードドライブ 62

A

- ACPI 212
- ACPI モード 212
- AC アダプタ表示 32
- Alt キー 48
- APM 212
- Application キー 49
- A ボタン 34

B

- Back Space キー 48
- BIOS
 - ~ エラーメッセージが表示されたとき 184
 - ~ パスワードを削除する 168
 - ~ パスワードを設定する 164
 - ~ パスワードを入力する 166
 - ~ パスワードを変更する 167
 - ~ メッセージ一覧 178
- BIOS セットアップ 142
 - ~ 標準設定値に戻す 148
 - ~ の操作 143
 - ~ を開始する 143
- BIOS のパスワード機能を使う 164

C

- Caps Lock キー 47
- Caps Lock 表示 33
- CCD カメラ 96
 - ~ USB コネクタに接続する 103
 - ~ 各部の名称と働き 102
 - ~ 接続ケーブルで接続する 104
 - ~ を接続する 103

- ~ を使う 102
- CCD カメラ接続スリット 29
- CD-ROM ドライブ 110
- CMOS RAM 142
- CRT コネクタ 29, 197
- CRT ディスプレイ 131
- CRT ディスプレイの走査周波数 195
- Ctrl キー 48

D

- DC-IN コネクタ 26
- Delete キー 48
- DMA 196

E

- E-mail ボタン 34
- End キー 47
- Enter / 改行キー 48
- Esc キー 49

F

- FMV オンラインユーザー登録 16
- Fn キー 48

H

- High Color 87, 135
- Home キー 47

I

- Insert キー 48
- Internet ボタン 34

L

- Lock ボタン 34

M

- MAIN スイッチ 29
- MS-IME98 50

N

- Num Lock キー 47
- Num Lock 表示 33

索引

O

OADG キーボード 46

P

Page Down キー 47

Page Up キー 47

Pause/Break キー 49

PC カード 96, 105

~ 注意事項 105

PC カードアクセス表示 33

PC カードスロット 27

PC カード取り出し / ロックボタン 27

PC カードの種類 106

PHS 96, 113

~ PC カードで接続する 115

~ USB コネクタに接続する 113

PIAFS 113, 115

PMSet98 78

Print Screen キー 49

Q

Q & A 170

R

RS-232C 規格対応機器 96, 136

S

Save To Disk 機能 72, 75

Save To Disk 領域 208

~ 作成する 209

~ 変更する 209

Scroll Lock キー 49

Scroll Lock 表示 33

Shift キー 48

SUS/RES スイッチ 25

SUS/RES 表示 32

System Request キー 49

T

True Color 87, 135

U

USB 規格対応機器 138

USB コネクタ 29, 198

USB マウス 138

W

Windows98 起動ディスク 14

Windows98 のセットアップ 2, 5

Windows キー 49

Windows を終了する 72

Z

ZV ポート 106

ア

アプリケーションキー 49

イ

一時停止状態にする 73

インサートキー 48

ウ

ウィンドウズキー 49

上ボタン (クイックポイント) 40

エ

液晶ディスプレイ 24

~ 解像度を変更する 88

~ 廃棄 24

~ 発色数を変更する 88

エスケープキー 49

エフエヌキー 48

エラーメッセージ (BIOS) 179

エンターキー 48

エンドキー 47

オ

お問い合わせの確認シート 189

オプション機器 96

~ の活用例 99

~ を使用する 96

親指シフトキーボード	46
オルトキー	48
オンラインユーザー登録	16
音量ボリューム	28
音量を設定する	93

力

カーソルキー	47
解決できないとき	185
解像度	87, 135
外部ディスプレイ	96, 131
~解像度	135
~発色数	135
書き込み可能	64
書き込み禁止	64
拡張RAMモジュール	125
拡張RAMモジュールスロット	31
拡張キーボードコネクタ	55
拡張キーボード/マウスコネクタ	198
各部の名称と働き	24, 55, 102
稼動時間	67
かな入力	51
カバークローズスイッチ	25

キ

キーボード	25, 46
起動メニュー	161
キャップスロックキー	47

ク

クイックポイント	25, 40
空白キー	48
空冷用ファン	27
クリック	
~クイックポイント	41
~タッチパネル	42
~マウス	122

ケ

携帯電話	96, 113
~PCカードで接続する	115
~USBコネクタに接続する	113

二

後退キー	48
固定ツメ	102
固定フリップ	102
コネクタの信号名	197
コネクタのピン配列	197
コネクタボックス	55
~各部の名称と働き	55
~を取り付ける	56
~を取り外す	57
コネクタボックス接続コネクタ	30
コピー	
~リカバリCD-ROM起動ディスク	12
困ったときのQ&A	170
コントロールキー	48

サ

再生時の音量設定	93
作業を再開する	73, 75
作業を中断する	75
サスPEND/レジュームスイッチ	25
サスPEND機能	72, 73

シ

システムリクエストキー	49
下ボタン(クイックポイント)	40
シフトキー	48
シャッター ボタン	102
充電	66, 101
充電時間	67
修理	221
終了メニュー	163
仕様	
~本体	192
~モデル	194
仕様一覧	192
詳細メニュー	151
状態表示LCD	25
省電力メニュー	158
情報サービス	188
情報メニュー	162
所在地情報	83
~の設定	80
~を切り替える	86

~を設定する	84
シリアルコネクタ	55, 136, 198

ス

スクロールロックキー	49
スティック	40
スピーカー	31
スペースキー	48

セ

赤外線通信ポート	26
セキュリティメニュー	156
セットアップ	5
接続ケーブル	102
接続コネクタ	55, 102
接続コネクタ取り外しレバー	55
接続・セット	
~ CCD カメラ	103
~ CD-ROM ドライブ	110
~ CRT ディスプレイ	131
~ PC カード	107
~ PHS	114, 115
~ USB コネクタ	138
~ 外部ディスプレイ	131
~ 拡張 RAM モジュール	126
~ 携帯電話	114, 115
~ コネクタボックス	56
~ シリアルコネクタ	136
~ テンキー ボード	123
~ 電話回線	82
~ ハードディスク	139
~ プリンタ	118
~ フロッピーディスク	63
~ フロッピーディスクユニット	59
~ マウス	120
接続ネジ	55
節電	72, 76
節電の設定を変更する	76

ソ

外付けモデム	136
ソフトウェアのお問い合わせ先	186

タ

タッチ	42
タッチパネル	42
タッチパネルの調整	44
ダブルクリック	
~ クイックポイント	41
~ タッチパネル	43
~ マウス	122

チ

調整(タッチパネル)	44
------------	----

テ

デジタルカメラ	136
デバイスドライバ	98
デリートキー	48
テンキー ボード	96, 123
テンキーモード	47
電源	36
電源の管理	76
電源を入れる	36
電源を切る	38
電話回線に接続する	80, 82

ト

盗難防止用ロック	29
ドライバ	98
ドラッグ	
~ クイックポイント	41
~ タッチパネル	43
~ マウス	122
取り出す・取り外す	
~ PC カード	108
~ 拡張 RAM モジュール	128
~ コネクタボックス	57
~ フロッピーディスク	63
~ フロッピーディスクユニット	60
取り付け	
~ CCD カメラ	103
~ CD-ROM ドライブ	110
~ PC カード	107
~ PHS	115
~ USB コネクタ	138

~外部ディスプレイ	131
~拡張RAMモジュール	126
~携帯電話	114, 115
~コネクタボックス	56
~シリアルコネクタ	136
~テンキーボード	123
~ハードディスク	139
~プリンタ	118
~フロッピーディスクユニット	59
~マウス	120

ナ

内蔵バッテリパック	31
内蔵マイク	25

ニ

日本語の入力	50
ニューメリカルロックキー	47
入力モードを切り替える	51
認証番号	31

ハ

ハードディスク	139
ハードディスクアクセス表示	33
ハードディスクの領域を設定する	200
廃棄	
~液晶ディスプレイ	24
~バッテリパック	70
ハウリング	28
バックスペースキー	48
発色数	87, 135
バッテリ	66
~交換する	71
~注意事項	70
~廃棄	70
バッテリ異常	69
バッテリ稼動時間	67
バッテリ残量が少なくなったとき	69
バッテリ残量表示	32, 68
バッテリ充電表示	32
バッテリ装着表示	32
バッテリチャージャ	96, 101
バッテリの充電時間	67
バッテリを充電する	66, 101

パラレルコネクタ	55, 197
----------	---------

ヒ

表示装置を切り替える	133
------------	-----

フ

ファンクションキー	49
フォーカスリング	102
フォーマット	13
プリンタ	96, 117
プリンタを接続する	118
プリントクリーンキー	49
フロッピーディスク	62
~お手入れ	65
~注意事項	63
~フォーマット	13
フロッピーディスクユニット	59
~注意事項	61
~を取り付ける	59
~を取り外す	60

フロッピーディスクユニット	
コネクタ	55
分岐アダプタ	81

ヘ

ページアップキー	47
ページダウンキー	47
ヘッドホン・ジャック	28
ペン	24
ペンホールダー	24

ホ

ポイント(マウス)	122
ポーズ/ブレークキー	49
ホームキー	47
保証期間	221
ボタン	34
ボリュームコントロール	93

マ

マイク	25
マイクイン・ジャック	29
マウス	96, 120, 122

マウスコネクタ	55
マウスの使いかた	122
マウスポインタ	40
マルチモニタ機能	223

メ

メール着信ランプ	34
メインメニュー	150
メモリ	96, 125
メモリの容量を確認する	130

モ

文字入力	50
モジュラーケーブルのコア	222
モジュラーコネクタ	26, 198
モジュラージャック	80, 82

ユ

ユーザー登録	15
--------	----

ラ

ラッチ	25
-----	----

リ

リカバリ CD-ROM 起動ディスク	12
~のコピー	12
リソース一覧	196

レ

レジューム	73, 75
レンズ	102
連絡先	185

ロ

ローゼット	80
ローマ字入力	51
録音時の音量設定	94

ワ

割り込み番号(IRQ)	197
ワンタッチボタン	25, 52
~アプリケーションを起動する	52
~割り当てを変更する	53

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国および他の国における登録商標です。
Intel は、米国インテル社の登録商標です。
Celeron は、米国インテル社の商標です。
@ nifty は、ニフティ株式会社の商標です。
K56flex は、Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。
その他の各製品名は、各社の商標または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

FMV-BIBLO MC3/45
本体 & オプションガイド
B3FH-5871-02-00
発行日 2000年2月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利については、
当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本はお取り替えいたします。  0002-2

本体 & オプションガイド

FMV-BIBLO



FUJITSU



このマニュアルはエコマーク認定の再生紙を使用しています。



T4988618875790